

法律學士從六位福原直道題字
大阪地方裁判所判事齋藤龍序文
前判事辯護士和泉漱三校閱
龍雲 上村萬次郎纂著

學理應用
問答
刑事訴訟法釋義

大阪 積善館發行

法律學士從六位福原直道題字
大阪地方裁判所判事齋藤龍序文
前判事辯護士和泉漱三校閱
龍雲 上村萬次郎 纂著

學理 應用 問答
刑事訴訟法釋義

大阪 積善館發行

序

刑法之理。精嚴深邃。不可輒解。然其原出於自然。故能尋繹探討之。則條緒秩然。一貫而不紊者。存焉。至於訴訟法。則規定治罪之方法者。比之刑法。乃有體與用之別。其理亦非若彼之深邃也。而其意義錯綜多端。苟非通覽前後。詳悉原委。則往往杆格而不通。是以誤其適用者。寧不在彼而在此。學者不可不察焉。坊間註釋訴訟法之書。甚多。然概不繁冗。則粗雜如足供吾人攻窮之用者。殆寥寥

矣。友人和泉君。偶携上村某氏所著。刑事訴訟法問答來。請予序。未讀其書。何得而序之。然姑就一斑見之。先學正條。而以問答之體。一々解釋其意義。似繁簡得要。足供攻窮之用者。况君既校閱之。爲其好著。蓋無疑矣。學者果能由斯篇通覽前後。詳悉原委。則庶幾乎可免彼杆格不通。動誤適用之弊也歟。於是乎序。

明治二十七年夏九月仲浣

齋藤龍

撰



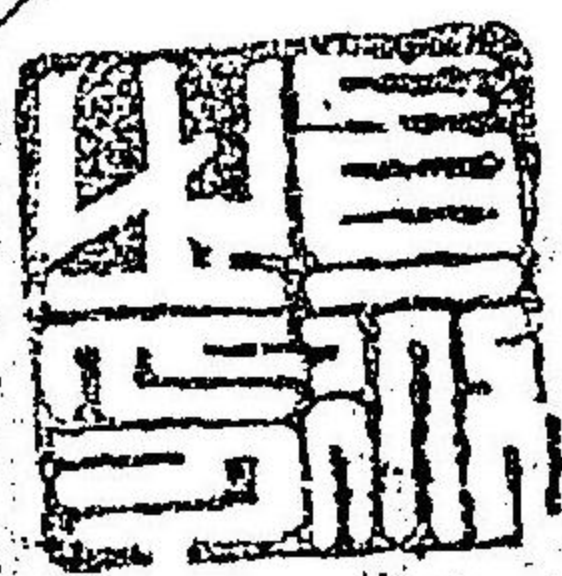
右
須
而
與
用

國典與學

馬

從六位法律學士

福永正



自序

余過々テ法律學ヲ學ビ斯學ヲ研究スルコト茲ニ數閱
 年從テ諸大家ノ著書ヲ繙讀スルコト亦鮮ナシトセス
 然リト雖モ未タ嘗ツテ余カ心ヲ満足セシメシモノ
 一モアルナシ素ヨリ其學說ニ於テハ深遠尙立論精
 綏ナルモノナキニシモアラスト雖モ是レカ爲メ却
 テ複雜ヲ來シ冗長ニ涉リ讀者ヲシテ五里霧中ニ彷徨
 セシムルノ嫌ヒナシトセス之ニ反シ唯リ簡易ヲ
 主トセシモノハ余リ簡單ニ失スル而已ナラス誤謬

疎略其趣旨那邊ニアル乎ヲ知ルニ苦マシム是レ余
カ不肖ヲ願ミルノ暇ナク此著アル所以ナリ識ヲス
此著讀者ニ満足ト裨益トヲ與ヘ得ルヤ否哉

明治廿有七甲午之歲猛夏

浪華土佐堀河畔ニ於テ

龍雲居士識

例言

- 一本書ハ素ト初學者ノ爲メト各受験者ノ受験ノ要ニ供センカ爲メトニ整
ハセリ故ニ可成煩ニ涉ラス簡ニ失セス其中ヲ得ンヲ是レ努メタリ
- 一本書ハ先ツ始メニ正條ノ大意ヲ舉示シ次ニ其要點ニ付キ問答ヲ起シ平
易簡明ナル文章ヲ以テ法理上ヨリ之レカ解釋ヲ下シ親切懇到一々其理
由ヲ附スルヲ努メタリ是レ畢竟一ハ以テ初學者ニ解シ易カラシメン
カ爲メ一ハ以テ受験者ノ記憶ニ便ナラシメシカ爲メナリ
- 一正文中少シク解シ難キ法律語句ハ上欄ニ掲ケ略解ヲ施セリ是レ著者カ
初學者ニ對スル婆心ニ外ナラサルナリ
- 一本法ト他ノ法律規則ト相關聯セルモノハ其箇所若クハ法文ヲ上欄ニ提
起シテ以テ參考ノ便ニ供シタリ
- 一本書ハ實務家ノ便益ヲ圖リ刑事訴訟ニ必要ナル書式ヲ附録ト爲シタリ
- 一著者ノ趣旨トスル所以上列記セシカ如シト雖モ著者元ト學無ク識無ク

加フルニ拙文ナレハ或ハ語句誦誦……或ハ誤字脱字等ノ爲メ讀者
 ニ了解シ難キ箇所少ナカラサランコト恐ル若シ夫レ解シ難キ點アラハ
 讀者請フ是正スル所アレ焉

著 者 誌

問應學 答用理 刑事訴訟法釋義目錄

緒言……………一

第一編 總則……………三

第二編 裁判所……………七十二

第一章 裁判所ノ管轄……………全

第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避回避……………九十五

第三編 犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審……………百〇四

第一章 捜査……………全

第一節 告訴及ヒ告發……………百十

第二節 現行犯罪……………百二十七

第二章 起訴……………百三十九

第三章 豫審……………百四十八

第一節 令狀……………百五十二

第二節 密室監禁……………百八十五

第三節 證據……………百九十

第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質……………百九十七

第五節 檢證、搜索及ヒ物件差押……………二百六

第六節 證人訊問……………二百廿二

第七節 鑑定……………二百四十三

第八節 現行犯ノ豫審……………二百五十

第九節 保釋……………二百六十二

第十節 豫審終結……………二百七十二

第四編 公判……………二百九十四

第一章 通則……………二百九十四

第二章 區裁判所公判……………三百三十八

第三章 地方裁判所公判……………三百六十五

第五編 上訴……………三百七十三

第一章 通則……………三百七十三

第二章 控訴……………三百八十二

第三章 上告……………四百一

第四章 抗告……………四百二十七

第六編 再審……………四百三十五

第七編 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續……………四百四十七

第八編 裁判執行、復權及ヒ特赦……………四百五十四

第一章 裁判執行……………四百五十四

第二章 復權……………四百五十九

第三章 特赦……………四百六十六

特14
921



刑事訴訟法釋義

龍雲

和泉漱三校閱

上村萬次郎纂著

緒言

凡ノ法律ニハ公私、主従ノ區別アリ公法トハ國ト國トノ關係及ヒ國ト民トノ關係ヲ規定シタルモノヲ云ヒ私法トハ民ト民トノ關係ヲ規定シタルモノヲ云フ而シテ其國ト國トノ關係ヲ規定シタルモノハ國際公法ニシテ(國際公法即チ萬國公法ヲ以テ純粹ノ法律トナスヤ否ヤニ付テハ古來學者間多少ノ議論アリテ未ダ一定セズト雖今茲ニハ假ニ法律トナス)國ト民トノ關係ヲ規定シタルモノハ憲法、行政法、刑法、刑事訴訟法ヲ云ヒ民ト民トノ關係ヲ規定シタルモノハ民法、商法、民事訴訟法ヲ云フナリ夫レ然リ然レモ更ニ又之ヲ主従ノ二法ニ區別セハ刑法、民法、商法ノ如キハ主法ニシテ民事、刑事、訴訟法ハ從法ナリトス蓋シ此二法ハ其關係スル所恰モ機關車ノ接手ニ於ルカ如ク互ニ相俟ツテ始メテ其運轉ヲ爲シ其効用ヲ

○綱目、刑事訴訟法ノ解

顯ハスモノナレバ二者孰レヲ重シトナシ亦何レヲ輕シト爲ス能ハス若シ強ヒテ之ヲ輕重ヲ問ハ余ハ却テ訴訟法ヲ重シト爲サ、ル可カラス何トナレバ縱シ其主ナル刑法不善不備ヲ極メ罪惡ノ量ヲ過大ニシ懲罰ノ度ヲ過重ニスト雖是レ唯タ罪ト刑トノ權衡ヲ失スルノミニシテ其實罰ス可カラサル所爲ヲ罰スルモノニアラス唯タ其懲罰ノ度ヲ誤テタル而已敢テ無辜ヲ罰スルカ如キトナシ反之若シ訴訟法ニシテ不完全ナリトセンカ如何ニ金科玉條ノ刑法ヲ有スルモ或ハ惡人ナシテ空シク法網ヲ免レシメ或ハ善人ナシテ無辜冤罪ニ因マシムルノ恐レナシトセズ是レ余カ訴訟法ヲシテ其要刑法ヨリ重シト爲スモ決シテ輕シトセサル所以ナリ佛國刑法博士烏呂德蘭氏モ言ヘリ訴訟法善テ極ムレハ假令刑法ハ不正ナルモ其弊害ヲ生セサルヲ常ニ英國ニ於テ目撃スル所ナリト訴訟法ノ至重至要ナルヲ夫レ如斯シ要スルニ此訴訟法ハ公法中ノ從法ニシテ其機關車ナル刑法ヲ運轉活用セシムル所ノ技手即チ其手續ヲ規定シタル法律ナリト云フ可シ

第一編 總則

公訴トハ其所
爲社會ノ公益
ヲ害シタルト
檢事カ裁判所
ニ向テ犯人ヲ
刑ニ處スヘシ
ト請求スル所
ノ訴ヲ云フ

第一條 公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルヲ目的トスルモノニシテ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢事之ヲ行フ

○本條ハ公訴ノ目的及ヒ之ヲ行フ手續ヲ規定シタルモノトス

問 公訴ノ目的如何

答 本條ニ於テ公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルヲ目的トスアリ犯罪ヲ證明

ストハ其犯罪事實ヲ證明スルヲ即チ罪狀ヲ取調ブルト云意ニシテ刑ヲ適用スルトハ犯罪ヲ證明シ以テ有罪ト認メタルト刑罰ヲ科スルト云フ義ナリ而シテ公訴ノ目的ニ就テハ諸學者ノ議論紛々擾々トシテ未タ一定セス或ハ曰ク公訴ノ目的ハ犯罪ノ證明ト刑ノ適用トノ二個ニアリト或ハ曰ク單ニ刑ノ適用而已ニアリト蓋シ以上ノ二説タルヤ各々一理ナキニアラスト雖公訴本來ノ性質ヨリ推考スルトハ其真正直接ノ目的ハ單ニ刑ノ適用而已ニアリト云フモ敢テ不可ナカルヘシ何トナレハ抑社會カ社會ノ安寧秩序ヲ擾亂シタル犯罪者ニ對シ公訴ヲ起ス所以

ヲモノハ必竟其犯罪者ニ刑罰ヲ加ヘ以テ其擾亂セラレタル秩序ヲ恢復シ且ツ之ヲ維持センカ爲メニ外ナラサルナリ夫レ然ラハ唯タ其犯罪ヲ證明シ之ヲ社會公衆ニ發表スル而已ニテハ未タ以テ公訴ノ目的ヲ達シタリト云フヘカラス否公訴ノ目的ヲ達セサル而已ナラス社會ニ取りテ寸効ナク却テ徒勞ト冗費トナ贖ス而已故ニ公訴ノ目的ヲ達セント欲セバ必スヤ刑ノ適用ヲ爲サ、ルヘカラス固ヨリ刑ノ適用ヲ爲スニハ亦必ス先ツ犯罪事實ノ有無ヲ證明セサル可カラサルヤ論ヲ待タス然レハ之ヲ以テ直チニ公訴ノ目的ト速定スル能ハス則チ犯罪ノ證明ハ公訴ノ目的ニアラスシテ其目的タル刑ノ適用ヲナス爲メニ必要欠クヘカラスアルノ手段ニ過キササルヲ以テナリ然ラハ公訴ノ目的ハ單ニ刑ヲ適用スルニ止リ犯罪ノ證明ヲ以テ公訴真正ノ目的ト爲ス能ハサルヤ明カナリ然ルニ論者アリ難シテ曰ク若シ夫レ公訴ノ目的ヲシテ單ニ刑ノ適用ニノミ止ラシメハ數罪俱發ノ場合ニ於テ甚タ不都合ヲ生スルニアラズヤ則チ前發ノ重キ罪ニ刑ヲ科シタルトハ後發ノ輕キ罪ニ對スル公訴ハ已ニ消滅シタリト爲サ、ルヘカラス何トナレハ

發ノ罪輕キトハ刑法第百條乃至第百二條ノ規定ニ因リ一ノ重キニ從テ處斷スルモノナレハ到底刑ヲ科スルヲ得ス然ルニ尙ホ此場合ニ於テ實際後發ノ罪ヲ證明スルハ是レ公訴ノ目的單ニ刑ノ適用而已ニ止ラス亦以テ犯罪ノ證明ヲモ目的トスルモノニアラスヤト蓋 此駁說タルヤ外面皮想ノ謬論タルニ過ス何トナレハ一ノ重キニ從テ處斷スル刑法規定ノ精神ハ一ノ重キ罪而已チ罰シテ他ノ輕キ罪ハ毫モ問ハス全ク之ヲ無罪ニ附スルト云フニアリス茲ニ罪アレハ則チ茲ニ其刑アリトノ原則ニ從ヒ法律上罰スヘシト定メタル其罪ハ素ヨリ個々之ヲ問ヒ其刑ハ各々之ヲ適用スト雖數罪俱發ハ數多ノ所爲アリ數多ノ罪アルヲ以テ一々其刑ヲ科スルキハ假令輕微ノ犯罪ト雖モ犯數累ナルニ應シ刑期長ク且ツ重大ナルニ至リ甚タ苛酷ニ流レ四五ノ違警罪ハ或ハ二三ノ輕罪ヨリモ其刑重ク二三ノ輕罪ハ一ノ重罪ヨリ罪質輕キモ尙ホ其刑ハ同一トナリ所謂刑ト罪トノ權衡ヲ失スルニ至ルヲ以テ固ヨリ其刑ハ一々適用スト雖唯タ其刑ノ執行ハ一ノ重キ罪而已ニ止メ殘余ノ輕キ罪ハ之ニ吸收セシムルノ意ニ外ナラス此ヲ以テ數罪俱發ノ場

合ニ於テモ尙ホ殘餘ノ輕キ罪ヲモ證明セサルヘカヲサル必要アリ加之ナラス後發ノ罪ヲ證明スルハ前發ノ罪ニ比較シ其輕重如何ヲ知ルカ爲メニシテ其輕重ノ如何ヲ知ルハ則チ一ノ重キモノヲ撰ヒ之ニ刑ヲ適用シ而ノ其適用シタル刑ヲ執行センカ爲メニ必要ナリ果シテ然ラハ假令前發ノ重キ罪ニ刑ヲ科シタリト雖後發ノ輕キ罪ハ依然トシテ存在シ決テ公訴權消滅スルモノニアラス是ニ因テ之ヲ觀レハ公訴ノ目的ハ單ニ刑ノ適用ニアリトスルモ豈ニ何ソノ不都合カ是レアラシヤ唯ニ不都合ナキ而已ナラス最モ法理ニ適シタルモノト思考スルナリ

問 法律ニ定メタル區別トハ如何ナル場合ヲ云フ乎

答 罪ノ種類即チ重罪、輕罪、違警罪ノ區別ニ從ヒ裁判所構成法ニ依リ訴フル處ノ裁判所各其管轄ヲ異ニスルヲ以テ檢事公訴ヲ行フニ當リテモ又必ス此ノ區別ニ從ヒ重罪ハ地方裁判所、輕罪ハ地方裁判所又ハ區裁判所違警罪ハ區裁判所ニ爲サ、ル可カラサル旨ヲ指示シタルモノトス(裁判所管轄ノ詳細ハ第三十五條附屬ニ付テ可看)

問 私訴ハ被害者ニ屬スト書シ公訴ハ檢事之ヲ行フト爲シタル理由如何

答 抑モ私訴ハ一人ノ權利ヲ侵害シタルト始メテ起生スルモノニシテ其權利タルヤ被害者ニ屬ルモノナレバ之カ損害ノ賠償ヲ爲スト贖物ノ返還ヲ要ムルト又之ヲ放棄スルト否トハ一ニ被害者ノ隨意タリ然レハ公訴ハ然ラス公訴ハ素ト社會ノ權利ヲ傷害セラレタルトキ其犯法者ニ對シ刑罰ヲ要ムルノ訴ナレバ公訴ノ權ハ社會ニ屬シ檢事ハ社會ノ代人トシテ之ヲ行フニ止ルモノナレハ檢事ハ之カ所有權ヲ有スルモノニ非ズ唯タ法律ニ從ヒ職務上之カ提起、實行ヲ爲シ得ル而已ナリトス是レ私訴ハ被害者ニ屬スト書シ公訴ハ檢事之ヲ行フト特記シタル所以ナリ

問 然ラバ公訴ノ提起ト實行トハ如何ナル差違アル乎

答 公訴ノ提起トハ犯罪事件ヲ判事ニ起訴スルヲ云フモノニシテ實行トハ公訴ノ目的ヲ達センカ爲メニ行フ處ノ必要ナル總テノ手續ヲ云フ蓋シ公訴ノ提起ハ犯罪者ニ對シ刑罰ヲ求ムル最初ノ手續ニシテ其結果タルヤ裁判所ヲシテ單ニ公訴ヲ受理セシムル而已ニ過キサレハ實行ハ是ノ提起ニ次テ行フ諸多ノ手續即チ檢事

私訴トハ公訴
ニ對スル名稱
ニシテ被害者
カ犯人ニ對シ
其犯罪ニ因リ
蒙リタル損害
ノ賠償、贖物
ノ返還ヲ請求
スル所ノ訴ヲ
云フ

贖物トハ不正
品即チ盜品ノ
如キヲ云フ

カ豫審廷ニ於テ被告人訊問、證人呼出、物件差押、及ヒ密室監禁等ノ處分ヲ請
求スルカ如キ或ハ公判廷ニ於テ刑ノ適用ヲ求メ又ハ其判決ニ對シテ不服、上訴
スルカ如キ皆テ實行ナリ而シテ此二者ヲ爲スノ權ハ元ト檢事ニ屬スルモノナレド
或ル必要ノ場合ニ於テハ豫審判事之ヲ爲シ(本法律第四十三條參看)又ハ司法警察官、
憲兵將校下士及ヒ林務官之ヲ爲スヲアリ(裁判所構成法第十八條參看)然レド是レ唯々
例外ニシテ變則ナリトス

第二條 私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贖物 返還ヲ目 的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス

○本條ハ私訴ノ發生目的及ヒ其之レカ屬スル人ヲ規定シタルモノトス

問 私訴權ノ發生如何

答 凡ソ犯罪ニハ社會ノ公益ノミチ害スルモノアリ或ハ又公益ヲ害シ併セテ一已
人ノ私益ヲ害スルモノアリ其單ニ公益ヲ害スルニ止ルモノハ公訴權ヲ生シ公私
ノ利益ヲ併セ害スルモノハ公訴權ヲ生スルト共ニ尙ホ他ニ私訴權ヲ生スルナリ

例へハ茲ニ甲者アリ平生ノ憤恨ヲ晴サンカ爲メ乙者ノ家屋ニ放火シタリトセン
トセンニ其放火ノ所爲ハ所謂社會ノ公益ヲ害シタルモノナルニ付キ直チニ公訴
權ヲ生ス而シテ其放火ニ因リ乙者ノ家屋、財産ヲ燒盡シタルハ乙者タル一己人
ノ財産權ヲ傷害シタルモノナレハ乙者ニ於テハ之ニ對スル私訴ノ權利ヲ有スル
ガ如ク苟モ其犯罪ニシテ社會ノ公益ヲ害シ併セテ私益ヲ害シタルト即チ一己人
ニ對シ損害ヲ與ヘタルトハ私訴ノ權利ヲ發生スルモノトス

問 犯罪ニ因リ生シタル損害トハ如何

答 私訴ヲ爲スニハ必ス損害ナカラサル可カラス而シテ其損害タルヤ又必ス犯罪
ニ起因シタルモノナラサル可カラス故ニ若シ其損害ニシテ犯罪以外ノ所爲ニ起
因シタルトハ私訴ハ決テ成立ス可キモノニアラス例へハ茲ニ或ル犯罪アリトセ
ンニ檢事誤リテ甲ヲ犯人ト思料シ豫審判事ニ之カ審査ヲ請求シタリ然ルニ豫審
判事ニ於テ之カ審査ヲ遂ケタル所其犯罪ハ甲ノ所爲ニアラスシテ乙ノ所爲タル
トヲ發見セシテ甲ニ對シテハ直チニ免訴ノ言渡ヲ爲シタリ如斯場合ニ於テ

假令甲ハ其嫌疑ヲ蒙リ拘留サレタルカ爲メ大ナル損害ヲ受ケタリト雖乙ニ對シテ私訴ヲ爲スヲ得ス何トナレハ甲ノ損害ハ元ト檢事ノ誤認ニ出テタルモノニシテ乙ノ犯罪ニ起因シタルモノニ非サレハナリ且又假令其損害犯罪ニ因リテ生シタル場合ト雖即チ前例ニ於テ乙者ノ犯罪ノ爲メニ空シク拘留サル、ニアラサレハ甲者ハ將ニ若干ノ利益ヲ得シナルハシト云フカ如キ唯タ其利益ノ希望ヲ失ヒタルニ過キサレトニ於テハ其私訴成立セス何トナレハ元來希望ハ不確然ナルモノニシテ果シテ其希望シタル利益ヲ得ルヤ否ヤハ未定ニ過キサレハナリ之ヲ要スルニ私訴ヲ爲スニハ必ス損害アリ而シテ其損害ハ又必ス犯罪ニ原因シ現ニ損害ノ生シタル時ナラサル可カラサルナリ

問 私訴ノ目的及ヒ損害賠償ト贖物ノ返還トノ差違如何

答 私訴ハ公訴ト同シク其原因犯罪ニ基クモノナレモ必ス被害者カ損害セラレタル自己ノ利益ヲ恢復センカ爲メニ訴フルモノナレハ其目的トスル所敢テ刑罰ヲ求ムルニアラスシテ損害ノ賠償、贖物ノ返還ヲ求ムルニアルコト固ヨリ言ヲ俟

タスシテ明カナリ夫レ然リ然ラハ則チ損害ノ賠償及ヒ贖物ノ返還トハ果シテ如何ナルモノナルヤ蓋シ損害ノ賠償トハ其損害ノ財産ニ係リ或ハ身体、名譽ニ係ル場合ト否トチ間ハス金錢ヲ以テ之カ償ヒテ爲サシムルヲ謂ヒ贖物ノ返還トハ押奪セラレタル物件ノ現ニ存在スル物件其物ヲ取戻スチ云フナリ故ニ若シ其贖物ニシテ現ニ存在セサル場合ニ於テ假令相當ノ評價ヲ以テ之ヲ拂ハシムルコトアルモ是レ即チ贖物ノ返還ニアラスシテ損害ノ賠償トナルナリ加之ナラス損害ノ賠償ハ被害者、原告人トナリ民事裁判所ニ訴フルカ又ハ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ私訴ヲ爲シ其損害ヲ請求スルニ非サレハ判事ハ犯人ニ對シテ其賠償ノ言渡ヲ爲スヲ得ス然レモ贖物ノ返還ニ至リテハ被害者ノ請求アリタルトハ勿論假令請求ナシト雖或ル場合ヲ除クノ外(刑法第四十八條第二項同)直チニ之ヲ被害者ニ還附スルモノトス是レ二者ノ差違アル所以ナリ

問 民法ニ從ヒ被害者ニ屬スト特記シタル理由如何

答 苟モ他人ノ爲メニ損害ヲ蒙リタルトハ假令其所爲刑法ニ觸レスト雖損害ノ賠

償ヲ目的トシテ起訴スルノ權利アルヤ明ラカナリ然レモ其損害タルヤ社會公衆ノ利害休戚ニ關係セス獨リ被害者自己一身ニ係ルモノナレバ被害者ニ於テ之ヲ訴ヘ以テ賠償ヲ求メント欲セハ之ヲ求メ得ヘク若シ又之ヲ求ムテ欲セサレハ或ハ放棄シ或ハ和解スルモ敢テ差支ナク即チ訴權ヲ行フト否トハ一ニ被害者ノ隨意ニシテ他人又ハ裁判所ノ干涉ヲ受クヘキモノニアラサルハ素ヨリ理ノ當然ニシテ又タ民法ニ規定セル原則ナリ蓋シ私訴ハ其原因犯罪ニ基クモノナレハ刑法ニ觸レサル純然タル民事ノ訴ト稍々其性質異ナリト雖其實被害者カ自己ノ蒙リタル損害ノ賠償ヲ求ムルノ訴ニ外ナラサレハ民事ノ訴ト同シク民法ノ原則ニ從ヒ訴權ノ自由被害者ニ屬スルヲ至當ナリトス是レ本條ニ於テ私訴ハ公訴ノ如ク檢事之ヲ行フト云ハスシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬スト特記シタル所以ナリ

問 私訴ト通常民事ノ訴トハ如何ナル差違アル乎

答 私訴ト通常民事ノ訴トハ其目的及ヒ一己人ノ私益ヲ害スル點ニ至リテハ敢テ異ナルコトナシト雖加害者ノ所爲一ハ以テ犯罪ニ起因シ一ハ以テ犯罪ニ起因セス

告訴、私訴ノ
拋棄トハ被害
者ニ於テ始メ
ヨリ默許シ居
ルカ又ハ一旦
訴ヘタルモ願
下ヲ爲シタル
カ如キ場合ヲ
云フ

即チ通常民事ノ訴ハ刑法ニ觸レス單ニ民事上不正ノ所爲ヨリ出テタルモノナレハ各々其損害ノ因テ生スル原由ヲ異ニス故ニ民事ノ訴ハ民事裁判所ニアラサレハ之ヲ訴ユルコト能ハサレ私訴ハ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ之ヲ爲シ或ハ民事ノ訴ト同シク公訴ニ附帶セスシテ民事裁判所ニ之ヲ訴ユルコト得加之ナラス民事ノ訴ハ民法ノ規定ニ從ヒ其時効三十年間ナリト雖私訴ハ本法ノ規定ニ從ヒ其原因タル犯罪ノ種類ニ應リテ六月若クハ三年若クハ十年ニシテ其訴權消滅シ期滿免除トナルナリ但シ通常民事上ノ訴即チ民事裁判所ニ訴ヘ以テ損害ノ賠償、贖物ノ返還ヲ請求スルコト得ルハ矢張り三十年間ナリトス是レ即チ二者ノ差違アル所以ナリ

第三條 公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ルモノニアラス又告訴

私訴ノ拋棄ニ因テ消滅スルモノニアラス但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニアラス

○本條ハ公訴ノ發生及ヒ法律ニ於テ特ニ定メタル場合ヲ除ク外公訴ハ告訴、

私訴ノ拋棄ニ因テ消滅セサルヲ即チ公訴ハ不羈獨立ナル旨ヲ規定シタルモノトス

問 公訴獨立ノ理由如何

答 元來公訴ハ不羈獨立ニシテ其訴權社會ニ專屬スルモノナレハ一旦檢事カ犯罪アルコトヲ認知シタル以上ハ假令被害者ノ告訴ナシト雖直チニ之ヲ訴ヘ犯罪者ヲ求刑シ以テ社會ノ秩序ヲ回復セサル可カラズ即チ毆打、竊盜ノ如キ場合ニ於テ之レカ被害者タルモノ他日ノ復讐ヲ恐ル、カ又ハ非常最高ノ仁惠ニ依リ之ヲ訴ヘ出テサルガ如キコトアリト雖社會ハ之ヲ逮捕シ以テ刑ノ適用ヲ要メサルヘカヲサルナリ何トナレハ彼ノ毆打、竊盜ノ所爲タルヤ獨リ被害者ヲ害スル而已ニ止ラス又タ社會ノ秩序ヲ紊亂スルノ所爲ナルヲ以テ社會ハ一己人ノ如何ヲ顧ミス直チニ之ヲ公訴シ犯罪者ヲ求刑セサル可カラズ若シ然ラスンハ大惡無暴ノ律白晝ニ横行シ亂暴浪籍至ラサル所ナキカ如キ一大弊害ヲ生スルニ至ラン果シテ然ラハ社會ハ如何ニシテ安寧ヲ維持スルヲ得ンヤ是レ即チ公訴ハ不羈獨立ニシ

附帶トハ附從

ト云フ意ナリ

第三者トハ對

手外ノ者ニシ

テ其訴訟ニ關

係アル人ナ云

フ

參加トハ與カ

リ加ハルヲ云

フ

◎民事訴訟法

第五十一條 他人ノ間ニ權利拘束ト爲リタル訴訟ノ目的物ノ全部又ハ一部分ヲ自己

テ其訴權社會公衆ニ屬シ法律ニ於テ特ニ定メタル場合ヲ除クノ外被告人ノ告訴ヲ待テ起ルモノニアラス又告訴私訴ノ拋棄ニ因テ消滅スルモノニアラスト爲シタル所以ナリ(法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ第六條ニ於テ詳説スレハ今茲ニ略ス)

第四條 私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ニ付キ第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ其公訴ニ附帶シテ之ヲ爲スヲ得

第三者ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公訴附帶ノ私訴ニ參加スルヲ得

○本條ハ第一項ニ於テ私訴ヲ公訴ニ附帶シテ爲スヘキ時期及ヒ其裁判スヘキ金額制限ノ有無如何ヲ規定シ第二項ニ於テハ其訴訟事件ニ關係アル第三者ノ權利ヲ規定シタリ

問 私訴ヲ公訴ニ附帶シテ爲スヲ得ル理由如何

答 私訴ハ元ト其性質民事ニ屬スルモノナルヲ以テ民事裁判所ニ訴ヘサルヘカラサルハ裁判所組織上ノ原則ナリト雖通常民事ノ訴トハ又タ少ク異ナリ即チ其

ス然ルニ事實ヲ審査ヲ爲スハ控訴院ニ止リ大審院ハ唯タ法律適用ノ當否如何ヲ
 審判スル而已ニ止ルモノナレハ既ニ控訴院ノ判決ナリタル上ハ假令大審院ニ上
 告中ナリトスルモ最早事實ノ審査ヲ爲スニ由ナケレハ私訴ヲシテ之ニ附帶セシ
 ムルヲ能ハス且ツ又タ既ニ第一審ニ於テ確定判決アリタルモハ私訴ヲシテ公訴
 ニ附帶セシムルノ實益アラサレバ第二審判決確定後私訴ヲ爲ス能ハサルヤ論ヲ
 俟タサレハナリ

問 第三者ノ訴訟參加トハ如何及之ヲ爲スノ理由

答 第三者ノ訴訟參加トハ始メヨリ訴訟ニ干與セサリシ人カ他人ノ現ニ爲シ居ル
 訴訟自己ノ利害ニ關係アルヲ以テ其訴訟ニ加入スルヲ云フ例ヘハ甲乙二人法廷
 ニ於テ或ル物件ノ所有ヲ爭フニ當リ第三者ナル丙其中ニ投シ該物件ノ全部又ハ
 一部ハ自己ノ所有物ニ甲乙二者執レソモノニモアラスト主張スルカ如キ(主
 參加)或ハ又甲或ル物品ヲ乙ヨリ買取タルニ當リ丙ナルモノヨリ甲ニ對シ該物
 品ハ自己ノ所有物トシテ其物品取戻ノ訴ヲ起シタル場合ノ如キニ於テ乙ハ最初

ノ賣主ナルニ付キ若シ丙ノ勝訴トナルモハ損害ヲ蒙ルニ依リ即チ其代價ヲ甲
 ニ辨償セサルヘカヲサルニヨリ甲ヲ補助スルカ如キ(從參加)場合ヲ云フナリ
 若シ夫レ如斯場合ニ於テ其訴訟ニ關係ヲ有スル第三者ヲシテ該訴訟ニ參加スル
 ヲ得サルトセン乎其爭訟中ノ物品ハ實際自己ノ所有物ナルニモ拘ハラズ之ヲ取
 戻スヲ得ス其久シキ爭訟中ニハ或ハ其物件他ニ轉讓シテ踪跡ヲ失ヒ之ニ關係
 アル第三者ハ少カラサル利害ノ影響ヲ蒙ルコトアルヘク或ハ又タ自己ノ賣却シタ
 ル物件ニ對シ全ク不正物ニ非サル事實ヲ證明スルコト能ハスシテ遂ニ辨償ノ義務
 ナ負擔セサルヘカヲサルカ如キ不幸ヲ生スルニ至ラン是レ第三者ヲシテ其訴訟
 ニ參加シ自己權利ノ保全ヲ計ルコトヲ許シタル所以ナリ

第五條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖民法ニ從ヒ
 被害者ヨリ賠償、返還ヲ要ムル妨礙ト爲ルコトナカル可シ

○本條ハ假令被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ト雖被害者ノ民法上
 ノ要求權ニハ少シモ關係セサルコトヲ規定シタルモノトス

問 被告人ニ對シ免訴又ハ無罪ノ言渡アリタルト雖私訴消滅セサル理由如何

答 既ニ再三述べタルカ如ク私訴ハ犯罪ニ原因スルモノナルヲ以テ其主タル公

訴ニ付キ免訴又ハ無罪ノ言渡アリタルト雖私訴トシテ之ヲ刑事裁判所ニ訴ルコト能ハサルハ素ヨリ論ヲ待タズ然レモ是レカ爲メ私訴權全ク消滅スルモノニ非ラズ即チ民法ニ從ヒ民事裁判所ニ訴ヘ以テ加害者ニ對シ損害ノ賠償ヲ要ムル妨礙ト爲ルコトナシ何トナレハ何人ト雖他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ之ヲ償フノ責任アルハ民法上動スヘカラサル一大原則ナレハ假令犯罪成立セスト雖其損害ヲ蒙ルタル事實明白ナルトモ之ヲ請求スルノ權利アルヤ明ラカナレハナリ是レ正文中民法ニ從ヒ云々ノ記載アル所以ナリトス

問 免訴ノ言渡ト無罪ノ言渡トノ差違如何

答 免訴ノ言渡ハ豫審ニ於テ犯罪ノ證據十分ナラサルトモ又ハ其他ノ理由アル際ニ於テ之ヲ爲スト雖無罪ノ言渡ハ事實ノ審理ヲ盡シ事件刑法ニ觸レスト爲スカ若クハ無罪ノ證據アルトモ公訴ニ於テ爲スモノトス即チ免訴ハ被告事件ヲ公判ニ

告訴ヲ待テ受理スヘキ事件トハ脅迫罪、略取誘拐罪、猥褻姦淫罪、(即チ有夫姦又ハ強姦罪) 準毀罪、牛馬外ノ家畜ヲ殺ス罪、罵詈嘲罵罪、專賣特許ヲ侵ス罪等ヲ云フ

第六條 公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

第一 被告人ノ死去

第二 告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄

第三 確定判決

第四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止

第五 大赦

第六 時效

○本條ハ第三條ノ變例即チ公訴權ノ消滅スル場合ヲ規定シタルモノナリ

問 被告人ノ死去ニ因リ公訴權ノ消滅スル理由如何

答 夫レ刑罰ハ犯人ヲ懲戒シテ善ニ導キ再犯ヲ行ハシメサルヲ以テ目的トスル所

確定判決トハ
裁判確定シテ
再ヒ動スヘカ
ラサルモノテ
云フ
大赦トハ或ル
場合ニ於テ天
皇ノ大權ヲ以
テ犯罪ヲ赦免
スルヲ云フ
時效トハ法律
上一定ノ時日
ヲ經過シタル
カ爲メニ訴權
ノ消滅スルヲ
云フ

已ナラス向ホ久刑ハ一身ニ止ルヲ以テ性質ト爲ス果シテ然ラハ其被告人死去シ
タルハ刑ノ適用ヲ受クルモノナシ既ニ之ヲ受クルモノナキニ之レカ公訴ヲ起
スモ其目的ヲ達スルヲ能ハス唯タニ其目的ヲ達スルヲ能ハサル而已ナラス若シ
強ヒテ是カ公訴ヲ爲スハ毫モ社會ニ寸效ナクシテ却テ徒勞ト冗費トヲ來スノ
恐レアリ且ツ夫レ罪ノ疑ハシキハ罰スヘカヲ爲トハ訴訟法上ノ原則ナリ然ルニ
若シ死去シタル被告人ヲモ尙ホ罰スヘシトセン乎死去ノ被告人ハ其事實ヲ辨護
スルヲ能ハサルヲ以テ眞正ノ事實ヲ得ル能ハス然リ之ヲ得ル能ハサルニ尙ホ之
ヲ罰スルハ所謂罪ノ疑ハシキモノヲ罰スルモノニシテ訴訟ノ原則ニ背反スルモ
ノト云フヘシ是レ被告人ノ死去ヲ以テ公訴權消滅ノ原由ト爲ス所以ナリ

体刑ニ於テ被告人ノ死去ヲ以テ公訴權消滅ノ原由ト爲ス理由ハ以上已ニ述ヘタ
ルカ如シ然ラハ罰金、沒收ノ刑ハ如何罰金、沒收ノ刑ハ被告人ノ身体ニ關ハラ
スシテ其財産ニ係ハルモノナレハ假令被告人死去セシ後ト雖其相續人ニ對シテ
之ヲ行フヲ得ヘケレハ其公訴權消滅セサルカ如シ然レモ余ノ考フル所ニ依レ
ハ矢張り被告人ノ死去ト共ニ其公訴權ヲ消滅セシメサルヘカラス何トナレハ既
ニ其言渡ノ基礎タル訴訟ニシテ消滅シ其言渡ノ無効トナリタル以上ハ政府ハ之
ヲ徵收スルノ權利ナキ而已ナラス又タ若シ相續人ニ及フモノトセンカ其相續人
ハ之レカ爲メ應分ノ痛苦ヲ感スルヤ必セリ然ラハ是レ被告人以外ノ者ニ刑罰ヲ
科スルモノニシテ刑ハ一身ニ止ルト云ヘル刑ノ性質ニ反スレバナリ但シ未ノ禁
賣買物又ハ世安ヲ害スルニ因リ破壊ス可キ物件ノ如キハ假令被告人ノ死去セシ
後ト雖尙ホ之ヲ沒收スルヲ得蓋シ是等ノ如キ物件沒收スルハ毫モ其人ニ關セ
スシテ唯タ其物而已ニ關スルヲ以テナリ

然ハ數人共犯ノ場合ハ如何此場合ニ於テハ假令正犯若クハ從犯一人ノ死去シタ

ルキト雖其正犯若クハ從犯又ハ他ノ正犯若クハ從犯ニ對シテハ依然トシテ其公訴權存在スルモノトス何トナレハ元來被告人ノ死去ヲ以テ公訴權消滅ノ理由ト爲ス所以ノモノハ唯タ其被告人一人ノ爲メニ爲スモノニシテ他ノ共犯人ニマテ及ホスヘキモノニアラサレハナリ然レモ或ハ其共犯人ノ死去ヲ以テ公訴權ヲ消滅セシムル例外ナシセス即チ有夫姦ノ場合ノ如キ是レナリ有夫姦ノ場合ニ於テ姦婦已ニ死去シタルハ其姦夫ニ對スル公訴權共ニ消滅スルモノトス其理由タルヤ尙ホ此場合ニ於テモ公訴ヲ爲シ之ヲ罰スルヲ得ルトセバ已ニ辯護權ナキ死去者ニ對シテ犯罪者タルノ不名譽ト恥辱トヲ與ヘサルヘカラサルニ至ラン果シテ然ラハ公訴消滅ノ理由タル刑ハ一身ニ止ルト罪ノ疑ハシキハ罰スヘカラストノ主旨ニ反スルモノト云フヘシ之ニ反シ姦夫ノ死去タシルハ其姦婦ニ對スル公訴權依然存立シテ消滅スルモノニ非ス何トナレハ苟モ有夫ノ婦ニシテ本夫以外ノ男子ト姦通シタル證アルニ於テハ其對手ノ誰レタルヲ問ハス本夫ニ對シテ其罪十分成立スルカ故ニ假令其婦ノ姦通ヲ證明シ之ヲ罰スルモ是レカ爲

メ已ニ死去シタル姦夫ニ對シテ犯罪者タルノ汚名ヲ蒙ラシムカ如キ不都合アラサレハナリ(有夫姦夫ハ不可分のモノナレハ假令姦夫死去シタルキト雖矢張り其姦婦ニ對スル公訴權消滅スト云ヘル説アレモ之レハ他日ノ論議ニ屬スル)

問 告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ其告訴ノ拋棄ニ因リ公訴權ノ消滅スル理由如何

答 凡ソ犯罪ハ社會ヲ害シ併セテ一私人ヲ害スルモノナリト雖或ハ其害社會ニ輕クシテ一私人ニ重キコアリ斯ル場合ニ於テハ法律ハ社會ノ爲メヨリモ寧ロ一私人ノ爲メニ之ヲ罰スルコアリ即チ告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ノ如キハ社會ヲ害スルヨリモ一私人ヲ害スルコ甚シク殊ニ其性質大概内行ニ係ハルヲ以テ被害者ノ告訴アルニアラサレハ果シテ其害ヲ加ヘタルヤ否ヤヲ知ル能ハス然ルヲ若シ之ヲ直チニ訴フヘシト爲サバ社會ノ秩序ヲ維持セントスル法律ニシテ却テ社會ノ基礎タル個人ノ休安ヲ妨ケ各人ノ名譽ヲ毀損スルコト夫レ少シトセス故ニ告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ノ如キハ檢事ヨリ直チニ訴フヘキモノニアラス必ス被害者ノ告訴ヲ待テ後訴フヘキモノナリトス一例ヲ擧グレハ猥褻姦淫罪ノ場合ニ於

テ被害者一朝ノ忍リニ堪ヘズシテ已ニ告訴ヲ爲シタルモ後チ退テ熟考シ若シ之ヲ訴ヘテ世ニ公ニセハ却テ我身ノ榮譽ヲ毀損スルノ憂アルヲ悟リ其告訴權ヲ拋棄セントスルモハ法律ハ之ヲ許シテ其榮譽ヲ全クセシメサルヘカラスナリ之ヲ要スルニ告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付被害者ノ棄權アレハ或ハ舉證ノ難カ爲メカ(脅迫罪ノ如キ)或ハ被害者ノ利益ヲ保護センカ爲メカ(猥褻姦淫罪ノ如キ)又或ハ其事件ノ輕キカ爲メカ(牛馬外ノ家畜ヲ殺シタルカ如キ)ニ因リ公訴權ヲ消滅セシムルモノナリトス

問 確定判決ニ因リ公訴權ノ消滅スル理由如何

答 抑モ人ニ過失誤謬アルハ人生免ル可カラサル所ナレハ如何ニ賢明ニ且ツ法律ニ通曉シタル判官ト雖亦必スシモ過失誤謬ナキヤ保スヘカラス果シテ然ラハ其誤判ノ爲メ或ハ時トシテ被告人ヲ無辜冤罪ニ苦マシムルコトナシトセス此ヲ以テ是等ノ弊害ヲ矯救センカ爲メニ世界各國皆數等ノ裁判所ヲ設ケ被告人ヲシテ其判決ニ對シ順次上等ノ裁判所ニ上訴スルコトヲ得セシメリ夫然リ然ルニ被告

人ニシテ此救法ノ途アルニモ係ハラズ其期限内ニ上訴ヲ爲サ、ルカ或ハ之ヲ爲シタルモ其上訴已ニ確定判決シタルモ後日ニ至リ假令其判決事實ニ相違シ法律ニ適合セサルヲ發見スト雖復々更ニ同一ノ事件ニ付キ訴ヲ爲スコトヲ許サス若シ夫レ之ヲ爲シ得ルトセンカ一箇ノ訴訟ニ付キ幾度カ裁判ヲ爲サ、ルヘカラスルノ弊害ヲ生シ遂ニ底止スル所ヲ知ラサルニ至ラン若シ斯ノ如クンハ人民ハ何ニ依テ其堵ニ安ンスルヲ得ンヤ故ニ一旦裁判アリテ其言渡確定シタル以上ハ其事實ニ如何ナル相違アルモ法律ハ完全無缺ノモノト見做シ再ヒ訴ユルヲ許サルナリ但シ非常上告再審ノ訴ノ場合ハ例外ナリトス是レ即チ一事再理セサルノ原則ニ基キタルモノニシテ確定判決ヲ以テ公訴權消滅ノ原由ト爲ス所以ナリ

問 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止シタルモ公訴權ノ消滅スル理由如何

答 抑モ新法ヲ制定シテ舊法ノ刑ヲ廢止スル所以ノモノハ舊法時代ニ於テハ其所爲ヲ罪トシ罰スルヲ眞理ト爲スカ又ハ罰スルノ必要アリシカ爲メ之ヲ罰シタル

モ今日ニ於テハ其之ヲ罰スルノ不正ナルカ又ハ罰スルノ必要ナキヲ認メタルニ依リ以テ新法ヲ制定シ舊法ヲ廢止スルモノナリ故ニ假令舊法ニ於テハ其所爲テ罪トシテ罰シタルモ已ニ新法ニ於テハ其刑ヲ廢止シタルノ故ヲ以テ之ヲ罪トシテ罰セス即チ犯罪當時ニ於テハ其罪ヲ構成シタルモ今日ニ於テハ其所爲罪トナラス已ニ罪ナキニ之レヲ罰セント欲スルモ豈ニ得ヘケンヤ否ナ之レカ公訴ヲ起スモ其目的ヲ達スルコト能ハス公訴其目的ヲ達スル能ハサレハ其之レカ消滅スル自然ノ順序ニシテ亦別ニ説明ヲ要セサルナリ

問 大赦アリタルニ因リ公訴權ノ消滅スル理由如何

答 大赦トハ政略上或ル場合ニ於テ天皇ノ大權ヲ以テ其事件ノ罪質ヲ湮滅セシムル所ノ恩典ナリ即チ國事犯ノ如キ場合ニ於テ其所爲ニ刑罰ヲ如ヘナハ社會ノ秩序安寧ヲ維持セスシテ却テ之ヲ擾亂スルノ恐れアリト爲スルハ或ル特別ノ事情アルモニ於テ之ヲ爲シ其所爲ノ罪質ヲ湮滅セシムルナリ蓋シ國事犯ノ如キハ其趣意トスル所多クハ現政府ノ失政ヲ矯正シ國民ノ自由ヲ伸張シ以テ國利民福

ヲ増進センカ爲メ犯罪ヲ爲スモノナレハ其目的即チ誠心ノアル所ハ敢テ咎ムルキモノニアラズ否ナ却テ嘉ミスヘキモノナリト雖其腕力ヲ以テ抗敵スルノ所爲ハ非トシテ之ヲ罰セサルヲ得サルナリ若シ然ラサルモハ慷慨多血ノ士ハ直チニ腕力ヲ是レ事トシ社會ハ紛々擾々一日モ靜日ナキニ至ラン夫レ國事犯ノ性質如此シ然ルヲ尙ホ妄リニ之ヲ罰スルニ於テハ其黨與憤起シ却テ社會ノ安寧秩序ヲ擾亂スルノ場合ナシトセス故ニ如斯場合又ハ特別ノ事情即チ國家ノ大祝典アルモニ於テハ大赦ヲ爲シ以テ國事犯人ヲ放免セサルヘカラス而シテ此大赦ナルモノハ以上述ヘタル如キ國事犯人ニ法律ト正義トヲシテ權衡ヲ得セシメンカ爲メ與ユルモノニシテ其事件ノ罪質ヲ全ク湮滅セシムルモノナレハ一旦大赦アリタル以上ハ其罪既ニ存セサルナリ然レ其罪已ニ存セサレハ公訴モ亦々消滅スルヤ論ヲ俟タサルナリ

問 時效ヲ得タルニ因リ公訴權ノ消滅スル理由如何

答 抑モ刑事ハ民事ト異ナリ茲ニ一ノ犯罪アレハ當該官吏或ハ犯所ニ臨テ事實發

見ノ爲メ必要ナル模様ヲ調査シ或ハ被告人ノ住所ヲ搜索シテ證據物件ヲ差押ヘ
 或ハ被告人ヲ訊問シテ其事實ヲ得ル等ノ手續ヲ爲シ以テ其心證ヲ作ラサルヘカ
 ラス然ルニ右等ノ處分ヲ爲サスシテ許多ノ歲月ヲ經過スルハ則チ證據懲憑共
 ニ湮滅シテ遂ニ確實ナル裁判ヲ爲ス能ハサルニ至ラン且ツ夫レ社會ニ刑罰ヲ行
 フノ權アルハ其罪ニ因テ騷擾攪亂セラレタル秩序安寧ヲ恢復センカ爲メナリ然
 ルニ犯罪アリテヨリ許多ノ歲月ヲ經過セハ世人カ之ヲ恐怖厭忌スルノ念漸ク弛
 廢スルヲ以テ即チ世人ノ遺忘モ亦從テ薄ラクニ因リ之ヲ罰シテ衆意ヲ安ンシ應
 報ノ例ヲ示スノ必要ナシ既ニ必要ナケレハ社會ハ之ヲ罰スルノ權利ナシト云フ
 ヘシ況ンヤ又タ永久ノ年月其犯人ニ對シテ他ノ公訴起ラザリシヲ以テ觀レハ犯
 人自ラ先非ヲ悔悟シテ善心ニ復シタルヤ知ルヘカラサレハ若シ強ヒテ之ヲ罰ス
 ルハ法律ハ寧ロ苛酷ニ失スルノ誹リヲ免レス是レ豫メ時効ノ制ヲ定メ若シ此
 期限ヲ經過シタルハ其公訴ヲシテ消滅セシムル所以ナリ

第七條 公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

第一 拋棄又ハ和解

第二 確定判決

第三 時効

○本條ハ私訴權ノ消滅スル場合即チ被害者ノ賠償、返還ヲ要ムル權ヲ消滅セ
 シムル原由ヲ規定シタルモノナリ

問 拋棄又ハ和解アリタルニ因リ私訴權ノ消滅スル理由如何

答 第二條ニ於テ規定シアルカ如ク私訴ノ權利ハ被害者ニ屬スルモノナレハ即チ
 各人ノ財産權ナレハ之レカ損害賠償、贓物ノ返還ヲ要ムルト或ハ之ヲ爲サ、ル
 トハ元ヨリ所有者其人ノ隨意ナリ故ニ若シ被害者ニ於テ加害者ト熟談シ其損害
 ヲ訴ヘス之ヲ内濟ニスルカ或ハ又タ自ラ甘ンシテ其損害ヲ拋棄シ訴ヘサルカ如
 キハニ於テハ其私訴權ノ消滅スルヤ茲ニ喋々ヲ要セサルナリ是レ拋棄ト和解ト
 ナリテ私訴權消滅ノ原由ト爲ス所以ナリトス

問 確定判決アリタルニ因リ私訴權ノ消滅スル理由如何

答 確定判決ノ效力及ヒ之ニ因テ私訴權ノ消滅スル理由ハ前既ニ述ヘタルカ如シ
而シテ此理由タルヤ又タ私訴權消滅ニモ適用スヘキモノナレハ今茲ニ再説セス
問 時効ヲ得タルニ因リ私訴權ノ消滅スル理由如何

答 前既ニ述ヘタルカ如ク凡ソ他人ニ損害ヲ與ヘタル者ハ之ヲ償フノ責任アリ從
テ又タ其損害ヲ受ケタルモノハ之ヲ要求スルノ權利アレハ被害者ハ直チニ之ヲ
訴ヘテ以テ自己權利ノ回復ヲ圖ラサルヘカラス然ルニ若シ之ヲ久シク等閑ニ附
シ訴ヘサルニ於テハ其證據湮滅シ爲メニ正確ナル裁判ヲ爲ス能ハサルニ至ラン
是レ法律上一定ノ期限ヲ定メ若シ其期限内ニ訴ヘサルハ其訴權ヲシテ消滅ニ
歸セシムル所以ナリ如之ナラス法律ハ權利者ニ於テ久シク其權利ヲ行ハサルハ
ハ義務者ニ於テ其義務ノ執行ヲ終ヘタルカ然ラサレハ權利ニ於テ已ニ之ヲ免除
シタルモノト推測スルヲ以テ其期限ノ經過アリタルハ其訴權ヲ消滅セシヘサ
ルヘカラサルヤ敢テ喋々ヲ俟タスシテ明ラカナリ

第八條 公訴ノ時効ハ左ノ期限ヲ經過スルニ因テ成就ス

第一 違警罪ハ六月

第二 輕罪ハ三年

第三 重罪ハ十年

○本條ハ罪ノ種類ニ從テ公訴時効ノ期限ヲ定メタルモノトス

問 犯罪ノ種類ニ因リ時効期限ノ長短ヲ區別シタル理由如何及ヒ刑ノ種類ト罪ノ
種類ト各異ナルハ罪刑何レニ依據シテ時効ノ期限ヲ定ムヘキヤ

答 犯罪ノ種類ニ因リ時効期限ノ長短ヲ區別スル所以ノモノハ畢竟其罪重キモノ
ハ其害大ナルヲ以テ世人ノ記念ニ存スル長ク其罪輕キモノハ其害少ナルヲ以テ
從テ又タ世人ノ記念ニ存スルコト短キ而已ナラス其證據、懲懲湮滅ノ點ニ於テ差
違アルヤ論ヲ俟タス然ラハ其罪ノ輕重ニ因テ其公訴時効ニ長短アルハ又タ論ヲ
俟タサルナリ蓋シ罪ノ輕重ニ依リ其時効期限ノ長短ヲ定ムルハ時効制定ノ主旨
ニ基クモノナレハナリ然ルニ茲ニ重罪ノ刑ニ該ルヘキモノト雖宥恕減輕若クハ
酌量減輕ノ爲メニ輕罪トナリ或ハ輕罪ノ刑ニ該ルヘキモノト雖之レカ爲メニ違

ス否ナ然ラサルモハ又タ不都合ヲ生スルコトナシトセス即チ若シ私訴ノ時効ヲシテ公訴時効ノ期限ヨリ長カラシメハ被害者其私訴ヲ起ス場合ニ當テ尙ホ其原因タル犯罪事件ヲ證明スルニ依リ既ニ消滅シタル公訴ヲ再ヒ喚起スルニ至ラン果シテ然ラハ其一且消滅シタル公訴ヲ再起セサルヘカラサルカ如キ不都合ナル結果ヲ生ス何トナレハ公訴消滅ノ原由タルヤ前已ニ述ヘタルカ如ク社會ノ遺忘ニ基クモノナレハ縱シヤ一且遺忘シタルモ再ヒ發揚スルニ於テハ之ヲ訴ヘサルヘカラサルノ理ナレハナリ是レ即チ前陳ノ如キ多少道理ニ合ナワサル所アルニモ係ハラス公訴ト私訴ノ時効期限ヲ同一ニシタル所以ナリ

問 通常民事ノ訴ニ於テハ被害者無能力ナルモハ其時効期限ノ經過ヲ停止スルモ私訴ニ於テハ之ヲ停止セサル理由如何

答 抑モ民法上時効ノ制ヲ設ケタル所以ハ權利者ハ直チニ之ヲ訴ユルノ權利アルニ久シク訴ヘサルカ如キコトアレハ原被互ニ證據ヲ失ヒ裁判上甚タ困難ヲ來スヲ以テ是等ノ弊害ヲ防セカンカ爲メ設ケタルモノナル而已ナラス又タ法律上ノ推

測ニ基クモノトス(例ヘハ物件占有ノ場合ニ於テ其所有若タルモノ久シク之レカ取戻ノ訴ヲ爲サ、ルニ於テハ法律上占有者ノ所有ヲ推測スルカ如キ)故ニ權利者無能力ナルモハ其無能力ナル時間即チ丁年ニ達スル迄時効期限ノ經過ヲ停止スルコト正ニ當然ナリトス然レモ私訴ハ然ラス既ニ私訴ト其時効ノ期限ヲ同一ニシタレハ其期限ノ經過ヲ停止スルノ原由モ亦タ同一ニ爲サ、ルヲ得ス果シテ然ラハ時効制定ノ主旨タル證據湮滅世人ノ遺忘ハ被害者ノ能力アルト否ナトニ關セサルヲ以テ假令被害者無能力ナルモト雖其時効期限ノ經過ヲ停止スヘカラサルヤ茲ニ説明ヲ俟タスシテ明ラカナリ是レ正文中殊ニ無能力ナルトキ云々ヲ記入シ通常民事ノ時効ト反對ナル旨ヲ示シタルモノトス

問 私訴ハ公訴ニ附帶セス之ヲ爲シタルモト雖矢張り公訴ト其時効期限ヲ同シクスル理由如何

答 私訴ハ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ爲スモハ固ヨリ公訴ト其時効期限ヲ同シクスト雖若シ公訴ニ附帶セスシテ之ヲ民事裁判所ニ爲スモハ時効ノ期限民法ニ

從フヘキモノナルヤ將タ又矢張り本法ニ從ヒ公訴ト其期限ヲ同シクスルモノナルヤ否ヤノ疑ヲ生スルノ感ナシトセス故ニ本條中殊更ニ公訴ニ附帶セスシテ其訴ヲ爲シタルト雖ト記載シ以テ本法ニ從フヘキ旨ヲ明示シタリ蓋シ其理由タルヤ時効ハ專ラ事件ノ性質ニ基キ其期間ヲ區別シタルモノナレハ其訴フル所ノ裁判所ニ因テ其期限或ハ短カク或ハ長キ筈ナケレハナリ換言セハ私訴ハ其原因公訴ト等シク犯罪事件ニ因リ發生スルモノナレハ訴フル所ノ裁判所ノ如何ニ係ハラス即チ性質上本法ニ從フヘキモノナレハナリ

以上論スル所ニ依テ之ヲ觀レハ本條ハ第五條ニ抵觸セサルヤノ感ナキ能ハスト雖決テ抵觸スルモノニ非ラス何トナレハ本條ハ公訴既ニ時効ヲ得タレハ私訴モ亦タ從テ消滅スト云ヘル本則ヲ示シタルモノニシテ第五條ハ犯罪ヲ原由ト爲サスシテ損害ノ賠償、贖物ノ返還ヲ要ムルコト即チ純然タル民事上ノ訴トシテ之ヲ請求スルハ敢テ法律ノ禁スル處ニアラサル旨ヲ示シタルモノナレハナリ

問 公訴ニ付キ既ニ刑ノ言渡アリタルトハ何故ニ私訴ハ民法ノ時効ニ從フヤ

答 公訴ニ付キ既ニ刑ノ言渡アリタルトハ私訴ハ民法ノ規定ニ從ヒ三十年間訴權消滅セサルモノトス其理由トスル所ハ前已ニ述ヘタルカ如ク、元來公訴、私訴共ニ時効期限ヲ同フスル所以ハ證據ノ湮滅ト世人ノ遺忘トヲ以テ其主旨ト爲スニ依リ公訴ニ付キ刑ノ言渡アリタルトハ則チ其言渡ヲ以テ犯罪事件ト其犯人トヲ公證スルヲ以テ假令長月若クハ三年乃至十年ノ期限ヲ經過スルモ犯罪ノ證據ハ決テ湮滅スルモノニ非ラサレハ被害者ハ何時ニテモ刑ノ言渡書ヲ出シテ其事伴ヲ證明スルコトヲ得ヘシ故ニ此ノ場合ニ於テハ第八條ノ期限ハ私訴ノ時効ニ適用スヘカラス即チ民法ニ定メタル時効ノ例ニ從フヘキモノトス反言セハ既ニ犯罪者ニ對シテ刑ノ言渡アリタル以上ハ假令被害者カ公訴時効經過シタル後ニ公訴ヲ爲シ其犯罪事件ヲ證明シ損害ノ賠償ヲ要求スルモ最早該事件ニ關スル社會ノ遺忘ヲ再發スルノ患ナキ而已ナラス且ツ其犯罪事實ノ證明ニ付キ公訴ニ與フルノ利益ナキヲ以テ之ニ附帶スルノ必要ナシ否ナ附帶セント欲スルモ既ニ公訴ハ判決ヲ經刑ノ言渡アリタレハ實際之ヲ爲シ得ヘカラサレハ其時効民法ノ例ニ

從ハサルヘカテサルヤ故テ論テ埃タサルナリ

第十條 公訴、私訴ノ時効ハ犯罪ノ日ヨリ其期限ヲ起算ス但シ
繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス

○本條ハ公訴私訴ノ時効期限起算ノ點ヲ定メタルモノトス

問 即時犯ニ付テハ犯罪ノ日ヨリ時効期限ヲ起算シ繼續犯ニ付テハ其期限ヲ最終
ノ日ヨリ起算スル理由如何

答 元來即時犯ナルモノハ犯者其所爲ヲ終レハ直チニ一ノ犯罪成立スルモノナリ
既ニ犯罪成立セハ直チニ起訴權生スルヲ以テ犯罪ノ當日ヨリ其期限ヲ起算スル
ハ道理上固ヨリ當然ノコトニシテ別ニ説明ヲ要セサルナリ然レモ繼續犯ナルモノ
ハ犯罪ノ所爲若干時間繼續スルモノ例ヘハ不法監禁罪ノ如キ假令幾日監禁シタ
リト雖其監禁中ハ最初ノ日ト最終ノ日トニ論ナク矢張り犯罪ノ日ニ外ナラサレ
ハ即チ一日人ヲ監禁スルモノ一月監禁スルモノ又チ一年監禁スルモノ其罪ハ一ナレハ
繼續犯ニ付テハ其時効期限最終ノ日即チ發覺ノ日ヨリ起算セサルヘカテ何ト

即時犯トハ即
時成立ツ犯罪
即チ強盜、毆打
謀殺、毆打
創傷罪、ノ如
キチ云ヒ繼續
犯トハ引續ヒ
テ罪ヲ犯シ居
ルモノ即チ不
法監禁、又ハ
罪人藏匿罪、
ノ如キチ云フ

起訴トハ公訴
、私訴テ刑事

裁判所ニ爲ス
モノニシテ民
事裁判所ニ爲
ス訴ニアラス
ト知ルヘシ
豫審トハ犯罪
事件ヲ豫メ審
問スルヲ即チ
公判ノ下調べ
ヲ爲スチ云フ
公判トハ公ケ
ニ開キタル法

ナレハ再三述ヘタルカ如ク時効ノ制ハ元ト證據ノ湮滅ト世人ノ遺忘トニ起因ス
ルモノナルニ付キ犯罪數日ニ涉ルルハ其時間證據湮滅スルコトナク又チ世人モ適
忘スルコトナケレハナリ加之ナラス法律ハ被告人ニ利益ヲ與エンカ爲メ斯ク定メ
タル所以ナリ

第十一條 時効ハ起訴、豫審又ハ公判ノ手續アリタルニ因リ其
期限ノ經過ヲ中斷ス其未タ發覺セサル正犯、從犯及ヒ民事擔
當人ニ付テモ亦同シ

時効ノ經過ヲ中斷シタルルキハ起訴、豫審又ハ公判ノ手續ヲ止
メタル日ヨリ更ニ其期間ヲ起算ス

○本條ハ第一項ニ於テ時効期限ノ經過ヲ中斷スル場合ヲ定メ第二項ニ於テハ
其中斷シタルルキノ效果即チ期限起算ノコトヲ規定シタリ

問 起訴、豫審又ハ公判ノ手續アリタル場合ニ於テ時効期限ノ經過ヲ中斷スル理
由如何

延ニ於テ犯罪人ヲ審問判決スルヲ云フ
 中斷トハ法律上時間ノ經過ヲ中斷スルコト即チ其經過シタル期限ヲ空無ト爲スモノナリ
 正犯トハ二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者及ヒ人ヲ教唆シテ重罪、輕罪、ヲ犯サシメタルモノヲ云フ

從犯トハ重罪、輕罪、ヲ犯スコトヲ知り器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタルモノヲ云フ
 民事擔當人トハ無能力者カ犯罪ヲ爲シタルルニ於テ其犯罪ノ爲メニ生シタル損害

答 起訴、豫審又ハ公判ノ手續アリタルルニハ時効ハ其期限ノ經過ヲ中斷スルモノトス蓋シ屢述ヘタルカ如ク公訴及ヒ私訴時効ノ制ハ民事ノ時効ト異ナリ證據ノ湮滅及ヒ世人ノ遺忘ヲ以テ之レカ理由ト爲セハ其期限ノ經過ヲ中斷スルノ原由モ亦宜シク證據ノ湮滅ヲ防キ世人ノ遺忘ヲ遏ムルノ事タラザルヘカラス果シテ然ラバ起訴ハ其目的トスル所被告人ヲ裁判所ニ訴ヘ犯罪事件ヲ證明スルニ在リ又豫審及ヒ公判ノ手續ハ其目的トスル所證據ヲ蒐集シ犯罪ノ有無ヲ審査スルニ在ルナリ以テ何レモ證據ノ湮滅ヲ防キ世人ノ遺忘ヲ遏ムルノ效アレハ是等ノ手續アリタル以上ハ其時効期限ノ經過ヲ中斷セサルヘカラサルヤ言フ俟タサルナリ而シテ尙ホ茲ニ注意スヘキハ時効ノ經過ヲ中斷スルニハ公訴ノ提起ヲ必要トスルコト及ヒ公訴ニ付キ時効ノ期限中斷セラレタルルニハ私訴ニ付テモ亦タ等シク其期限ヲ中斷シ又私訴ニ付キ時効ノ期限中斷セラレタルルニハ公訴時効ノ期限モ亦等シク中斷セラル、コト是レナリ即チ檢事ヨリ公訴ヲ起シタル場合ニ於テハ時効ノ期限ヲ中斷スルコト勿論ナリト雖被害者若クハ親族ノ告訴アリタルカ又ハ

他人ノ告發アリタル場合ノ如キハ未タ以テ期限經過ヲ中斷スル效ヲ生スルニ足ラサルナリ何トナレハ本條ニ起訴ト明記シアル處ヨリ觀レハ單ニ公訴ノ提起ニ限ルヤ明ラカナレハナリ又タ第九條ニ於テ公訴私訴時効ノ期限ヲ同一ニシタル以上ハ此中斷ニ付テモ亦二者同一タラサルヘカラサルヲ以テ公訴時効期限中斷セラレタルルニ從テ私訴ノ時効期限モ亦中斷シ私訴中斷セラレタルルニハ公訴モ亦中斷スルハ論ヲ俟タサルナリ但シ被害者私訴ヲ公訴ニ附帶セス民事裁判所ニ之ヲ爲シタルルニハ公訴時効ノ期限ヲ中斷スルコトナシ何トナレハ本條ニ所謂起訴トハ刑事裁判所ニ起スヘキ訴ヲ云フモノナレハナリ

問 起訴、豫審又ハ公判ノ手續ハ其未タ發覺セサル正犯、從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ矢張り其時効期限ノ經過ヲ中斷スル效アル理由如何

答 抑モ時効ハ事件ニ關スルモノニシテ人ニ關スルモノニアラサレハ檢事ニ於テ起訴ノ手續ヲ爲スカ又ハ之ニ付キ豫審若クハ公判ノ手續アリタル場合ニ於テハ其事件ニ關係セル被告人未タ發覺セス又民事擔當人分明ナラサルルニ雖其時効

期限ノ經過ヲ中斷セサルハカラス何トナレハ已ニ是等ノ手續ヲ爲シタル以上ハ時效制定ノ主旨タル證據ノ湮滅ヲ防キ世人ノ遺忘ヲ遏ムルノ效アレハナリ換言セハ時效ノ期限ヲ中斷スルニハ必スシモ其正犯、從犯又ハ民事擔當人ノ誰ナルヤヲ覺知スルヲ要セス唯檢事若クハ判事ニ於テ必要ノ手續ヲ爲シ其犯罪事件ヲ遺忘セサルヲ表示スルヲ以テ足リト爲ス

問 時效ノ經過ヲ中斷シタルハ期限起算及ヒ其理由如何

答 時效ノ經過ヲ中斷シタルトキハ起訴、豫審又ハ公判ノ手續ヲ止メタル日ヨリ更ニ其期限ヲ起算スル者トス例ヘハ重罪ヲ犯シタルモノニ對シ其犯罪ノ日ヨリ五年ヲ經過シタル後ヲ始メテ此中斷ノ手續アリタルトキハ已ニ經過シタル五年ノ期限ハ全ク皆無ニ屬シ更ニ中斷手續ノ終リタル日即チ起訴、豫審又ハ公判ノ手續ヲ止メタル日ヨリ十年ヲ經過スルニアラサレハ以テ時效ノ利益ヲ受タルヲ能ハサルモノトス蓋シ起訴豫審、公判等ノ手續ヲ以テ中斷ノ原由ト爲シタル所ニ以テ其證據ノ湮滅ヲ防キ世人ノ遺忘ヲ遏ムルノ効アルニ因ルモノナレハ一度此

手續アリタルヤ其以前ノ期限ヲ空無ト爲スハ當然ノコトニシテ別ニ説明ヲ要セサルナリ

第十二條 起訴、豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルニ因リ

無効ニ屬スル時ハ時效ノ經過ヲ中斷スル效ナカル可シ但裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ屬シタルハ此限ニ非ス

○本條ハ時效經過ヲ中斷スル効力ノ有無ヲ規定シタルモノトス

問 起訴、豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルトハ如何ナル場合ヲ云フ乎及ヒ

此場合ニ於テ時效經過ノ中斷ヲ無効トスル理由如何

答 起訴、豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタル場合トハ例ヘハ被告人犯罪地又ハ逮捕地ニアラサル檢事ヨリ起訴ノ手續ヲ爲シタルトキ(起訴不規則ナル例)又ハ非現行犯ノ場合ニ於テ檢事又ハ司法警察官家宅搜索ノ處分ヲ爲シタルトキ(豫審不規則ナル例)又ハ傍聽ヲ禁スルノ言渡ナクシテ裁判ヲ公行セサルトキ(公判

ノ不規則ナル例。其他檢事重罪事件ニ付キ豫審ヲ求メスノ直チニ之ヲ公判ニ附シタルトキ又ハ裁判所ニ於テ檢事ノ起訴ナキニ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發シタルトキ等ノ如キ場合ヲ云フ而ノ是等ノ場合ニ於テ時効經過ノ期限ヲ中斷スルノ效アリト定メタル所以ノ者ハ蓋シ其手續ノ無効ナルトキハ法律上其手續未タ嘗テ之レアラサルモノト見做ニ因リ時効制定ノ主旨タル證據ノ湮滅ヲ防キ世人ノ遺忘ヲ遏ムルノ效アラサレハ從テ時効經過ノ期限ヲ中斷スルノ效モ亦是レアラサレハナリ

問 然ラハ裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ屬スルトキ中斷ノ効力アル理由如何

答 裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ屬スルトキ中斷ノ効力アル所以ハ他ナシ元來中斷ノ効力ヲ生スヘキ者ハ手續其モノニシテ手續ヲ受理シタル裁判所ニアラサレハナリ即チ適法ノ起訴、豫審又ハ公判ノ手續アリタルハ是レ社會力犯罪ヲ遺忘セサルヲ世ニ公ニスルニ充分ナルヲ以テ其手續ヲ受理シタル

告訴人トハ犯罪ニ因リ害ヲ

被リタル者即チ被害者ガ其犯人ヲ刑ニ處セラレタシト訴ヘタルトキシ云フ
 告訴人トハ已レ害ヲ被リタルニハアラサレモ社會ノ秩序安寧ヲ維持スル爲メ犯人

裁判所ノ管轄違ナルニ因リ中斷ノ効力ヲ失フヘキ理アラサルナリ況ンヤ裁判所ノ管轄ナルト否ヤト豫審ノ辨別スルハ頗ル困難ニシテ其事件ヲ綿密ニ審査シタル上ニアラサレハ容易ニ其何レノ管轄ナルヤヲ知ル能ハサルモノナレハ之ヲ以テ時効ノ經過ヲ中斷スルノ原由ト爲ス能ハサルヤ明ラカナリ

第十三條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴人告訴人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出テタルハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルヲ得
 被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖告訴人、告訴人又ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲生シタルトキ亦同シ

民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人其上訴ニ因生シタル損害ノ償ヲ要ムルヲ得
 要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲

テ刑ニ處ラレ
 タシトテ其罪
 ナ發キ訴フル
 者ヲ云フ
 民事原告人ト
 ハ犯罪ニ因リ
 生シタル損害
 ノ賠償、贖物
 ノ返還ヲ請求
 スル所ノ人ヲ
 云フ即チ私訴
 人ノナリ
 重過失トハ大
 ナル過チ即チ
 輕忽ニ爲シタ
 ルニ因リ生シ
 タル過チヲ云

「ス」ヲ得

○本條ハ第一項ニ於テ被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其告
 訴人、告發人又ハ民事原告人ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルヲ得ヘキ場合ヲ定メ
 第二項ニ於テ假令被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖尙ホ之ヲ爲シ得ヘキ場合ヲ
 定メ第三項ニ於テ民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルト被告人之ニ對シ損害ノ
 償ヲ要メ得ヘキ場合ヲ定メ第四項ニ於テ以上ノ要償ノ訴ヲ爲スヘキ時期ヲ定
 メタリ

問 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキ告訴人、告發人又ハ民事原告人ニ
 對シ損害ノ賠償ヲ要ムルヲ得ヘキ場合及ヒ其理由如何

答 凡ソ何人ニ限ラス他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ必ス賠償ノ責ニ任セサルヘカヲ
 ストハ民法上ノ原則ナリ故ニ若シ其訴訟ノ理由告訴人、告發人又ハ民事原告人
 ノ申立ニ出テタル場合ニ於テ被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケ晴天白日ノ身ト
 ナリタルトキハ其訴訟ハ不正當ノモノナルヤ明ラカナレハ被告人ヨリ是等ノ者

憲實ノ申立テ
 トハ針小ヲ捧
 大ニ申立ル
 即チ過失殺テ
 謀殺殺ト申立
 ルカ如キヲ云
 フ
 本案トハ當時
 裁判シツ、ア
 ル事件ヲ云フ

ニ對シ損害ノ賠償ヲ要ムルヲ得ルハ是レ自然ノ道理ニシテ論ヲ俟タサルナリ
 然ルニ本條ニ於テハ其訴訟ノ理由告訴人告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重
 過失ニ出テタルトキ而已損害ノ償ヲ要ムルヲ得ト定メタリ是レ蓋シ一般人民
 法律ヲ熟知スルモノニアラス縱シ之ヲ知り得ルトスルモ必スシモ其事實ニ誤謬
 ナキヲ保スヘカラス然ルニ其輕キ過失ニ因リ申立ヲ爲シタルトキト雖尙ホ是ヲ
 シテ其責ニ任セシムルト爲サバ世或ハ告訴、告發ヲ爲ス者一人モ之レナキニ至
 リ犯者ヲシテ空シク法網ヲ逃レシムルノ恐レアルヲ以テナリ是レ本條ニ於テ惡
 意アリタルトキハ勿論假令惡意ナシト雖重キ過失ニ出テタルトキハ被告人ノ請
 求ニ依リ告訴人、告發人又ハ民事原告人ヲシテ其責ニ任セシムルト定メタル所
 以ナリ

問 被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖告訴人、告發人又ハ民事原告人ニ對シ損害ノ
 要償ヲ爲シ得ヘキ場合及ヒ其理由如何

答 被告人刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ公訴已ニ其目的ヲ達シタルヲ以テ其理由ヲ

ル告訴、告發若クハ私訴ノ正當ナリシヤ明ラカナリト雖尙ホ此場合ニ於テモ告訴人等惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シ依テ以テ被告人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其賠償ノ責ニ任セサルヘカサルヤ固ヨリ論ヲ俟タズ即チ失火ノ罪ヲ故ラニ放火ノ罪ト爲シ又ハ過失殺ノ罪ヲ故殺ノ罪ト申立テ告訴、告發シタルトキノ如キ元ト失火、過失殺ハ刑法上單ニ罰金ノ刑ニ該ルヘキモノナルニ告訴人等ノ惡意若クハ重過失ノ爲メニ故殺若クハ放火ノ罪トセラレ未決拘留ヲ受タル場合ニ於テハ被告人ハ其告訴人等ノ惡意若クハ重過失ノ爲メ故ナク損害ヲ受タルモノナレハ假令刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖是等ノ者ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スヲ得ヘキモノトス

問 民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ賠償ヲ要ムルヲ得ル理由如何

答 民事原告人ハ其裁判言渡ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルモノナレハ若シ其言渡ニ付キ不服ナル點アレハ之ヲ上告スル敢テ妨ケナシト雖若シ執拗ニシテ之ヲ上告

終ニ敗訴シタルトキハ之レニ因リ生シタル損害ヲ償ハサルヘカラス即チ被告人ハ之レカ爲メニ其未決拘留ノ時間ヲ遷延セラル、而已ナラス又其財産上ニ於テモ多少損害ヲ蒙ラサルヲ得サルヲ以テ被告人ニ於テ是レカ損害ヲ要償スル固ヨリ至當ノコナリトス

問 以上ノ損害要償ノ訴ヲ爲スヘキ時期及ヒ裁判所如何

答 被告人、告訴、告發人等ニ對シ損害ヲ要メント欲スルキハ其告訴告發等ニ因リ自己ノ被告事件ヲ審理シツ、アル裁判所ニ之ヲ爲シ又タ上訴ニ因リ生シタル損害ヲ要メントスルキハ其上訴ヲ受理シタル裁判所ニ爲スヘキモノトス而シテ之ヲ爲スハ本案ノ判決即チ自己ノ被告事件言渡アルマテハ何時ニテモ之ヲ爲スヲ得蓋シ如此定メタル所以ノモノハ必竟其裁判所ニ於テハ告訴、告發等ニ係ル被告事件ヲ審理シツ、アルニ因リ從テ又告訴告發人等ノ過失ノ輕重ヲ審査スルニ便宜アレハナリ然ラハ惡意ニ出テタルトキハ如何矢張り本項ヲ適用スヘキヤ曰ク否本項ハ單ニ重過失ニ出テタル時而已ニ適用スヘキモノニシテ其惡意ニ

故意トハ故テ
ニ爲ストノ意
ナリ

刑法

第二百七十七條
入ノ身体財産ヲ
妨害スルノ犯人
アルニ當リ、豫審
官、検事、警察官
受テ速ニ其報告ヲ
爲サ、ハル者ハ
十五日以上三月
以下ノ輕禁錮ニ
處シ、下ノ罰金
ヲ附加ス

第一編、總則

五十二

出テタルトキハ通常ノ規項ニ從ヒ本項ノ規則ニ從フヘキモノニアラス即チ惡意
ニ出テタルトキハ誣告ノ罪ヲ犯シタルモノナルヲ以テ其要償ノ訴ハ別ニ民事裁
判所ニ爲スカ然ラサレハ公訴ニ附帶シテ誣告罪ヲ審理スル裁判所ニ爲サ、ルヘ
カラス何トナレハ私訴ハ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ爲スカ然ラサレハ別ニ民
事裁判所ニ爲スヘキモノニシテ之ヲ獨リ他ノ刑事裁判所ニ爲ストナ得サルモノ
ナレハナリ之ニ由テ是ヲ觀レハ本項ハ單ニ重キ過失ニ出テタルトキ而已ニ適用
スヘキモノナルヤ明ラカナリ

第十四條 被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖判事、檢事、裁判所
書記、執達吏、司法警察官又ハ巡查憲兵卒ニ對シ要償ノ訴ヲ爲
スコトヲ得ス但是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ
又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ在ラス

○本條ハ假令被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖司法部内ノ官吏ハ故意若クハ
刑法ニ定メタル罪ヲ犯シ被告人ニ損害ヲ加ヘタルトキテ除ク外其損害ヲ償フ

第二百七十八條

被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テハ司法部内ノ官吏ニ對シ損害ヲ要求
スルコトヲ得ルヤ否ヤ及ヒ其理由如何
假令被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖司法部内ノ官吏即チ判事、檢事、裁判
所書記、執達吏、司法警察官又ハ巡查憲兵卒等ノ其職務上ノ過失ヨリ出テタル
損害ハ之ニ要求スルコトヲ得ス何トナレハ若シ是等ノ官吏ニシテ其損害ヲ償ハシ
ムルモノトセハ現行犯ヲ除クノ外充分ニ其職務ヲ行フコト能ハサルニ因リ或ハ罪
人ニシテ空シク其法網ヲ免カレシメ或ハ其事務ヲシテ延滯セシムルノ恐レアレ
ハナリ然レモ若シ是等ノ官吏ニシテ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シ被告人ニ損害ヲ加
ヘタルカ又ハ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘタル場合ハ假令官吏ト雖其責ニ任セサルヘ
カラス何トナレハ若シ然ラスンバ官吏其職務ヲ濫用シテ妄リニ良民ヲ害スルノ
患ナキヤ保スヘカラサレハナリ蓋シ本條ハ一ハ以テ官吏職務ヲ行フノ貴重ナル
コトヲ示シ一ハ以テ其職權ノ濫用ヲ豫戒シタルモノト思考スルナリ

第一編總則

五十三

問ニシテ全ク一日ノ時間ナキモノヲ算入スルヲ以テ時ニ或ハ不公平ヲ來スヘキ
 場合ナシトセス是レ即チ本法ハ被告人等ノ利益ヲ計リ日ヲ以テ算スルモノハ初
 日ヲ算入セスト規定シタル所以ナリ尙ホ此理由ニ基キ時ヲ以テ算スルトキモ亦
 分秒ハ算入セサルモノト知ル可シ

問 最終ノ日休暇ニ當ルトキ之ヲ期間ニ算入セサル理由如何

答 最終ノ日休暇ニ當ルトキ之ヲ期間ニ算入セサル所以ハ元來休暇ノ日ハ官民共
 ニ其業ヲ休ミ或ハ祝シ或ハ哀ムヘキ日ナルニ若シ之ヲ期間ニ算入スルトキハ假
 令休暇ノ日ト雖官民共ニ訴訟其他之ニ關スル一切ノ手續ヲ行ハサルヲ得サルノ
 不便不都合ヲ生スルニ至レハナリ而シテ此規定ハ日ヲ以テスルトキト時ヲ以テ
 スルトキトニ係ハラス等シク適用スルモノトス

問 時効ノ期間ニ初日ヲ算入シ又ハ最終ノ日ノ休暇ヲモ算入スル理由如何

答 時効ハ元ト證據ノ湮滅ト社會ノ遺忘トヲ以テ其理由トナスモノナレハ假令其
 初日ノ午前ニアルト午后ニアルトナ問ハス又最終ノ日休暇ニ當ルトキ否トヲ論セ

ス其期間ニ算入セサルヘカラス何トナレハ證據ノ湮滅社會ノ遺忘ハ專ラ時日經
 久ノ效ニ因リテ生スルモノニシテ其初日ト終日トニ係ハラス又休暇タルト平日
 タルトニ差別ナケレハナリ否初日ハ却テ其證據ヲ湮滅セシメ且ツ社會ヲシテ遺
 忘セシムルノ恐レアリ又假令最終ノ日休暇ニ當ルニアリト雖時効ニ於テハ官民
 共ニ其事務ヲ取ラサルヘカラスルカ如キ不便不都合アラサルナリ是レ本條但書
 ヲ要スル所以ナリトス

問 年月日ノ計算法ヲ規定シ置ク必要如何

答 年月日ノ計算法如何ハ原告人、被告人其他證人、鑑定人、等ニ對シ大ニ利害
 得失ヲ生ス故ニ法律ハ豫メ其公平ヲ維持センカ爲メ玆ニ一定ノ規程ヲ定メ置カ
 サルヘカラス即チ月ニ大小ノ區別アリ年ニ平閏ノ差アルヲ以テ其一ヶ月ノ禁錮
 ハ果シテ二十八日ニテ放免スルモノアルヤ或ハ三十一日ニテ放免スルモノナル
 ヤ又一年ノ禁錮ハ三百六十五日ヲ以テ放免スルモノナルヤ將々三百六十六日ヲ
 以テ放免スルモノナルヤヲ定メ置カサルヘカラス若シ然ラサルトキハ同シ一月

又ハ一年ニシテ或ハ三日ノ差違ヲ生シ或ハ一日ノ等差ヲ來スカ如キ不公平ヲ醸スニ至ラン是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ

附加期限トハ
既ニ定メタル
時間ノ外之ニ
附加シテ更ニ
定ムル時間ヲ
云フ

第十六條 此法律ニ定メタル期間ニハ海陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ加フ八里ニ滿サルモノト雖三里以上ナルトキ亦同シ
島嶼又ハ外國ニ付テハ裁判所ニ於テ特ニ附加期間ヲ定ムルコトヲ得

○本條ハ路程ノ遠近ニ從ヒ猶豫期限ヲ定メタルモノトス

問 遠隔ノ地ニ在ル者ニ對シ期限ノ猶豫ヲ與ユル理由如何

答 抑モ本法ニ定メタル訴權實行ノ期限及ヒ訴訟關係人又ハ證人、鑑定人トシテ裁判所ニ出頭スルノ期限ハ裁判所所在ノ地ニ接近シテ住居シタル者ニ而已適用スヘキモノナリ故ニ若シ距離遠隔シタル地ニ住スル者ニ對シテハ其里程ノ遠近ニ從ヒ相當ノ猶豫ヲ與ヘサルヘカラス何トナレハ如何ニ正規ノ期限内ニ出廷シ以テ法律上ノ義務ヲ遵守セント欲スルモ僻遠ノ地ニ住スル者ハ實際之ヲ果ス

能ハス然ルニ尙ホ是等ノ者ニ對シテモ猶豫ヲ與ニス正規ノ期限内ニ出頭スヘキモノトセンカ遠隔ノ地ニ在ル者ハ非常ニ不幸迷惑ヲ感スルコト少シトセサレハナリ但シ第十八條ニ於テ訴訟ヲ爲サントスル者ハ裁判所々在地ニ假住所ヲ定ムヘシトノ規定アルニ依テ觀レハ敢テ本條ヲ設クルノ必要ナキカ如シト雖時ニ證人又ハ參考人、鑑定人ノ如キ假住所ヲ定メ置クニ及ハサル者ヲ呼出サル可カラサル場合アルヲ以テ更ニ此規定ヲ設ケタルモノト知ルヘシ

問 八里以下三里以上ニ一日ノ猶豫ヲ與ユル理由如何

答 是ハ立法者ガ土地ノ形狀ト道路ノ難易トヲ斟酌シ人間一日ノ行程ヲ八里ト假定シ以テ一日ノ猶豫ヲ定メタルモノトス而ノ又三里以上ナル場合ニ於テ尙ホ一日ノ猶豫ヲ與フル所以ハ若シ三里以上ナルトキハ必ス一日カ半日カナ費ヤス而已ナラス七里ノ地ニ住スル者ニハ僅カ一里ノ差違ニ因リ躊躇モ猶豫ヲ與エサルカ如キ不權衡ヲ來スヲ以テ斯ク定メタルモノナリトス

問 島嶼又ハ外國ニ住スル者ニ對シテ別ニ猶豫期限ヲ定メス裁判所ニ於テ特ニ附

加期限ヲ設クルヲ許シタル理由如何

答 島嶼及ヒ外國ハ何レモ海上ヲ隔テ居ルモノナレハ風波若クハ便惡ノ都合等アリテ一概ニ其里數而已ニ因リテ定ムヘキモノニアラス故ニ別ニ一定ノ猶豫期日ヲ定メス裁判所ニ於テ特ニ附加期限ヲ定ムルヲ得ト爲シタリ

第十七條 此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期間ヲ經過シタルトキハ特別ノ場合ヲ除ク外其訴訟ヲ爲ス權ヲ失フ可シ

○本條ハ法律ニ定メタル期限ハ決テ犯スヘカラサルヲ規定シタルモノトス
問 訴訟及ヒ期間トハ如何及ヒ期間ノ經過ニ因リ訴權ヲ失フ理由

答 本條ニ所謂訴訟トハ固ヨリ民事ノ訴訟ヲ云フニ非スシテ公訴、私訴ヲ云ヒ期間トハ豫審又ハ公判ノ言渡ニ對スル上訴、故障及ヒ時效期間ヲ云フナリ而シテ其期間ノ經過ニ因リ訴權ヲ失フ所以ハ蓋シ主權者ノ制定セシ命令即チ法律ヲ遵守セサルヘカラサルハ國民ノ義務ナレハ其法律ニ定メタル一定ノ期間ニ之ヲ訴ヘサルトキハ其訴權ヲ失フヤ敢テ言テ俟タズ然レモ本法第二百四十七條ノ如キ

非常ノ天災又ハ避ク可カラサル事變ニ因リ上訴期限ヲ經過シタルカ如キ場合ニ於テハ此限りニ非ズ何トナレハ是等ノ場合ニ於ケル期間ノ經過ハ元ト意外ノ事變ニ原由シ實際已チ得サルニ出テタルモノニシテ敢テ當事者自ラ訴權ヲ拋棄シタルモノニモ非ス又タ怠慢ヨリ出テタルノニモ非ラサレハナリ

第十八條 訴訟關係人ハ裁判所々在ノ地ニ住セサルキハ其地ニ假住所ヲ定メ裁判所ニ届出ツ可シ否ヲサルトキハ書類ノ送達ヲシト雖異議ヲ申立ツルヲ得ス

○本條ハ訴訟關係人ヲシテ裁判所々在ノ地ニ假住所ヲ定メ置カシムルヲ及ヒ之ヲ爲サ、ルキノ訴訟關係人ノ權利如何ヲ規定シタルモノトス

問 訴訟關係人ヲシテ裁判所々在ノ地ニ假住所ヲ定メシムル所以及ヒ之ヲ爲サルキ異議ノ申立テ許サ、ル理由如何

答 夫レ訴訟ハ成ルヘク元費ヲ節減シ迅速ニ局ヲ結フヲ以テ緊要ト爲ス然ルニ若シ訴訟關係人ヲシテ裁判所々在ノ地ニ假住所ヲ定メシメス一々遠隔ノ地ニ書類

ヲ送達セシムルはレカ爲メ無益ノ費用ト日子トテ徒費スル而已ナラス又テ訴訟其物ヲシテ淹滞セシムルノ恐レアリ是レ其訴訟ニ關係アル者ハ必ス其裁判所々在ノ地ニ假住所ヲ定メシメ以テ之ヲ届出テシムル所以ナリ夫レ然リ然ルニ尙ホ訴訟人ニシテ此規定ニ背キ假住所ヲ定メサルカ縱シ之ヲ定ムルモ其旨ヲ届出テサルハ假令書類ノ送達ナシト雖異議ノ申立ヲ爲スコ能ハサルハ觀易キノ道理ニシテ別ニ評說ヲ要セム何トナレハ此場合ニ於テハ法律ハ自ラ其書類受取りノ權理ヲ拋棄シタルモノト見做スヲ得ベケレハナリ

問 然ラハ訴訟關係人トハ如何

答 訴訟關係人トハ其訴訟ノ判決如何ニ因リテハ其身必ス多少利害ノ關係ヲ有スル者即チ檢事、被告人、民事原告人、及ヒ擔當人ヲ云フナリ然レモ檢事ハ裁判所構成法第六條ニ依リ其裁判所ニ附置セラル、檢事局ヲ以テ住所ト爲スヘキモノナレハ別ニ假住所ヲ定ムルノ必要ナシトス故ニ本條ニ所謂訴訟關係人トハ被告人、民事原告人及ヒ擔當人ヲ指稱スルモノニシテ彼ノ證人、鑑定人ノ如キハ

拘合セサルモノト知ルヘシ何トナレハ證人、鑑定ノ如キハ元ト訴訟ノ判決ニ依リ利害ノ關係ヲ有スル者ニアラサレハ假令裁判所々在ノ地ニ住セサルモト雖決テ假住所ヲ定ムルノ義務アラサレハナリ

問 假住所トハ如何

答 假住所トハ寄留若クハ止宿等一時ノ假住居ニシテ強チ別ニ一家ヲ設置セサルヘカラスト云フニアラス故ニ他人又ハ親類知己ノ内カ若クハ旅館ヲ以テ之ニ充ツルモ敢テ妨ケナシ何トナレハ本條規定ノ精神タルヤ唯ダ書類ノ送達ヲ爲スニ付キ不便不都合ナキ様其所在ヲ假定シ置クヘシトノ主旨ニ外ナラサレハナリ

第十九條 書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定アラサルトキハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

○本條ハ書類送達ノ一ヲ規定シタルモノナリ

問 書類ノ送達方法ヲ規定シ置ク必要如何

答 抑モ訴訟ニ關スル書類ハ其送達ノ遲速及ヒ方法ノ如何ニ因リ原被兩造ニ利害

準用トハ取リ用ユルト云フ意ナリ

ノ關係ヲ生スルモノナレハ宜ク一定ノ方法ヲ設ケ輕忽ニ失スルコトナキヲ要ス是レ本條此刑事訴訟法中ニ規定シアルモノナレハ此法ニ依テ送達セシメ若シ規定シアラサルハ民事訴訟法ノ規定ニ依ルルキ旨ヲ定メタル所以ナリ(民事訴訟法第百三十六條乃至第百五十八條參照刑法)

官吏トハ判事、檢事、裁判所書記、司法警察官、巡查、憲兵卒、等ヲ云フ
公吏トハ執達吏、公證人等ヲ云フ
官吏公吏ニ非サル者トハ告訴人、告發人等ヲ云フ

第二十條 官吏、公吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署公署、ノ印

ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名、捺印シ每葉ニ契印スヘシ若シ官署、公署ノ印ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載スヘシ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ效ナカラスヘシ

官吏、公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ本人自ラ署名、捺印スヘシ若シ署名、捺印スルコト能ハサルトキハ官吏、公吏ノ面前ニ於テ作りタル場合ヲ除ク外立會人代署シ其事由ヲ記載スヘシ

○本條ハ書類ノ作式手續及ヒ其効力ヲ規定シタルモノナリ

問 官吏公吏ノ作ルヘキ書類トハ如何及ヒ其書類ヲ作ルニ付キ本條ニ記載スル種々ノ手續ヲ要スル理由

答 官吏、公吏ノ作ルヘキ書類トハ豫審調書、公判始末書、裁判宣告書及ヒ召喚狀、勾引狀、其他呼出狀等ヲ云フ而シテ是等ノ書類ニ官署若クハ公署ノ印章ヲ用ヒルハ其當該官吏カ職務上作りタルモノナルヤ否ヤヲ表センカ爲メナリ年月日ヲ記スルハ公訴時効ノ期間ヲ何時中斷シタルヤ否ヤヲ明ラカニセンカ爲メナリ場所ヲ記スルハ官吏其管轄區域内ニ於テ爲シタルヤ否ヤヲ證センカ爲メナリ署名捺印スルハ作成者ノ誰ナルコトヲ判然タラシメンカ爲メナリ每葉ニ契印スルハ後日ニ至リ妄リニ紙數ヲ増減スルノ憂ヲ防セカンカ爲メナリ之ヲ要スルニ以上ノ手續ヲ履行セシムル所以ノモノハ其書類ノ確實真正ニシテ決シテ贋造偽物ニ非サルコトヲ證明センカ爲メノ主旨ニ外ナラス故ニ若シ此規定ニ背キ以上ノ手續ヲ爲サ、ルハ其書類ノ無効ナルコト勿論ナリトス然レモ若シ官署ノ印ヲ用ユ

立會人トハ本人ノ署名捺印スルコト能ハサルヲ證スル者ヲ云フ

ルヲ能ハサル場合即チ現行犯罪ノ場合ニ於テ臨檢ヲ要スルルノ如キ事急遽ニシテ官署ノ印ヲ用ユルヲ能ハサルルキ又ハ其他ノ手續ヲ行フヲ能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ附記スルヲ以テ有効ナリトス何トナレハ若シ然ラサルルキハ實際大ニ不都合ヲ生スル而已ナラス之レカ爲メニ其罪證ヲ失フノ恐レナシトセサレハナリ

問 官吏、公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類トハ如何及其手續ヲ爲サシムル理由

答 官吏、公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類トハ告訴狀、告發狀、上訴趣旨及ヒ答辨書等ヲ云フ而シテ是等ノ書類ニ本人ヲシテ署名捺印セシムル所以ノモノハ其眞偽ヲ判然タラシメンカ爲メナリ又若シ本人自ラ署名捺印スルヲ能ハサルルキハ官吏ノ面前ニ於テ作りタル場合ヲ除ク外立會人ニ代署セシメ其事由ヲ記載セシムル所以ノモノハ他日ニ至リ本人ノ抗拒ヲ防セカンカ爲メナリトス故ニ此規定ニ背キタルルキハ矢張り公書ト同シク其書類ノ効ナキヤ論ヲ俟タサルナリ

第二十一條 官吏其他何人ニ限ラス訴訟ニ關スル書類ノ原本、

原本トハ根原ノ書類及ヒ其帳簿ヲ云ヒ正

本トハ正式ニ用ヒラル、書類ヲ云ヒ謄本トハ其寫シヲ

正本、又ハ謄本ヲ作ルニ付キ文字ヲ改竄ス可カラズ若シ挿入削除、及ヒ欄外ノ記入アルトキハ之ニ認印スヘシ文字ヲ削除スルルキハ之ヲ讀得ヘキ爲メ字体ヲ存シ其數ヲ記載スヘシ此規定ニ背キタルトキハ其變更、増減ノ効チカル可シ

○本條ハ訴訟書類ヲ作ル者ノ遵守スヘキ規則ヲ定メタルモノトス

問 訴訟ニ關スル書類ニ於テ文字ノ改竄ヲ許サ、ル理由及ヒ之レカ増減、變更ヲ爲ストノ手續如何

答 元來書類ハ後日ノ參考保證トナルヘキモノナレハ宜ク之ヲ鄭重ニセサル可カラズ就中訴訟ニ關スル書類ハ原告又ハ被告ノ權利義務ニ係ハルモノナレハ普通ノ書類ニ比シテ尙ホ一層鄭重ヲ加サルヘカラス夫レ然リ然ルニ若キ文字ヲ自由ニ改竄スルヲ許サンカ改竄ノ爲至ク其本体ヲ失ヒ遂ニ偽詐ヲ行フ者アルノ恐レアルニ至ラン故ニ本條ニ於テハ改竄ヲ許サ、ル旨ヲ定メタリ然レモ脱字ヲ側ニ挿入シ若クハ欄外ニ記入シ及ヒ尙字ヲ削除スルハ敢テ法律ノ禁スル所ニ非ス

唯此場合ニ於テハ之ニ認印ヲ爲シ以テ他人ノ手ニ係ハラサルヲ明示シ其字
 數ヲ記載シ以テ他人ノ追加ヲ防カサルヘカラス若シ然ラサルハ之レカ爲メ詐
 僞行ハレ易ク遂ニ關係人ノ權利ヲ害スルニ至ラン且又削除ヲ爲ストキハ唯タニ
 認印スルト字數ヲ記載スルトニ止ラス必ス讀得ヘキ爲メ其字体ヲ存セサルヘカ
 ラス何トナレハ唯タニ字數ヲ記スルモ其字体ヲ存セサルトキハ又改竄ト等シキ
 危害ヲ生スルノ恐レアレハナリ是レ本條ニ於テ若シ此規定ニ背キタルトキハ其
 變更増減ノ効ナシト定メタル所以ナリトス

第二十二條 此法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス
 頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサルトキハ其
 効アリトス

○本條ハ舊法ヲ廢シ新法ヲ施行スル際ニ用ユヘキ規則ヲ定メタルモノトス
 問 訴訟法ノ既往ニ遡ル理由如何

答 抑モ法律ハ既往ニ遡ヘカラストハ法律上ノ一大原則ナリ然レモ此原則ハ唯

タ既得ノ權利ヲ傷害スル場合而已ニ限り適用スヘキモノナレハ訴訟法ハ其民事
 タルト刑事タルトテ問ハス總テ既往ニ遡ルヘキモノトス即チ舊法律ノ下ニ起リ
 タル既往ノ犯罪事件ヲ審判スルニ新法ヲ以テスルヲ得何トナレハ元來訴訟法
 ハ罪ヲ定メタルモノニ非スシテ其罪ヲ審判スル手續方法ヲ規定シタルモノニ過
 キサレハ縱シ之ヲ遡ラシムルモ敢テ既得權ヲ傷害スルモノニアラサレハナリ加
 之ナラス新ニ發布シタル訴訟法ハ舊時ノ訴訟法ニ比較シ鄭重完全ナルヲ當然ナ
 レハ決テ無辜ヲ罰シ有罪ヲ免レシムルカ如キ患ヒナシ是レ此刑事訴訟法ヲシテ
 頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦適用スト定メタル所以ナリ

問 然ラハ頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサルトキハ如何

答 頒布以前ニ爲シタル訴訟手續即チ既ニ舊法ニ從リ證人又ハ事實參考人等ヲ訊
 問シ其調書ヲ作りタル後チ新法頒布アリト雖其手續當時ノ法律即チ舊法ニ背カ
 サルトキハ假令新法ト齟齬スル所アルモ其既ニ爲シタル手續ハ有効トセサルヘ
 カラス何トナレハ若シ之ヲ無効トセンカ更ニ以前ノ證人、參考人ヲ呼出シ之ヲ

訊問セサルヘカラス然ルニ萬一其證人等死去シタルカ如キ場合ニ於テハ最早犯罪事實ヲ調査スルノ道ナキヲ以テ遂ニ犯人ヲ罰スルヲ能ハサルニ至ラン是レ本條第二項ノ規定ヲ要スル所以ナリ

第二十三條 此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分ス可キ者ニ適用スルヲ得ス

○本條ハ此刑事訴訟法ト陸海軍人ニ就テノ訴訟手續トハ全ク相關係セサルモノナルヲ示シタルモノ即チ陸海軍ニハ自ラ陸海軍ノ法律アリテ其規定スル所モ亦自ラ通常人民ト其趣ヲ異ニスルモノナレハ之ヲ適用スヘキモノニアラズ此訴訟法ハ單ニ通常人民ヲ支配スルモノナルヲ示シタルモノトス

問 普通人民ト軍人ト法律ヲ異ニスル理由如何

答 普通ノ人民ニ適用スル法律ハ專ラ權利ヲ重シ自由ヲ賈ビ妄リニ罪人視スルヲナク審判ノ手續方法等至テ鄭重ニセサルヘカラスレ軍人ニ適用スル法律ハ軍務上ノ必要ニ因リ信償必罰毫モ假酌スル所ナキヲ以テ二者ノ關係々綴嚴シ異

ニセサルヘカラス是レ普通人民ト軍人トノ法律ヲ異ニスル所以ナリトス

第二十四條 此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百二十四條百五條ノ規定ニ從フ

○本條ハ本法ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法ノ親屬例ニ依ルヘキヲ示シタルモノトス(刑法第百十四條及第百十五條参照)

問 本法ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法ノ規定ニ從フト爲シタル所以及ヒ之ヲ定メ置クノ必要如何

答 刑法ト此刑事訴訟法トハ元ト密接ノ關係ヲ有スルモノナレハ刑法ニ規定スル所ノ親族ト本法ニ規定スル所ノ親屬トハ差異アルヘカラス若シ差異アリトセハ時ニ或ハ二者抵觸ヲ來スノ場合アリテ大ニ不都合ヲ生スルニ至ラン是レ本條ニ於テ特更ニ刑法ノ規定ニ從フト記載シタル所以ナリ又此訴訟法ニ於テ親屬ト否トヲ定メ置カサルヘカラス所以ノモノハ裁判所職員ノ除斥、忌避、回避、及ヒ證人ノ點等ニ於テ必要ナレハナリ

第一 第一審ト
 第二 第二審ト
 第三 第三審ト
 第四 特別刑事
 第五 特別刑事
 第六 特別刑事
 第七 特別刑事
 第八 特別刑事
 第九 特別刑事
 第十 特別刑事
 第十一 特別刑事
 第十二 特別刑事
 第十三 特別刑事
 第十四 特別刑事
 第十五 特別刑事
 第十六 特別刑事
 第十七 特別刑事
 第十八 特別刑事
 第十九 特別刑事
 第二十 特別刑事
 第二十一 特別刑事
 第二十二 特別刑事
 第二十三 特別刑事
 第二十四 特別刑事
 第二十五 特別刑事
 第二十六 特別刑事
 第二十七 特別刑事
 第二十八 特別刑事
 第二十九 特別刑事
 第三十 特別刑事
 第三十一 特別刑事
 第三十二 特別刑事
 第三十三 特別刑事
 第三十四 特別刑事
 第三十五 特別刑事
 第三十六 特別刑事
 第三十七 特別刑事
 第三十八 特別刑事
 第三十九 特別刑事
 第四十 特別刑事
 第四十一 特別刑事
 第四十二 特別刑事
 第四十三 特別刑事
 第四十四 特別刑事
 第四十五 特別刑事
 第四十六 特別刑事
 第四十七 特別刑事
 第四十八 特別刑事
 第四十九 特別刑事
 第五十 特別刑事
 第五十一 特別刑事
 第五十二 特別刑事
 第五十三 特別刑事
 第五十四 特別刑事
 第五十五 特別刑事
 第五十六 特別刑事
 第五十七 特別刑事
 第五十八 特別刑事
 第五十九 特別刑事
 第六十 特別刑事
 第六十一 特別刑事
 第六十二 特別刑事
 第六十三 特別刑事
 第六十四 特別刑事
 第六十五 特別刑事
 第六十六 特別刑事
 第六十七 特別刑事
 第六十八 特別刑事
 第六十九 特別刑事
 第七十 特別刑事
 第七十一 特別刑事
 第七十二 特別刑事
 第七十三 特別刑事
 第七十四 特別刑事
 第七十五 特別刑事
 第七十六 特別刑事
 第七十七 特別刑事
 第七十八 特別刑事
 第七十九 特別刑事
 第八十 特別刑事
 第八十一 特別刑事
 第八十二 特別刑事
 第八十三 特別刑事
 第八十四 特別刑事
 第八十五 特別刑事
 第八十六 特別刑事
 第八十七 特別刑事
 第八十八 特別刑事
 第八十九 特別刑事
 第九十 特別刑事
 第九十一 特別刑事
 第九十二 特別刑事
 第九十三 特別刑事
 第九十四 特別刑事
 第九十五 特別刑事
 第九十六 特別刑事
 第九十七 特別刑事
 第九十八 特別刑事
 第九十九 特別刑事
 第一百 特別刑事

○第二編、裁判所

ル權限ヲ規定シタル所以ナリトス

問 然ラハ管轄ヲ異ニスル數箇ノ犯罪ニ付同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタル時トハ如何ナル場合ヲ云フカ且ツ此場合ニ於テ上級ノ裁判所ヲシテ併セテ管轄セシムルノ理由如何

答 管轄ヲ異ニスル云々トハ一人ニシテ數罪即チ重罪輕罪違警罪等ヲ犯シタルナリ同時ニ裁判スル場合ヲ云フモノニシテ斯ハ第一項ノ例外ヲ定メタルモノトス而シテ此場合ニ於テ上級ノ裁判所ヲシテ併セテ裁判セシムル所以ノモノハ既ニ刑法ニ數罪俱發重キニ從ツテ處斷スルノ明文アルニ因リ上級ノ裁判所ヲシテ同一ノ被告人ニ對スル輕重二罪ヲ併セ審判セシムルハ第一訴訟ノ落着キテ迅速ナラシメ且ツ其費用手續等ヲ省略シ得ルノ實益アル而已ナラス尙又裁判官力其判決ヲ爲スニ當テモ悉ク被告人ノ罪狀ヲ認知シ得ルニ依リ其判決ヲ容易ナラシムルノ利益アルヲ以テナリ約言セハ法律ハ自他ノ利益即チ被告人ノ利益ト社會ノ利益トヲ計リ以テ斯ク定メタル所以ナリ

第二十六條 同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトス

○本條ハ土地ノ區劃ニ因リ裁判所ノ管轄ヲ規定シタルモノトス

問 土地ノ區劃ニ因リ裁判所ノ管轄ヲ定ムル必要如何

答 罪ノ種類ニ因リ裁判所ノ管轄ヲ定メ置カサルハ前條既ニ述ヘタルカ如シト雖凡ソ全國ニハ幾多ノ同等裁判所即チ同一ノ權限地位ヲ有スル地方裁判所又ハ裁判所アレハ法律ハ宜シク右同等ノ裁判所ニ於テハ何レノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトスル乎ヲ豫メ定メ置カサルハカラス若シ然ラサルハ實際大ニ不都合ヲ生スルニ至ラン是レ本條殊ニ土地ノ區劃ニ依テ以テ其裁判所ノ管轄ヲ區別シタル所以ナリ

問 同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄トナス理由如何

答 同等ノ裁判所中何レノ裁判所ヲ以テ其管轄トナスヤ否ヤヲ定ムルニハ宜シク

刑ノ決定及命
 令ニ對スル法
 律ニ定メタル
 第五十條
 第一項ニ付
 第一審トシ
 第二審トシ
 第三審トシ
 第三十七條
 第三十八條
 第三十九條
 第四十條
 第四十一條
 第四十二條
 第四十三條
 第四十四條
 第四十五條
 第四十六條
 第四十七條
 第四十八條
 第四十九條
 第五十條
 第五十一條
 第五十二條
 第五十三條
 第五十四條
 第五十五條
 第五十六條
 第五十七條
 第五十八條
 第五十九條
 第六十條
 第六十一條
 第六十二條
 第六十三條
 第六十四條
 第六十五條
 第六十六條
 第六十七條
 第六十八條
 第六十九條
 第七十條
 第七十一條
 第七十二條
 第七十三條
 第七十四條
 第七十五條
 第七十六條
 第七十七條
 第七十八條
 第七十九條
 第八十條
 第八十一條
 第八十二條
 第八十三條
 第八十四條
 第八十五條
 第八十六條
 第八十七條
 第八十八條
 第八十九條
 第九十條
 第九十一條
 第九十二條
 第九十三條
 第九十四條
 第九十五條
 第九十六條
 第九十七條
 第九十八條
 第九十九條
 第一百條

○第三編、裁判所

事實發見ノ爲メ便宜ナル所ニ從ツテ之ヲ定メサルヘカラス即チ犯罪ノ地ハ其事
 件ニ欠クヘカラス證人ノ住スル所證據徵憑ノ在ル所其罪ニ因リ損害ヲ蒙リタ
 ル者ノ住スル所ナレハ事實發見ニハ最モ便宜ナルニ依リ犯罪ノ地ヲ以テ之レカ
 管轄トナサ、ルヘカラスハ勿論ナリ然リト雖若シ其被告人犯罪地ニ居ラス他
 ノ管轄地ニ逃走シ以テ逮捕セラレタル場合ニ於テハ之ヲ逮捕シタル地即チ被告
 人所在ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ト爲サ、ルヘカラス何トナレハ
 尙ホ此場合ニ於テモ犯罪ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ト爲サン乎被告人所在地ノ
 裁判所ハ之ヲ審判スルノ權限ナキヲ以テ必ス犯罪地ノ裁判所ニ護送セサルヘカ
 ラス果テ然ラハ徒ニ無用ノ時日ト費用トヲ要スル而已ナラス又或ハ途中被告
 人逃亡スルノ患ナシトセサレハナリ是レ本條ニ於テ犯罪ノ地及ヒ被告人所在ノ
 地ノ裁判所ヲ以テ管轄ト同一ニシタル理由ナリトス

第二十七條 數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハ其中ニテ最
 初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

問 數箇ノ裁判所ノ管轄トハ如何ナル場合ヲ云フ乎及ヒ此場合ニ於テ最初豫審又
 ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄トナス理由如何

答 數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合トハ例ヘハ甲裁判所管轄地内ニ於テ或ル一箇ノ
 犯罪ヲ爲シ乙裁判所管轄地内ニ逃走シ同地ニ於テ逮捕セラレタルハ甲犯罪地
 ノ裁判所モ之レカ管轄權ヲ有シ乙逮捕地即チ被告人所在地ノ裁判所モ亦之ヲ有
 スルカ如キ場合ヲ云フ而テ此場合ニ於テ既ニ犯罪地ノ裁判所ニ公訴起リタルニ
 モ係ラス尙ホ所在地ノ裁判所ニ於テモ亦之レカ起訴ヲ爲シタルハ如何最初豫
 審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ト爲サ、ルヘカラス何トナレハ必
 竟最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ハ其事件ニ關スル證據徵憑等最モ多ク
 存シ居ル而已ナラス先ニ審査ニ着手シ居ルヲ以テ其手續モ亦幾分カ進行シ居レ

○第二編、裁判所

ハナリ是レ必竟事實發見上若クハ便宜上斯ク定メタル所以ナリ

第二十八條 從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリト

ス

數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アルトキハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス
裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル皇族ノ犯罪ニ付テハ其正犯、從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス大審院ニ於テ之ヲ管轄ス

○本條ハ從犯ノ裁判管轄、數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アルトキノ裁判管轄、及ヒ皇族ノ犯罪ニ付テノ裁判管轄ヲ定メタルモノトス

問 從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄トナス理由如何

答 抑モ從ハ主ニ從フル一般普通ノ原則ナレハ正犯ヲ管轄スル裁判所ニ於テ其從犯ヲ併セテ管轄スル是レ誠ニ至當ノヲナリトス若シ從犯ト正犯トノ豫審若クハ

公判ヲ各區々ノ裁判所ニ於テ管轄スルトセン乎其犯罪事實ノ連絡關係等ヲ判知スルヲ誠ニ難ク遂ニ事實ヲ發見シテ正確ノ裁判ヲ爲スト能ハサルニ至ラン之ニ反シ正犯ヲ管轄スル裁判所ニ於テ其從犯ヲモ併セ管轄セシムルハ唯ニ二重ノ手數ヲ省ク而已ナラス事實發見、費用節減等ノ點ニ於テ大ニ利益アリトス是レ本條第一項ニ於テ從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ニ於テ併セテ管轄スル旨ヲ規定シタル所以ナリ

問 數箇區裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アル時トハ如何ナル場合ヲ云フ乎且ツ此場合ニ於テ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ト爲ス理由如何

答 數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アルトハ決テ數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル個々別々ノ正犯者數名アルカ如キ場合ヲ云フモノニアラシステ一箇ノ犯罪ニ付犯罪者數名アルトキ即チ共犯人數名アルトキ云フ例ハ茲ニ三人ノ共犯者アリテ甲ハ東京ニ於テ捕縛セラレ乙ハ横濱ニ於テ捕縛セラレ丙ハ大阪ニ於テ捕

縛セラレタルカ如キ場合ヲ云フナリ而シテ此場合ニ於テハ何レノ裁判所モ各被告
 人所在地ノ政ヲ以テ之レカ裁判權ヲ有スト雖其正犯ニ輕重ノ別ナク又其裁判
 所ニ上下ノ差ナケレハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其
 管轄ト爲サ、ルヘカラス何トナレハ前已ニ述ヘタルカ如ク最初豫審又ハ公判ニ
 着手シタル裁判所ニ於テハ其事件ニ關スル證據徵憑等ノ最モ多ク存シ居ル而已
 ナラス若シ右三箇ノ裁判所ヲシテ各別々ニ裁判セシムルトセバ其判決或ハ輕重
 寬嚴ノ差異ナキヤ保スヘカラス果シテ然ラハ唯ニ裁判所ノ異ナルニ依リテ其刑
 ニ輕重寬嚴アルノ誹リヲ社會ニ發表スルノ不都合ヲ生ズ加之ナラス尙ホ且ツ各
 被告人ニ就テ幸不幸ヲ生スルニ至ラン故ニ此場合ニ於テハ假令經費ノ如何ヲ顧
 ミス又護送途中ノ危險アルニ關ラス其中最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所
 ナリテ其管轄ト爲サ、ルヘカラスナリ

問 皇族ノ犯罪ニ付テハ其正犯、從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス大審院ニ於テ之ヲ管
 轄スル理由如何

答 夫レ皇族ハ天皇ノ御一族ニノ吾人國民中最モ尊崇スヘク最モ貴重スヘキ人々
 ナレハ假令誤リテ犯罪ヲ爲スカ如キアリト雖通常裁判所ヲ以テ之カ裁判ヲ爲
 スヘカラス必ス高等ノ裁判所ニ於テ裁判セサルヘカラス是レ裁判所構成法第五
 十條第二號ニ記載シタル(本法第二篇五條 行頭參看)皇族ノ犯罪ニ付テハ正犯タルト從犯タル
 トヲ問ハス且其身分ノ華族タルト平民タルトヲ論セス總テ大審院ニ於テ管轄ス
 ヘキ旨ヲ規定シタル所以ナリ之ニ由テ是ヲ觀レハ假令平民正犯ニシテ皇族之レ
 カ從犯タル場合ト雖正犯タル平民ハ其從犯タル皇族ト共ニ大審院ニ於テ裁判セ
 ラルヘキモノナリトス

問 既ニ正犯ノミニ對シ裁判アリタルトキハ其從犯ノ管轄如何
 答 一裁判所ニ於テ正從二犯ヲ併セ審判スルノ益アルハ前已ニ述ヘタルカ如ク正
 犯、從犯ニ對スル公訴ヲ同時ニ受理シタル場合ニ限ルモノナレハ既ニ正犯ノミ
 ニ對シテ裁判アリタルトキハ無論當然ノ管轄裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

第二十九條 外國ニ在テ犯シタル罪本邦ノ法律ニ依リ處斷スヘ

欠席判決トキ
被告人出頭セ
サルトキ爲ス
判決ヲ云フ

キモノニシテ内地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ逮捕ノ地
ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス又外國ヨリ送致シタルトキハ
送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス
欠席判決ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ被告人最後ノ住所ノ地ノ裁
判所ヲ以テ其管轄ナリトス

○本條ハ外國ニ在テ犯シタル罪ノ裁判管轄及ヒ欠席判決ヲ爲スヘキ場合ニ於
テノ裁判管轄ヲ定メタルモノナリ

問 外國ニ在テ日本ノ法律ヲ犯シタル被告人ヲ内地即チ日本ニ於テ逮捕シタルト
キハ其逮捕地ノ裁判所ヲ以テ其管轄トシ又外國ヨリ送致シタルトキハ送致ノ地ノ
裁判所ヲ以テ其管轄トナス理由如何

答 抑モ法律ハ一國ノ主權ヲ以テ其國ノ安寧秩序ヲ維持センカ爲メニ設ケタルモ
ノナレハ其支配スル所ノ區域モ亦其主權ノ及ブ處即チ一國內ニ止ラサルヘカ
ス果シテ然ラハ外國ニ於テ罪ヲ犯シタルカ如キ場合ニ於テハ其外國ニ於ケル
犯罪地ハ假令明瞭シ居ルト雖其犯罪ノ地ナル外國ノ裁判所ヲ以テ之レカ管轄

ト爲ス能ハサルヤ明カナリ故ニ外國ニ在テ犯罪ヲ爲シ其罪日本ノ法律ニ依テ處
斷スヘキ時ニ於テ被告人ヲ内地即チ日本ニ於テ逮捕シタルトキハ犯罪ハ外國ナ
ルカ故ニ被告人ヲ逮捕シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトシ若シ又被告人外
國ニ於テ逮捕セラレタトキハ其犯罪ノ地モ逮捕ノ地モ外國ナルカ故ニ二者共ニ管
轄權ヲ有セサレハ必スヤ我國ニ送致セサルヘカラス此場合ニ於テハ送地ノ地ノ
裁判所ヲ以テ其管轄トナサルヘカラス蓋シ逮捕地又ハ送致ノ地ハ其罪ヲ審理
スルニ最モ便宜ナル所ナレハナリ

問 外國ニ於テ犯シタル犯罪ニ付欠席判決ヲ爲スヘキ場合ノ裁判管轄如何

答 外國ニ在テ犯シタル罪ニ付欠席判決ヲ爲スヘキトキハ我國ニ犯罪ノ地ナキハ
勿論又逮捕ノ地及ヒ送地ノ地ナキヲ以テ法律ニ於テハ被告人最後ノ住所ノ地ノ
裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス何トナレハ住所ノ地ハ犯罪ヲ審査スルニ必要ナル
被告人ノ品行交際生計ノ方法等ヲ吟味スルニ最モ便利ナル所ナレハナリ

第三十條 海船内ノ犯罪ニ付テハ定繫港又ハ犯罪後最初ニ着船

シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

○本條ハ海船内ノ犯罪ニ付テハ何レノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄トナスヤチ定メタルモノナリ

問 海船内ノ犯罪ニ付テハ何レノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄トナスヤ及其理由如何

答 船舶未タ發港セス一定ノ定繫港ニ碇泊中其船内ニ於テ犯罪アリタルトキハ其定繫港ニアル裁判所之レカ管轄ヲ爲スヘキハ當然ノコトニシテ今茲ニ論ヲ俟タス

ト雖既ニ定繫港ヲ發シテ其航海途中ニ犯罪アリタルトキハ如何此場合ニ於テハ犯罪後最初ニ着船シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ト爲サ、ルヘカラス何トナレハ若シ此場合ニ於テモ尙ホ定繫港ヲ以テ其管轄ト爲ストセバ既ニ數十里ヲ航海シタル船舶モ態々途中ヨリ引返サ、ルヘカラスルノ不幸ヲ來シ從テ徒ニ無益ノ時日ト經費トヲ要スルノ不都合ヲ生スルニ至ラン然ラハ再ヒ歸港スルヲ待テ之ヲ處分スルトセン乎其長キ時日ニハ或ハ犯人逃亡スルノ患ヒナシトセサレハ法律ハ便宜上犯罪アリタル後第一ニ着シタル地ノ裁判所ヲ以テ之レカ管轄ヲ爲ス

申請トハ願出

テルヲ云フ

裁判所構成

法

第十條 法律ヲ以テ定メタルノ場
テ除メテ外左ノ場
合ニ於テ適當ノ申
請アリトキハ關係
アル各裁判所ハ併
シテ之ヲ管轄スル
ヘキトス

第十一條 船舶内
ニ於テ犯罪アリタル
トキハ其定繫港ニ
碇泊中其船内ニ於
テ犯罪アリタルト
キハ其定繫港ニアル
裁判所之レカ管轄
ヲ爲スヘキトス

第十二條 船舶内
ニ於テ犯罪アリタル
トキハ其定繫港ニ
碇泊中其船内ニ於
テ犯罪アリタルト
キハ其定繫港ニアル
裁判所之レカ管轄
ヲ爲スヘキトス

第十三條 船舶内
ニ於テ犯罪アリタル
トキハ其定繫港ニ
碇泊中其船内ニ於
テ犯罪アリタルト
キハ其定繫港ニアル
裁判所之レカ管轄
ヲ爲スヘキトス

第十四條 船舶内
ニ於テ犯罪アリタル
トキハ其定繫港ニ
碇泊中其船内ニ於
テ犯罪アリタルト
キハ其定繫港ニアル
裁判所之レカ管轄
ヲ爲スヘキトス

第十五條 船舶内
ニ於テ犯罪アリタル
トキハ其定繫港ニ
碇泊中其船内ニ於
テ犯罪アリタルト
キハ其定繫港ニアル
裁判所之レカ管轄
ヲ爲スヘキトス

ヘキモノト定メタリ

第三十一條 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲ス場合及ヒ其決定ヲ爲ス裁判所ハ裁判所構成法第十條ノ裁定ニ從フ

○本條ハ裁判所ノ管轄不分明ナルトキニ於テ其指定ニ付キ申請ヲ爲ス場合及ヒ其決定ヲ爲ス裁判所ノコトヲ規定シタルモノトス

問 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲ス場合及ヒ其決定ヲ爲ス裁判所ヲ定メ置ク必要如何

答 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲ス場合トハ甲乙裁判所ニ於テ其管轄權限ヲ争ヒ何レノ裁判所ヲ以テ管轄スヘキモノナルヤ否ヤ判然セサルトキ又ハ忌避ノ原由若クハ非常ノ事變ニ付キ訴訟事件ヲ管理スルコト能ハサル時等ニ於テ檢事若クハ其他ノ訴訟關係人ヨリ之レカ指定ノ申請ヲ爲ス場合ヲ云フ而シテ此場合ニ於テ其申請ヲ受タル裁判所即チ直近上級ノ裁判所ハ之レカ決定ヲ爲シ以テ其管轄ヲ指定セサルヘカラス夫レ然リ然ルニ若シ豫メ之レカ規定ヲ爲シ置カザラン

第二編 裁判所
 第一節 裁判所ノ管轄
 第二章 裁判所ノ管轄
 第三節 裁判所ノ管轄
 第四節 裁判所ノ管轄
 第五節 裁判所ノ管轄
 第六節 裁判所ノ管轄
 第七節 裁判所ノ管轄
 第八節 裁判所ノ管轄
 第九節 裁判所ノ管轄
 第十節 裁判所ノ管轄
 第十一節 裁判所ノ管轄
 第十二節 裁判所ノ管轄
 第十三節 裁判所ノ管轄
 第十四節 裁判所ノ管轄
 第十五節 裁判所ノ管轄
 第十六節 裁判所ノ管轄
 第十七節 裁判所ノ管轄
 第十八節 裁判所ノ管轄
 第十九節 裁判所ノ管轄
 第二十節 裁判所ノ管轄
 第二十一節 裁判所ノ管轄
 第二十二節 裁判所ノ管轄
 第二十三節 裁判所ノ管轄
 第二十四節 裁判所ノ管轄
 第二十五節 裁判所ノ管轄
 第二十六節 裁判所ノ管轄
 第二十七節 裁判所ノ管轄
 第二十八節 裁判所ノ管轄
 第二十九節 裁判所ノ管轄
 第三十節 裁判所ノ管轄
 第三十一節 裁判所ノ管轄
 第三十二節 裁判所ノ管轄
 第三十三節 裁判所ノ管轄
 第三十四節 裁判所ノ管轄
 第三十五節 裁判所ノ管轄
 第三十六節 裁判所ノ管轄
 第三十七節 裁判所ノ管轄
 第三十八節 裁判所ノ管轄
 第三十九節 裁判所ノ管轄
 第四十節 裁判所ノ管轄
 第四十一節 裁判所ノ管轄
 第四十二節 裁判所ノ管轄
 第四十三節 裁判所ノ管轄
 第四十四節 裁判所ノ管轄
 第四十五節 裁判所ノ管轄
 第四十六節 裁判所ノ管轄
 第四十七節 裁判所ノ管轄
 第四十八節 裁判所ノ管轄
 第四十九節 裁判所ノ管轄
 第五十節 裁判所ノ管轄
 第五十一節 裁判所ノ管轄
 第五十二節 裁判所ノ管轄
 第五十三節 裁判所ノ管轄
 第五十四節 裁判所ノ管轄
 第五十五節 裁判所ノ管轄
 第五十六節 裁判所ノ管轄
 第五十七節 裁判所ノ管轄
 第五十八節 裁判所ノ管轄
 第五十九節 裁判所ノ管轄
 第六十節 裁判所ノ管轄
 第六十一節 裁判所ノ管轄
 第六十二節 裁判所ノ管轄
 第六十三節 裁判所ノ管轄
 第六十四節 裁判所ノ管轄
 第六十五節 裁判所ノ管轄
 第六十六節 裁判所ノ管轄
 第六十七節 裁判所ノ管轄
 第六十八節 裁判所ノ管轄
 第六十九節 裁判所ノ管轄
 第七十節 裁判所ノ管轄
 第七十一節 裁判所ノ管轄
 第七十二節 裁判所ノ管轄
 第七十三節 裁判所ノ管轄
 第七十四節 裁判所ノ管轄
 第七十五節 裁判所ノ管轄
 第七十六節 裁判所ノ管轄
 第七十七節 裁判所ノ管轄
 第七十八節 裁判所ノ管轄
 第七十九節 裁判所ノ管轄
 第八十節 裁判所ノ管轄
 第八十一節 裁判所ノ管轄
 第八十二節 裁判所ノ管轄
 第八十三節 裁判所ノ管轄
 第八十四節 裁判所ノ管轄
 第八十五節 裁判所ノ管轄
 第八十六節 裁判所ノ管轄
 第八十七節 裁判所ノ管轄
 第八十八節 裁判所ノ管轄
 第八十九節 裁判所ノ管轄
 第九十節 裁判所ノ管轄
 第九十一節 裁判所ノ管轄
 第九十二節 裁判所ノ管轄
 第九十三節 裁判所ノ管轄
 第九十四節 裁判所ノ管轄
 第九十五節 裁判所ノ管轄
 第九十六節 裁判所ノ管轄
 第九十七節 裁判所ノ管轄
 第九十八節 裁判所ノ管轄
 第九十九節 裁判所ノ管轄
 第一百節 裁判所ノ管轄

○第二編、裁判所

乎右等ノ場合ニ於テハ何レノ裁判所ニ訴フヘキモノナルヤ判然セサルヲ以テ遂ニ審判ノ道ナク訴訟人ノ迷惑實ニ甚シ是レ本條ニ於テ其決定ヲ爲ス裁判所ハ裁判所構成法第十條云々ノ記載アル所以ナリ

第三十二條 管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請ハ檢事其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スヲ得

大審院ニ於テ管轄裁判所ヲ指定スヘキ場合ニ於テハ檢事總長ハ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其申請ヲ爲スヲ得

○本條ハ管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲シ得ヘキ人ヲ定メタルモノナリ

問 管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請ヲ爲シ得ヘキ人及ヒ其之ヲ爲サシムル理由如何

答 管轄裁判所指定ニ付テノ申請ハ檢事又ハ其他ノ訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スモノトス即チ檢事ハ公訴ヲ豫審判事ニ提起スルノ時ニ於テ又其他ノ訴訟關係人即チ民事原告人ハ私訴ヲ爲スノ場合ニ於テ其管轄裁判所ノ定ラサルトキ之レカ指定ノ申請ヲ爲サ、ルルヘカラス何トナレハ若シ社會ノ原告人タル檢事ニシテ之ヲ

爲シ得サルトセン乎遂ニ犯者ヲ罰スルノ道ナク又若シ民事原告人ニシテ之ヲ爲シ得サルトセン乎是亦自己ノ損害賠償ヲ要求スルノ術ナキニ至ラン是レ本條ニ於テ檢事又ハ其他ノ訴訟關係人ハ其指定ニ付テノ申請ヲ爲スヲ得ト爲シタル所以ナリ

問 大審院ニ於ニ管轄裁判所ヲ指定スヘキ場合如何

答 此場合ニ於テハ檢事總長ハ司法大臣ニ具申シ其命令ニ從フカ又ハ職權ヲ以テ其申請ヲ爲サ、ルヘカラス蓋シ大審院ハ最上級ノ裁判所ナレハ之ヲ措テ他ニ上級ノ裁判所アラサレハナリ

第三十三條 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲サントスル者ハ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ其趣意書ヲ差出スヘシ
 裁判所ハ書類ニ依リ其申請ヲ決定スヘシ

○本條ハ管轄裁判所ノ指定ニ付申請ヲ爲ス手續及ヒ之ヲ受タル裁判所ノ決定方法ヲ規定シタルモノトス

問 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲ス手續及ヒ其申請ヲ受ケタル裁判所ノ決定

如何

答 裁判所ノ管轄指定ノ申請ヲ爲スニハ其趣意書ヲ申請ニ付管轄ノ權アル裁判所ニ差出シテ之ヲ申請スヘシ而テ其申請ヲ受理シタル裁判所ハ別ニ口頭辨論ヲ用ヒス其趣意書ニ依テ直チニ其管轄ノ當否ヲ決定スヘキモノトス

第三十四條 犯罪ノ性質、被告人ノ身分、員數、地方ノ民心、其他重大ナル事情ニ由リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スルノ恐れアルトキハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

○本條ハ公安ノ爲メ其事件ヲ他ノ同等ナル裁判所ニ移ス場合ヲ規定シタルモノナリ

問 犯罪ノ性質、被告人ノ身分、員數、地方ノ民心、其他重大ナル事情トハ如何及ヒ此場合ニ於テ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移ス理由

答 犯罪ノ性質トハ彼ノ國事犯ノ如キ其趣意トスル所多ク地方ノ利益ヲ計ランカ爲メ又ハ政府ノ失政ヲ矯正セント欲シ以テ犯罪ヲ爲シタルカ如キ場合ヲ云ヒ被告人ノ身分トハ其土地ニ名望高キ者被告人トナリタル場合ノ如キヲ云ヒ員數ト

ハ被告人多數ナルト即チ兇徒聚衆罪ノ如キ多數ノ被告人アル場合ヲ云フ又地方ノ民心トハ一地方ノ民心其被告人ニ歸服シ敬慕シ居ルカ又ハ厭嫌シ居ル場合ヲ云フナリ而テ斯ノ如キ場合ノ外尙ホ重大ナル事情アルニ由リテハ其事件ヲ他ノ同等ナル裁判所ニ移シ以テ公安ヲ保維セサルヘカヲサナリ何トナレハ右等ノ如キ場合ニ於テハ或ハ其被告人ヲ敬慕スルカ爲メ或ハ又タ被告人多數ナルカ爲メニ其裁判所ヲ妨害シ若クハ被告人ヲ強奪セントスルカ如キ紛擾危險ヲ生スルノ恐れナシトセサレハナリ是レ本條規定ノ必要アル所以ナリ

第三十五條 公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ司法大臣ノ命ニ因リ大審院檢事總長ヨリ其院ニ之ヲ爲スヘシ
大審院ニ於テハ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クコトヲ其申請ヲ決定スヘシ

○本條ハ公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ爲ス手續及ヒ之ヲ受タル大審院ノ決定方法ヲ規定シタルモノナリ

問 公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請手續如何

答 抑モ公安ヲ害スル事件ハ社會ノ秩序ヲ亂タシ國家ノ安寧ヲ傷フモノニシテ實ニ重且ツ大ナル事柄ナルヲ以テ輕々ニ之ヲ處スヘカラス即チ此申請ヲ爲スニハ先ツ司法大臣ニ申具シ同大臣ノ命ニ因リ大審院ノ檢事總長ヨリ大審院ニ之ヲ爲サ、ルヘカラス何トナレハ若シ輕々ニ之ヲ處セン乎素ヨリ非常ノ事件ナルヲ以テ或ハ國家擾亂ノ患ヲ惹起スルノ恐レナシトセス是レ即チ他人ニ委テス檢事總長ヲシテ司法ノ大權ヲ掌トル司法大臣ノ命ニ因リ最上裁判所タル大審院ニ之ヲ爲サシムル所以ナリ

問 大審院ニ於テ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クヲナク其申請ヲ決定スル理由如何

答 公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ所謂一國ノ公安ヲ維持センカ爲メノ目的ニ出テタルモノナレハ裁判ノ公平ヲ維持スルヲ能ハサルノ恐レアラサル以上ハ決テ訴訟關係人ノ權利義務ノ消長ニ關係スルモノニアラス况ンヤ又此事タル非常ノ事件ナレハ若シ一日遷延スルハ遂ニ紛擾又ハ危險ヲ惹起スルノ恐レアルヲ以テ大審院ハ其申請ヲ受理シタルハ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クヲナク速ニ其決

定ヲ爲サ、ルヘカラスナルナリ

第三十六條 被告人ノ身分、地方ノ民心、又ハ訴訟ノ模様ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルヲ能ハサル恐レアルトキハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

○本條ハ嫌疑ノ爲メ裁判官管轄ヲ他ニ移スコトヲ得ル場合ヲ規定シタルモノニシテ裁判ノ公平ヲ維持スルニハ最モ必要欠クヘカラスルノ條項ナリトス

問 裁判ノ公平ヲ維持スルヲ能ハサル場合トハ如何及ヒ此場合ニ於テ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移ス理由

答 被告人其地方ニ於テ地位高ク若クハ聲望秀テ又ハ民心ヲ得以テ輿論ヲ左右スルカ如キ權力ヲ有スル乎又ハ訴訟ノ模様即チ或ル事情ノ爲メニ其裁判獨立ノ力ヲ失ヒ公平ヲ維持スルヲ能ハサル恐レアルトキ例ヘハ被告人ハ其地方ノ名望家若クハ一政黨ノ首領ナルカ爲メ地方人民憤起シ法官ニ向テ脅迫ノ手段ヲ用ヒルカ如キ恐アル場合又ハ被告人ト法官トハ元ト親密ノ關係アリ爲メニ其裁判ノ公平ヲ失スル恐アルカ如キ場合ニ於テハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所

ニ移シ以テ裁判ノ公平ヲ維持セサルヘカラス若シ夫レ此場合ニ於テモ尙ホ他ノ裁判所ニ移スコトヲ得サルトセン乎法官或ハ脅迫ノ爲メ或ハ私情ノ爲メ思想ヲ曲ケ以テ遂ニ公平ノ裁判ヲ爲ス能ハサルニ至ラン即チ本條ハ豫メ如此場合アランコトヲ慮リテ規定シタルモノナリトス

第三十七條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ管轄裁判所ノ檢事其訴訟關係人ヨリ上級裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得
民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ヲクシテ本案ニ付キ辨論ヲ爲シタルトキハ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス

○本條ハ第一項ニ於テ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ爲シ得ヘキ人及ヒ裁判所ヲ規定シ第二項ニ於テ其申請ヲ爲スコトヲ得サル場合ヲ規定シタルモノナリ

問 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ爲シ得ヘキ人及ヒ其裁判所如何

答 被告人ノ身分、地方ノ民心、又ハ訴訟ノ模様等ニ因リ裁判官ニ於テ公平ノ裁

判ヲ爲サ、ルノ疑アルトキハ裁判管轄ヲ移スノ申請ヲ爲スコトヲ得而シテ其申請ヲ爲スハ管轄裁判所ノ檢事又ハ其他訴訟關係人ヨリ上級裁判所ニ向テ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス蓋シ公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スハ國家ノ利害ニ關スル點ヨリ規定シ本條即チ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スハ被告人ノ利害ニ關スル點ヨリ規定シタルモノナリ是レ本條ト第三十五條トニ於テ其申請ヲ爲シ得ヘキ人及ヒ裁判所ヲ異ニスル所以ナリ

問 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ許サル場合及ヒ其理由

答 民事原告人此嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又ハ被告人ニ於テ異議ノ申立ヲ爲サス既ニ本案ニ付キ辨論ヲ爲シタルトキハ最早嫌疑ノ爲メ裁判管轄移轉ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ一旦民事原告人又ハ被告人ニ於テ其裁判所ニ私訴ヲ爲シ又ハ辨論ヲ爲シタル以上ハ已ニ嫌疑ナキモノト認定セサルヘカラス若シ夫レ此場合ニ於テモ尙ホ管轄移轉ノ申請ヲ爲シ得ルトセン乎假令公明ナル裁判アリタル場合ト雖訴訟人ハ已レニ不利ナル裁判アリタルトキハ常ニ種々ノ口實ヲ設ケ難

疑アリトシ以テ度々管轄移轉ノ申請ヲ爲シ隨テ移セハ從ツテ訴ヘ遂ニ際限ナキニ至ラン是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ

第三十八條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ爲スニハ其趣意書ニ通シ原裁判所ニ差出スヘシ裁判書記ハ速ニ一通ヲ相手方ニ送達シ相手方ハ其送達アリタルヨリ三日内ニ答辨書ヲ差出スコトヲ得
裁判所ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ其訴訟手續ヲ停止スヘシ

○本條ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請手續及ヒ之ヲ受ケタル裁判所ハ其訴訟手續ヲ如何ニ爲スヘキヤヲ規定シタルモノトス

第一項ハ申請ヲ爲ス手續上ノコトニシテ別段問答ヲ起シ説明ヲ爲スヲ要セサレハ略ス

問 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ受ケタル裁判所ハ何故ニ其訴訟手續ヲ停止セサルヘカラサルヤ

答 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ受ケタルトキ或ハ其裁判管轄他ニ移轉スルヤ否ヤ明ラカナラス即チ果シテ嫌疑ノ實狀アリテ公平ノ裁判ヲ爲シ能ハサルモノト認定シタルトキハ之ヲ他ノ裁判所ニ移サ、ルヘカラス果シテ然ルトキハ假令其手續ヲ爲スモ遂ニ無効ニ屬スルヲ以テ一時之ヲ停止セサルヘカラサルヤ茲ニ詳論ヲ俟タスシテ明ラカナリ

第二十九條 前條ノ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ於テハ書類ニ依リ其申請ヲ決定ス可シ

○本條ハ申請ニ付キ決定方法ヲ規定シタルモノニシテ第三十三條第二項ト同主旨ナレハ茲ニ再說セス

第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避回避
第四十條 判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ

第一 判事被害者ナルトキ
第二 判事又ハ其配偶者ト被告人、被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者ト親屬ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタル

除斥トハ法律上取除ケルト云フコト即チ判事ノ職務ヲ取扱ハセサルヲ云フ

姻族トハ結婚

ニ因リ親族ト

ナリシモノヲ

云フ

解除トハ解キ

去ルヲ即チ離

婚スルヲ云フ

干與トハ預リ

加ハルヲ即チ

關係スルト云

フ

前審トハ例ヘ

ハ地方裁判所

ニ於テ審問シ

タルモノヲ控

訴院ニ上訴シ

タルトキハ其

トキト雖亦同シ

第三 判事其事件ニ付キ證人、鑑定人ト爲リタルトキハ被
告人若クハ被害者ノ法律上代理人ナルトキ

第四 判事其事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不暇ヲ申立ラレ
タル裁判前審ニ干與シタルトキ

○本條ハ判事カ法律ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セラル、場合ヲ規定シタル
モノトス

問 第一ノ場合ニ於ケル理由如何

答 判事被害者ナルトキニ於テ除斥セラル、所以ノモノハ一人ニシテ一方ニ於テ

ハ身自ラ被害者トナリ他方ニ於テハ自ラ裁判官又ハ豫審判事タルニ於テハ其審
判上不公平ノ處分ヲ爲ス恐レナシトセサルナリ蓋シ假令不公平廉潔ヲ以テ本色
トスル判事ト雖素ト神聖叙知ニアラサレバ一時ノ私利私情ニ誘惑セラレ自己利
益ノ爲メニハ如何ナル不公平ノ處分ヲ爲シ以テ被告人ニ不利益ヲ與フルヤ計ラ
レサルナリ是レ判事被害者ナルトキハ當然其職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ理

由ナリトス

問 第二ノ場合ニ於ケル理由如何

答 判事自身又ハ其配偶者即チ妻ト被告人若クハ被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者ト
親族ナルトキハ其職務ノ執行ヨリ除斥セサルヘカラス何トナレハ判事若クハ其
妻ニシテ被告人ト親族ノ關係アルトキハ成ヘク被告人ヲ曲庇シ宥恕セントノ意
思ヲ生スル恐レアリ之ニ反シ被害者ト親族ノ關係アラシカ或ハ被告人ヲ不利ニ
陥レ以テ親族ナル被害者ノ利益ヲ計ラントスル意思ヲ生スルノ恐レアル而已ナ
ラス尙ホ是等ノ者ノ配偶者ト親族ナルトキト雖判事ハ先ツ其親族若クハ之ト關
係アル者ニ利益アル裁判ヲ與ヘントノ豫想ヲ心中ニ抱クヲ以テ知ラス識ラス不
公平ニ陥ルノ恐レアレハナリ而ノ又其姻族ニ付テハ假令離婚シタルトキト雖被
告人若クハ被害者ニシテ其離別シタル舊婦ト親族ノ關係アル場合ニ於テハ判事
ナシテ職務ノ執行ヨリ除斥セシメサルヘカラス蓋シ離婚ヲ爲スニハ不和若クハ
其他種々ノ原因アルニ依リ假令離婚シタル後ト雖尙ホ怨恨ヲ含ミ居ルイナシト

地方裁判所ノ
審問ヲ名ケテ
前審ト云フ

セス果シテ然ラハ被告人若クハ被害者カ其舊婦ト親族ナルノ故ヲ以テ或ハ其恨ヲ嗜サンカ爲メニ被告人若クハ被害者ニ不利益ナル裁判ヲ與フルノ思ナシトセサルナリ故ニ右等ノ場合ニ於テハ裁判ノ公平ヲ維持センカ爲メニ其職務ノ執行ヨリ除斥セサルヘカヲサルナリ

問 第三ノ場合ニ於ケル理由如何

答 判事其事件ノ證人若クハ鑑定人トナリタルトキハ其證人又ハ鑑定人タリシトキニ於テ爲シタル自己ノ證言ノ偽リナキヲ及ヒ其鑑定ノ相違ナキヲ表明センカ爲メ其事實ノ有無ニ拘ハラズ或ハ不公平ノ裁判ヲ爲ス虞レナシトセス而シテ又被告人若クハ被害者ノ法律上代理人トナリタルトキハ其本人ノ利益ヲ保護センカ爲メニ或ハ法ヲ枉グルノ思ヒナキ能ハス是レ即チ其職務ノ執行ヨリ除斥セサルヘカヲサル所以ナリトス

問 第四ノ場合ニ於ケル理由如何

答 判事カ豫審終結ニ干與シタル場合トハ例ヘハ是迄其事件ノ豫審ニ干與シ居

忌避トハ訴訟

關係人ヨリ當該判事ニシテ其訴訟事件ニ干與セサルヲ要求スルヲ云フ

ル判事其職務擔當ノ變動ニ依リ其公判ノ主任若クハ倍審判事トナリタルカ如キ場合ヲ云ヒ不服ヲ申立ラレタル前審ニ干與シタルトキトハ例ヘハ被害者又ハ被告人ガ原裁判ニ服セス上訴シタル場合ニ於テ前審即チ原裁判ニ干與シタル判事カ上級裁判所ノ判事ニ昇進シ本案上訴ノ審判ニ干與スルカ如キ場合ヲ云フ而シテ是等ノ場合ニ於テハ其判事ヲシテ其職務ノ執行ヨリ除斥セサルヘカラス何トナレハ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立ラレタル判事ハ假令不正偏頗ヲ爲スノ意志ナシトスルモ所謂先入主トナルノ理ニ基キ其豫審終結又ハ前審ニ干與シタルトキノ心證ヲ以テ之ヲ裁判セルトスルノ傾向ヲ生シ遂ニ公平ノ裁判ヲ爲ス能ハサルノ恐レアレハナリ是レ之ヲ本項ノ規定アル理由ナリトス

第四十一條 判事法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルル場合及ヒ偏頗ナル裁判ヲ爲スヲ疑フニ足ルヘキ情況アル場合ニ於テハ檢事其他訴訟關係人ヨリ之ヲ忌避スルヲ得

○前條ハ法律ニ依リ判事カ除斥セラルル場合ヲ規定シ本條ハ檢事其他訴訟關係人ヨリ判事ヲ忌避スルヲ得ル場合ヲ規定シタルモノナリ

キ被告人若クハ被害者ト親密ノ關係アルニ於テハ判事ト同シク除斥又ハ忌避シ及ヒ回避セシメサルヘカラス若シ然ラサルトキハ其調書ヲ作ルニ當テ曲筆ヲ舞ハシ又ハ其書類ヲ増減變更シ以テ被告人若クハ被害者ニ利害ヲ與ユルノ恐レナシトセズ是レ即書記ニモ本章ノ規定ヲ準用スル所以ナリ

第三編 犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審

第一章 捜査

第四十六條 檢事ハ後ニ記載シタル告訴、告發、現行犯、其他ノ原由ニ因リ犯罪アルユトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ其證據及ヒ犯人ヲ捜査ス可シ

○本條ハ檢事カ捜査ヲ行フヘキ場合ヲ規定シタルモノトス

問 捜査權ノ發生、目的及ヒ之レカ着手ヲ爲スノ原由如何

答 夫レ犯罪アレハ相當ノ刑罰ヲ科シ以テ社會ノ安寧幸福ヲ圖ラサルヘカラス而シテ之ヲ爲サント欲セハ須ラク先ツ其證據及ヒ犯人ヲ捜査シ以テ公訴ヲ提起セサルヘカラスナリ故ニ捜査ノ目的ハ犯罪ノ證據及ヒ犯人ヲ檢舉シ以テ公訴ノ

認知トハ愈犯罪アルヲ認メタルヲ即チ現行犯ノ場合ノ如キヲ云フ思料トハ犯罪アリト推測スルヲ即チ世間ノ風説等ニヨリ稍々確實ナルヘシトノ感

想ヲ抱キタル場合ノ如キヲ云フ
捜査トハ尋チ求ムルヲ即チ犯罪ノ證據、微憑及ヒ犯人ヲ搜索スルヲ云フ

提起及ヒ之レカ實行ニ必要ナル資料ヲ蒐集スルニアリトス然リ而シテ此捜査ヲ爲スノ原由ハ元ト犯罪ナルカ故ニ其之ヲ行フノ權ヲ發生スルモ亦犯罪成立ノ日ナラサルヘカラス換言セハ捜査權ハ犯罪ニ先ツテ發生スルモノニアラス又犯罪ニ後レテ發生スルモノニアラス即チ犯罪ト同時ニ發生スルモノト云フヘシ之ニ由テ之ヲ觀レハ檢事若クハ司法警察官カ犯罪ノ捜査ニ着手スルハ敢テ漠然之ヲ爲スヘキモノニアラス須ラク犯罪ノアリタルヲ及ヒ其犯罪ノ成立シタルヲ知了スルヲ要ス即チ捜査ニ着手センニハ現行犯、告訴、告發、自首、新聞ノ雜報世間ノ風説其他見聞シタル事物ニ因リ犯罪アルヲ認知スルカ若クハ犯罪アリト思料シタル場合ニ於テ始メテ之ニ着手スヘキモノトス何トナレハ上陳シタルカ如ク捜査權ハ元ト犯罪ト同時ニ發生スルモノナルヲ以テ犯罪ナケレハ又茲ニ捜査ノアルヘキ理ナケレハナリ是レ本條ニ於テ犯罪アルヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ云々ノ記載アル所以ナリトス

問 捜査ヲ爲スハ檢事ノ職務ナルヤ將又司法警察官ノ職務ナルヤ

答 本條ニ曰ク檢事ハ後ニ記載シタル云々又司法警察官執務心得第一條ニ曰ク司法警察官ハ犯罪ノ捜査ヲ爲シ現行犯罪ノ假豫審ヲ行フヲ以テ其職務トスト之ニ由テ之ヲ觀レハ捜査ハ或ハ檢事ノ職務ニ屬スルカ如ク或ハ又司法警察官ノ職務タルカ如シト雖尙ホ本法第四十七條司法警察官執務心得第十三條第五十一條等ノ規定ニ依テ推考スルハ捜査ハ元ト檢事ノ職務ニ屬スヘキモノニシテ司法警察官ハ唯タ之レカ耳目トナリ補佐ヲ爲スモノニシテ決テ其獨自ノ職務ニ非サルモノ、如シ即チ本法第四十七條第二項ニ於テ司法警察官ハ檢事ノ指揮ヲ受クヘキ旨ヲ定メアル而已ナラス又司法警察官執務心得第十三條ニ於テ司法警察官ハ捜査ヲ爲スニ付キ檢事ノ指揮ニ從フヘキハ勿論ナリト雖モ事毎ニ其指揮ヲ待テヘキモノニアラス又同第五十一條ニ鑑定ノ爲メ死屍ノ解剖ヲ必要トスルハ檢事ノ許可ヲ受クヘシトアル等ノ文詞ヨリ推究スルコトハ捜査ハ檢事ノ本職ニシテ司法警察官ハ唯タ之レカ補助トシテ其捜査ヲ爲スモノナルヤ明ラカナリ故ニ若シ其管内ニ於テ犯罪アリタルヲ認知若クハ思料スルトキハ直チニ實地ニ就テ

司法警察官執務心得

第三條 司法警察官ハ捜査ヲ爲スニ付キ檢事ノ指揮ニ從フヘキハ勿論ナリト雖モ事毎ニ其指揮ヲ待テヘキモノニアラス又同第五十一條ニ鑑定ノ爲メ死屍ノ解剖ヲ必要トスルハ檢事ノ許可ヲ受クヘシトアル等ノ文詞ヨリ推究スルコトハ捜査ハ檢事ノ本職ニシテ司法警察官ハ唯タ之レカ補助トシテ其捜査ヲ爲スモノナルヤ明ラカナリ故ニ若シ其管内ニ於テ犯罪アリタルヲ認知若クハ思料スルトキハ直チニ實地ニ就テ

一應ノ取調ヲ爲シ其調書又ハ證據物件ヲ蒐集シテ速ニ之ヲ已レノ指揮官タル檢事ニ送致セサルヘカラス果テ然ラハ捜査ヲ爲スニ當テ若シ檢事ト衝突ヲ來シタルカ如キ場合ニ於テハ須テ先ツ檢事ニ讓ルヲ以テ當然ナリトス

第四十七條 警視總監及ヒ地方長官ハ各其管轄他内ニ於テ司法

警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付キ地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有ス但シ東京府知事ハ此限ニ非ス

左ニ記載シタル官吏、公吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査ス可シ

第一 警視、警部長、警部、警部補

第二 憲兵、將校、下士

第三 島司

第四 郡長

第五 林務官

第六 市長、村長

○本條ハ或ル特別ノ場合ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スヘキ人ヲ定メタルモノトス

問 警視總監、地方長官及ヒ其他ノ官吏、公吏ヲシテ各其管轄地内ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付キ檢事ト同一ノ權ヲ與ヘ若クハ檢事ノ補佐トシテ犯罪ヲ捜査セシムル理由如何

答 元來警視總監及ヒ地方長官ハ各自其管轄地内ノ安寧秩序ヲ保持スルノ責任ヲ有スルモノナルニ付キ若シ其管轄地内ニ於テ重大ニシテ且ツ大ニ公安ヲ攪亂スヘキ犯罪即チ國事犯若クハ兇黨聚衆罪ノ如キ犯罪アル場合ニ於テハ其黨與多數ニシテ事体最モ大ナルカ上事急速ヲ要スルモノナルヲ以テ是等ノ場合ニ於テハ實際ノ便宜ヲ虞リ警視總監及ヒ地方長官ヲシテ臨機ノ捜査處分ヲ爲サシメサルヘカラス若シ然ラサルトキハ大ニ人心ヲ擾亂シテ遂ニ如何ナル災禍ヲ惹起スヤモ圖リ知ルヘカラス是レ本條ニ於テ警視總監及ヒ地方長官ヲシテ各其管轄地内ニ於テハ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付キ地方裁判所ノ檢事ト同一ノ權利ヲ與ヘタル所以ナリ然レトモ是レ唯タ異常ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ平常ノ場合ニ適用スヘキモノニアラサルヤ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ又本條第二項

、第三以下ニ記載シタル官吏、公吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スト雖素ト是レ本然ノ職務ニアラス前陳ノ理由ニ依リ唯タ異常ノ場合ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス故ニ第三、第四及ヒ第六ニ記載シタル者ハ事急速ヲ要スル場合ヲ除ク外成ルヘク其處分ヲ第一、第二ニ記載シタル者若クハ檢事ニ讓ルヘシ而シテ又第五ニ記載シタル林務官ノ如キハ其主管ニ關スル犯罪即チ山林規則ニ違背シタル犯罪ニ限り檢事ノ指揮ヲ受ケ司法警察官ノ職務ヲ行フモノニシテ尋常ノ犯罪ニ付テハ決テ捜査事務ヲ執ルヘキモノニアラサルナリ且ツ夫レ東京府知事ヲ除キタル所以ノモノハ東京府ハ警視廳ト兩立シテ行政ヲ掌リ各分擔ヲ定メ其警察ニ關スルモノハ總テ警視總監之ヲ掌理シ居ルヲ以テナリ

第四十八條 海船内ノ犯罪ニ付テハ船長ニ於テ司法警察官ノ職務ヲ行フ可シ

○本條ハ海船内ノ犯罪ニ付テ處分ヲ爲シ得ヘキ人ヲ定メタルモノトス
問 海船内トハ如何及ヒ其船内ノ犯罪ニ付キ船長ニ司法警察ノ職務ヲ行ハシムル

理由

答 海船内トハ文字上ヨリ解釋スルトキハ總テ航海又ハ定繫中ニ係ル船舶内ヲ云フ然レモ茲ニ所謂海船内ト重モニ航海中ノ船舶内ト解釋セサルヘカラス何トナレハ本條ヲ設ケタルノ主旨ハ專ラ司法警察官ノアラサル場合ニ於テ適用スヘキ旨ヲ規定シタルモノニ外ナラサレハナリ故ニ其港内ニ定繫中犯罪アリタル場合ノ如キニ於テハ成ル可ク司法警察官ヲシテ其捜査ヲ爲サシムルヲ至當トス夫レ然リ然ラバ假令船舶航行中犯罪アリト雖犯人逃走ノ恐レナキヲ以テ着港ノ後テ司法警察官ノ捜査ヲ待ツモ敢テ不可ナキカ如シ然リト雖若シ夫レ之ヲ放棄シ置カバ彼ノ暴惡無道ノ惡漢ハ一罪ニ甘ンセス尙ホ他船客ニ向テ如何ナル危害ヲ加ユルヤモ圖リ知ルヘカラス故ニ此場合ニ於テハ速ニ犯人ヲ捜査シテ船内ノ安寧ヲ計ラサルヘカラスナルナリ是レ官吏、公吏ニ非サル船長ヲシテ司法警察ノ職務ヲ行ハシムル所以ナリトス

第一節 告訴及ヒ告發

即決トハ即座ニ判決ヲ與ユルコトヲ云フ送致トハ送り届ケルヲ云フ

司法警察官職務心得

第五十三條 重罪ノ捜査ヲ爲シタルトキハ速ニ其事件ヲ管轄裁判所送致スヘキ官署ニ送致ス可シ

第四十九條 何人ニ限ラス犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得

司法警察官告訴ヲ受ケタルトキハ違警罪ニ付キ即決ヲ爲ス場合ヲ除ク外速ニ其書類ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ

○本條ハ告訴ヲ爲シ得ヘキ人及ヒ違警罪ニ付キ即決ヲ爲ス場合ヲ除ク外之ヲ受ケタル司法警察官ノ手續ヲ規定シタルモノトス

問 告訴ヲ爲シ得ヘキ人及ヒ其理由如何

答 抑モ民事上ノ原告人トナルニ付テハ法律上訴訟ヲ爲シ得ル能力ヲ具備セサル

ヘカラス何トナレハ自己ノ蒙リタル損害ノ有無ヲ明確ニ證明シ裁判官ヲシテ其正邪曲直ヲ判定セシムルニハ多少智力ヲ有セサルヘカラスハナリ即チ彼ノ幼者若クハ有夫ノ婦ノ如キハ之レカ起訴者タルヲ得サルモノトス然レモ告訴ハ然ラス告訴ハ單ニ其犯罪事件ヲ通告スル而已ニ過キサルモノナルニ付キ敢テ智力ノ有無ヲ區別スルノ必要ナシ即チ犯罪ニ因リ損害ヲ蒙リタル者ハ官民ノ別ナ

ク男女丁幼ニ論ナク又内國人タルト外國人タルトヲ問ハス等シク之ヲ爲シ得ハキモノトス何トナレハ若シ民事上ノ原告人ト等シク告訴人ニ對シ能力ノ制限ヲ設ケンカ幼者及ヒ有夫ノ婦ノ如キハ假令犯罪ニ因リ損害ヲ蒙リタリト雖之ヲ訴ユルヲ能ハサルノ不都合ヲ生スルニ至レハナリ是レ即チ本條ニ於テ何人ニ限ラヌ云々ト記載シタル所以ナリ斯ク論シ來レハ疑者或ハ曰ハン幼者及ヒ有夫ノ婦ガ民事ノ訴ヲ爲スモ亦告訴ヲ爲スモ等シク損害ニアリトセハ二者何レモ多少能力ヲ有セサルヘカラサルニアラスヤト請フ疑者ヨ告訴ハ單ニ其犯罪事件ヲ通告スル而已ニ過キサルモノナルヲ及ヒ告訴ノ効力ハ公訴ノ提起ヲ促スニ足ラス即チ公訴ヲ提起スルト否トハ一ニ檢事ノ隨意タルヲ記憶セヨ然ラハ思ヒ中ハニ過ルモノアラン

問 告訴ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ爲スヘシト定メタル理由如何

答 是レ必竟犯罪ノ地ハ所謂犯人罪ヲ犯シタル場所ナレハ其事實發見上即チ證據

徴憑等ヲ蒐集スルニ最モ都合好ク又被告人所在ノ地ハ即チ犯人ノ住居スル所ナレハ之ヲ引若クハ逮捕スルニ最モ便利ナルヲ以テナリ而シテ司法警察官又ハ檢事ハ犯罪ノ捜査ヲ爲スヘキ責任ヲ有スルモノナレハ是等ノ人ニ向テ告訴ヲ爲サ、ルヘカラサルハ敢テ説明ヲ要セスシテ明ラカナリ

問 司法警察官告訴ヲ受ケタルトキ違警罪ニ付テハ即決ヲ許シ其他ノ犯罪ニ付テハ其書類ヲ檢事ニ送致スヘシト定メタル理由如何

答 違警罪ニ付キ司法警察官ヲシテ即決ヲ爲サシムル所以ノモノハ畢竟違警罪ハ其罪質至テ輕微ナルカ故假令司法警察官之レカ即決ヲ爲スト雖左程被告人ノ利害休戚ニ關スルヲナキ而已ナラス寧ロ檢事ニ送致セラレテ裁判ヲ開カレ數多ノ時日ト費用トヲ徒費スルヨリモ被告人ノ爲メニハ却テ利益ナレハナリ之ニ反シ重罪、輕罪ニ至テハ事重大ニシテ大ニ被告人ノ安危休戚ニ關係スル而已ナラス且ツ事實モ從テ錯雜シ居ルモノナレハ輕々ニモ裁判官ニアラサル司法警察官ニ一任シ唯タ一應ノ取調ニ依リ直チニ之ヲ判決スルトセハ時ニ或ハ大ナル誤謬ヲ

生シテ無罪ヲ罰シ有罪ヲ免レシムルカ如キト夫レ少シトセス故ニ是等ノ犯罪ニ付テハ成ルヘク郵重ヲ加ヘ必ス公訴ヲ起シテ裁判ヲ要メサルヘカラス是レ即チ違警罪ニ付テハ司法警察官ニ即決ヲ許スモ重罪、輕罪ニ付テハ公訴ヲ提起シ之レカ實行ヲ求ムル任アル檢事ニ其告訴書ヲ送致スヘシト定メタル所以ナリ

第五十條 告訴人ハ成ル可ク其証憑及ヒ事實參考ト爲ル可キヲ申立ツ可シ

○本條ハ告訴人ノ申立ツヘキ事柄即チ告訴ヲ爲ストキノ注意ヲ規定シタルモノトス

問 証憑及ヒ事實參考トナルヘキ事柄トハ如何ナルモノナクヤ且ツ告訴人ハ成ルヘク是等ノモノヲ申立ツヘシト定メタル所以如何

答 証憑トハ證據及ヒ微憑ノ二者ヲ併用セル言ナリ又事實參考トナルヘキ事柄トハ犯罪ノ種類、性質、模様、犯罪ノ場所、日、時、氏名、容貌又ハ犯罪ノ用ニ供シタル器具被害者ノ容体、損害ノ多寡等ヲ云フ而シテ告訴人ヲシテ是等ノ事柄ヲ申立テシムル所以ノモノハ他ナシ此告訴アリタルトキハ檢事若クハ司法警察官ハ

直チニ犯罪ノ捜査ニ着手スルモノナレハ其告訴者ノ申立如何ハ大ニ證據ヲ得ルノ點ニ關係スレハナリ檢言スレハ公訴ノ基礎トナリ犯罪事件ヲ證明スルニ必要ナルモノナレハ成ルヘク綿密ニ申立テシメサルヘカラス是レ本條ノ規定ヲ要スル所以ナリ

第五十一條 告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

調書トハ犯罪ニ付テノ調べ書キヲ云フ

又告訴ハ口述ヲ以テ之ヲ爲ストキ得其告訴ヲ受ケタル官吏ハ調書ヲ作り告訴人ニ之ヲ讀ミ聞カセ共ニ署名捺印ス可シ若シ告訴人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

○本條ハ告訴ヲ爲ス者及ヒ之ヲ受ケタル官吏ノ爲ヘキ手續ヲ定メタルモノトス

問 告訴人告訴ヲ爲ストキ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシト規定シタル理由如何

答 苟モ他人ノ權利ヲ犯サレ損害ヲ蒙ランカ之ヲ訴テ以テ其回復ヲ圖ルハ應サニ

正當ノ義ニシテ敢テ非議スル所ナシト雖世或ハ怨恨、嫉妬若クハ利欲、賄賂ノ爲メ或ハ無實ノ訴ヲ爲シ或ハ過實ノ申立ヲ爲ス者亦之レナシトセス果テ然ラハ是レカ爲メ無辜ノ良民ヲ苦マシムル夫レ幾干ソヤ故ニ法律ハ是等ノ惡行ヲ防制センカ爲メ刑法ニ誦告ノ罪ヲ設ケ本法ニ第十三條ノ特則ヲ規定シタリ夫レ然リ然ラハ告訴人ハ或ハ刑罰ヲ受ケ或ハ損害賠償ノ責任ニ任セサルヘカヲサレ場合アルヲ以テ其告訴ヲ爲シタルヤ否ヤハ正ニ責任ノ有無ヲ判スルモノナルカ故ニ即チ他日ノ證左トナルヘキモノナレハ宜ク之ヲ鄭重ニセサルヘカヲサレ是レ即チ告訴ハ署名捺印シタル書面ヲ以テ爲スヘシト定メタル所以ナリ

問 口述ヲ以テ告訴ヲ爲スヲ許ス所以及ヒ此場合ニ於テ其告訴ヲ受ケタル官吏ヲシテ手續ヲ爲サシムル理由如何

答 既ニ述ヘタルカ如ク告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ爲ス正則トス然レモ若シ之レカ變則ヲ設ケ置カサランカ實際上大ニ不都合ヲ生スルニ至ラシ例ヘハ告訴人ニシテ目ニ一丁字ナキカ或ハ又事急速ヲ要スル場合即チ強遠處

司法警察官
職務心得

第三十八條 官吏ノ公定職務上ノ事務ハ檢察官ニ爲スヘキモノナリト雖檢察官ハ其職務上ノ事務ハ司法警察官ニ爲スヘキモノナリト雖司法警察官ハ其職務上ノ事務ハ檢察官ニ爲スヘキモノナリト雖

器ヲ携ヘ家宅ニ侵入シ將ニ物品ヲ強奪セントスルカ如キ事急ナル場合ニ於テハ遂ニ告訴ヲ爲ス能ハサルニ至ルヘシ是レ即チ實際ノ便宜ヲ圖リ口述ヲ以テモ尙ホ告訴ヲ爲スヲ得ト定メタル所以ナリ而シテ其口述ヲ以テ告訴ヲ爲シタル場合ニ於テハ之ヲ受ケタル官吏ハ其調書ヲ作り之ヲ告訴人ニ讀聞カセ事實相違ナキヲ承認シタルトキハ共ニ署名捺印スヘシ若シ告訴人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スルモノトス必竟如此鄭重ヲ要スル所以ノモノハ前已ニ述ヘタルカ如ク告訴ノ如何ニ因テハ告訴人ハ其責任ニ任セサルヘカヲサレ一ヲ以テ後日其告訴人ノ誰某ナルコトヲ証センカ爲メニ外ナラサルナリ

第五十二條 官吏、公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發ス可シ
告發ハ官吏、公吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク証憑及ヒ事實參考トナルヘキ事物ヲ添フ可シ

○本條ハ官吏、公吏其職務執行中ニ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料

シタルトキノ告發及ヒ其手續ヲ規定シタルモノトス

問 官吏、公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキトハ如何ナル場合ヲ云フ乎且ツ此場合ニ於テ官吏、公吏ノ處分如何

答 官吏、公吏其職務執行中ニ犯罪アルヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル場合トハ例ヘハ民事係判事カ其受理シタル事件ニ關シ原告若クハ被告ヨリ提出シタル證書ノ偽造又ハ變造ナルヲ認知シ若クハ其偽造又ハ變造ナルヘシト思料シタル時又ハ公證人カ公證ヲ受ケンカ爲メ當事者ヨリ提出シタル文書ノ偽造又ハ變造ナルヲ認知シ若クハ偽造又ハ變造ナルヘシト思料シタル時等ノ如キ場合合テ云フ而シテ是等ノ如キ場合ニ於テハ官吏、公吏ハ署名捺印シタル告發狀ニ成ルヘク證據及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ添ヘ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發スヘキモノトス蓋シ是等ノ官吏、公吏ハ常ニ社會ノ公安ヲ保持セサルヘカラサルモノナルヲ以テ其職務上之ヲ告發スル正ニ當然ノ義務ナレハナリ然レモ假令官吏、公吏ノ身分ヲ有スル者ト雖其職務ヲ行フニ因テ認知シ若クハ思料シ

タル犯罪ニアラサレバ之ヲ職務上ノ告發ト做スヘカラス即チ酒造檢査官カ山林盜伐者ヲ告發シ又ハ林務官カ密酒造者ヲ告發スルカ如キハ是レ通常ノ告發ニシテ其職務上ノ告發ニアラサレハ本條ノ規定ヲ適用スヘキモノニアラサルヤ明ラカナリ

問 然ラハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發スヘシト定メタル理由如何

答 是レ蓋シ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發スルトキハ告發ヲ受ケタル檢事ハ速ニニ犯人ヲ逮捕シ又ハ證據蒐集其他ノ處分ヲ假リニ爲スヲ得ルヲ以テ犯人罪ヲ追ル、ノ餘地ナク公訴上大ニ利益アレハナリ加之ナラス官吏、公吏ハ素下夫々本務ヲ有スルヲ以テ若シ被告人所在ノ地ノ檢事ニ告發セサルヘカラサルカ如キコアラハ或ハ其遠地ノ爲メニ徒ニ時日ヲ費ヤシ途ニハ其本務ヲ延滞セシムルニ至ラン是レ實際ノ便益ヲ計リ本條ニ於テ特更ニ官吏、公吏職務上ノ告發ハ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ爲スヘシト定メタル所以ナリ

問 一人ノ爲ス告發ハ檢事又ハ司法警察官中何レノ官吏ニ對シテモ之ヲ許シ且

ツ之レカ手續ヲ爲スニモ書面若クハ口述ヲ以テ爲スヲ許シタルニ特リ官吏、公吏職務上ノ告發ニ限リ必ス檢事ニ對シ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシト定メタル理由如何

答 夫レ告發ヲ爲ス者ノ欲スル所ハ必竟犯罪アルコト當該官吏ニ通告シテ公訴ヲ起サシメントスルニ外ナリス果テ然ラハ公訴ヲ起スノ職權アル者檢事ヲ措テ復タ他ニアラサルカ故ニ告發ハ檢事ニ對シ之ヲ爲スヲ正則トスルヤ明ケシ然レモ法律ハ成ルヘク告發人ニ便利ヲ與ヘ強メテ犯人ヲシテ罪ヲ免ル、ノ餘地ナガラシメントテ望ムヲ以テ一人ノ告發ハ便宜上司法警察官ニ對シテモ亦之ヲ爲スコト得ルノ變則ヲ設ケタリ夫レ然リ然ラハ何故ニ官吏、公吏ノ告發ニモ亦此變則ヲ適用セサルカ蓋シ官吏、公吏ノ告發ハ素其職務上ニ關係アル一箇ノ義務ナレハ宜ク通常ノ告發ト區別スル所アラサルヘカラス即チ成ルヘク確實嚴正ノ規定ニ依ラサルヘカラサルナリ是レ官吏、公吏職務上ノ告發ハ必ス檢事ニ對シ署名捺印シタル書面ヲ以テ爲スヘキ旨ヲ定メ一人ヨリ告發スルノ場合ニ於ケル

カ如キ變則ヲ適用セサル所以ナリトス

問 告訴告發ノ差違如何

答 告訴トハ犯人ヲ指示スルト否トニ係ハラス犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ヨリ犯罪事件ヲ檢事若クハ司法警察官ニ報告スルヲ云ヒ告發トハ被害者ニ非サル者ヨリ犯罪ヲ檢事若クハ司法警察官ニ通告スルヲ謂フ是レ性質上ヨリ區別シタルモノナリ今之ヲ其手續上ヨリ區別スルトキハ、第一告訴ヲ爲シタル者ハ民事原告人ト爲ル申立ヲ爲スコト得ス、第二告訴ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スヲ得ルモ告發ニ付テハ一人ノ告發ト官吏、公吏職務上ノ告發トヲ區別シ其一私人ノ告發ハ告發者自己ノ所在地若クハ犯罪ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲シ官吏、公吏職務上ノ告發ハ其已レノ職務ヲ行フ地ノ檢事ニ違警罪ヲ爲スヘキモノトス即チ重罪、輕罪ニ付テハ其地ノ地方裁判所ノ檢事ニ違警罪ニ付テハ其地ノ區裁判所ノ檢事ニ告發セサルヘカラス、第三告訴ハ無能力者本

人ハ勿論法律上ノ代理人ニ於テモ亦無能力者ノ爲メ之ヲ爲スヲ得ヘシト雖告發ハ無能力者自身ニ之ヲ爲スヲ得ル而已ニシテ法律上ノ代理人ハ無能力者ノ爲メニ之ヲ爲スヘキモノニアラサル等ヘ差違アリトス

第五十三條

何人ニ限ラス犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ第五十條第五十一條ノ規定ニ從ヒ其所在地若クハ犯罪ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告發スルコトヲ得

告發ヲ受ケタル司法警察官ハ第四十九條ノ規定ニ從ヒ其處分ヲ爲スヘシ

○本條ハ第一項ニ於テ一己人ノ告發シ得ヘキ場合及ヒ其手續ヲ定メ第二項ニ於テハ其告發ヲ受ケタル司法警察官ノ處分如何ヲ定メタリ

問

犯罪ニ因リ損害ヲ受ケサル者即チ何人ニ限ラス告發權ヲ有スル理由如何

答

官吏、公吏ハ元ト公安保護ノ義務アルモノナレハ假令犯罪ニ因リ自己損害ヲ受ケサル場合ト雖職務上必ス之ヲ告發セサルヘカラスハ當然ナレトモ聊カ犯罪ニ關聯ナキ一私人ニシテ犯罪事件ヲ摘發スルハ道義上余リ嘉ニスルヘキコトニ

アラス然レモ犯罪ハ必竟社會ノ安寧秩序ヲ維持シ國民一般ノ幸福ヲ保全センカ爲メ設ケタル法律ニ違背スルノ所爲ナレハ所謂社會一般人民ニ對スル罪ナリ果テ然ラハ社會ヲ構成スル所ノ各人民ハ社會保衛ノ爲メ惡漢兇徒ヲ洗滌スルニ各自尽力セサルヘカラス否ナ寧ロ尽力スルノ權利ヲ有スルモノト謂フヘシ故ニ何人ニ限ラス犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ直チニ之ヲ告發スルコトヲ得ヘキモノトス若シ然ラスシテ之ヲ特リ當該官吏ニ放任センカ惡漢愈犯罪ノ餘地ヲ得テ増々跋跨シ其局社會ヲ紊亂スルニ至ルヘシ是レ本條ニ於テ何人ニ限ラス云々ノ規定ヲ爲シ各一私人ニ告發ノ權ヲ與ヘタル所以ナリ但シ本條何人ニ限ラスト第四十九條ノ何人ニ限ラストハ其意義廣狹ノ別アリト知ルヘシ即チ第四十九條ノ何人ハ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ何人ト云フノ意ニシテ本條ノ何人ノ廣ク一般人ヲ指シタルモノトス

問 一私人ノ告發ハ其所在地若クハ犯罪地ノ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スヘシ

ト定メタル理由如何

法律上ノ代理人トハ未丁年者ノ父母、又ハ親屬、後見人、白痴瘋癲人ノ管理人、夫タル者、治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ後見人等ヲ云フ

答 元來告發者ハ被害者ニアラサレハ若シ告訴ニ於ケルカ如ク必ス被告人所在地若クハ犯罪ノ地ニ告發スヘシト爲スカ或ハ又官吏、公吏職務上ノ告發ニ於ケルカ如ク檢事ニ限り告發スヘシト爲サハ告發者ハ不便若クハ其手續ノ面倒ナルカ爲メニ自然犯罪ヲ默過シ容易ニ告發セサルニ至リ其弊遂ニ惡漢ヲシテ逸居安樂ノ餘地アラシメ爲メニ良民ノ難累ヲ醸スニ至ル可シ是レ一私人ノ告發ハ告訴若クハ官吏、公吏職務上ノ告發ト異ナリ自己所在地若クハ犯罪ノ地ニ於テ之ヲ爲スヲ許ス而已ナラス尙ホ又檢事ニ限ラス司法警察官ニ對シテモ之ヲ爲スヲ許シタル所以ナリ再言セハ成ルヘク告發者ニ便利ヲ與ヘ告發ヲ爲サシメ以テ犯罪ヲ遁ル、ノ機期ナカラシメシカ爲メニ外ナラサルナリ

第二項ハ第四十九條ニ於テ説明シタルハ茲ニ略ス

第五十四條 告訴告發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ第五十二條ノ場合ハ此限ニアラス

無能力者ノ告訴ハ法律上代理人之ヲ爲スモ其效アリトス

○本條ハ代人ヲ以テ告訴告發ヲ爲ス場合ヲ定メタルモノトス

問 代人ヲ以テ告訴告發ヲ爲スヲ許シタル理由如何

答 告訴告發ハ本人自ラ之ヲ爲スヲ以テ正則トス然レモ時トシテハ之ヲ爲スニ付キ委任シタル代人ヲ以テ之ヲ爲スヲ得ヘシ何トナレハ若シ一切代人ヲ以テ之ヲ爲スヲ得サルトセンカ本人病氣其他不得已事故ニ因リ自ラ之ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ大ニ不都合ヲ生スルハ勿論特ニ告訴人ニシテ大ナル傷害ヲ受ケ自ラ之ヲ訴フルヲ能ハサルカ如キ場合ニ於テ代人ヲ以テ之ヲ爲スヲ許サランカ或ハ犯人跡ヲ晦マシ遂ニ逮捕スルヲ能ハサルニ至ルノ恐レアレハナリ固ヨリ代人ヲ以テ告訴告發ヲ爲スニハ委任狀ヲ提出スルヲ要ス但シ第五十二條ノ場合即チ官吏、公吏職務上ノ場合ハ代人ヲ以テ爲スヲ許サス蓋シ官吏、公吏ハ其職務上ヨリ告發スヘキ義務アルモノナレハ本人自ラ爲スヲ當然トスレハナリ

問 然ラハ法律上ノ代理人、無能力者ニ更リテ告訴ヲ爲シタルハ如何

答 無能力者トハ天然又ハ法律ニ依リ完全ニ智能ヲ有セサルモノト推定シタル彼ノ幼者若クハ有夫ノ婦ノ如キ等ヲ云フ而シテ是等能力者ノ法律上代理人カ無能

力者ノ爲メ告訴ヲ爲ストキハ別ニ委任狀ヲ有セス之ヲ爲スモ其效アリトス何トナレハ法律上ノ代理人ハ元ト無能力者タル本人ヲ管理監督スルモノナレハ敢テ本人ノ名義ヲ用ヒテ告訴ヲ爲スニ及ハス自己ノ名義ヲ以テ之ヲ爲スヲ得ベケレハナリ換言セハ法律上ノ代理人ハ本人ノ名義ヲ用ヒテ告訴ヲ爲スニ非スシテ即チ本人ヲ代理スル自己ノ名義ヲ以テ之ヲ爲スモノナレハナリ

**第五十五條 告訴、告發ハ其取下ヲ爲シ又ハ其申立ヲ變更スル
コトヲ得此場合ト雖第十三條ノ規定ニ從ヒ被告人ヨリ要償ノ訴
ヲ受クルコトアルヘシ**

○本條ハ告訴、告發ノ取下及ヒ其申立變更ノコトヲ規定シタルモノナリ

問 告訴、告發ヲ取下又ハ其申立ヲ變更スルコトヲ得ル所以及ヒ此場合ニ於テ告訴
告發者ノ責任如何

答 夫レ一旦告訴、告發ヲ爲シタル後其陳述シ又ハ記載シタル事實全ク誤謬ナリ
シカ或ハ又過實ナリシコトヲ自ラ覺知スルトキハ告訴、告發人ハ之レカ願下又ハ
其増減變更ヲ爲シ得ルヤ素ヨリ當然ノコトニシテ別ニ説明ヲ要セス然レモ第三十三

條ノ規定即チ告訴、告發人ノ惡意若クハ重過失ニ因リ被告人ニ損害ヲ加ヘタル
トキハ假令以上ノ場合ト雖被告人ヨリ要償ノ訴ヲ受クルコトアルヘキモノトス何
トナレハ苟モ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ必ス之レカ賠償ノ責ニ任セサルヘカラ
ストハ法律上ノ一大原則ナレハナリ况ンヤ自己ノ惡意若クハ重過失ニ出テタル
モノナレハ之レカ責ニ任スル正ニ至當ノコトナリトス

第二節 現行犯罪

**第五十六條 現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ
發覺シタル罪ヲ謂フ**

○本條ハ現行犯ノ定義即チ現行犯トハ如何ナルモノナルカヲ規定シタルモノ
トス

問 現行犯、非現行犯ヲ區別スル基礎及ヒ其之ヲ區別スルノ必要如何

答 現行犯トハ正條規定スルカ如ク現ニ行ヒツ、アル際ニ又ハ現ニ行ヒ終ハルモ
尙ホ未タ其罪跡暖ナリ際ニ發覺シタルモノヲ云フ故ニ既ニ犯罪アリテ後チ若シ
ノ時間ヲ經過シタルトキハ現行犯ニ非スシテ即チ非現行犯ナリトス蓋シ現行犯

非現行犯ノ區別ハ素ト罪ノ性質又ハ其種類ニ基キタルモノニアラスシテ其犯罪ノ檢覺シタル時ニ因リ區別シタルモノナリ而シテ法律カ此區別ヲ要スル所以ノモノハ賭博其他刑法第四百二十五條以下數條ニ於テ規定セル犯罪ノ如キ現行犯ニ非サレハ罪トシテ罰セサルモノアルカ故ナリ如之ナラス又現行犯ノ場合ニ於テハ急速ニ事ヲ處置セサレハ忽チ證據ヲ失シ犯人逃亡スルノ憂アルヲ以テ捜査、起訴及ヒ豫審ノ手續等非現行犯ノ場合ト大ニ緩嚴遲速ノ差違アルカ爲メナリ即チ今試ニ其差違ヲ列擧スレハ、第一現行犯ハ司法警察官巡查憲兵卒令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得ルト雖非現行犯ハ必ス令狀ヲ待タサルヲ得ス第二現行犯ナルトキ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノハ何人ニ限ラス之ヲ逮捕スルコトヲ得ルモ非現行犯ナルトキハ司法警察官巡查憲兵卒ニアラサレハ之ヲ逮捕スルコトヲ得ス、第三現行犯ハ檢事ヨリ請求ヲ受ケサルモ豫審判事直チニ豫審ニ取掛ルコトヲ得ルト雖非現行犯ハ檢事ノ請求アルニアラサレハ豫審判事豫審ニ取掛ルコトヲ得ス、第四現行犯ニ於テハ豫審ニ屬スル臨檢、捜査ノ處分ヲ檢事又ハ

准現行犯トハ
實際現行犯ニ
アラサル者ヲ
重罪、輕罪ニ
付キ或ル場合
チ現行犯ト見
做シテ處分ス
ルモノヲ云フ

司法警察官ニ許シタルモノ非現行犯ナルトキハ豫審判事ノ外豫審ノ處分ヲ許サス、第五現行犯ハ檢事ノ起訴ナキモ豫審判事檢證、調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理ス然レモ非現行犯ハ檢事ノ起訴ナケレハ公訴ヲ受理セサル等ノ差違アリトス

第五十七條 重罪、輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ準ス

- 第一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラルトキ
- 第二 兇器、贓物其他ノ物件ヲ携帯シ又ハ身体、被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキトキ
- 第三 家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢証スル爲メ又ハ其犯人ト思料スヘキ者ヲ逮捕スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタルトキ

○本條ハ准現行犯即チ現行犯ニアラサルモ現行犯ト見做シテ處分スヘキモノヲ定メタルモノトス

問 第一ノ場合チ准現行犯ト定メタル理由如何

答 前條ニ於テ既ニ説明シタルカ如ク現行犯トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル

際ニ發覺シタル罪ヲ云フモノナレハ此場合ハ素トヨリ現行犯ト稱スヘカラス何

ナレハ犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラル、トキノ如キハ既ニ犯罪アツテヨリ若干ノ時間經過シタルモノナルヤ明ラカナレハナリ然レトモ前キニ逃走スル者アリ後トニ追呼スル者アルトキ即チ彼ハ犯人ナリ兇漢ナリト叫ヒテ追走スルハ必竟其者カ現在犯罪ヲ目撃シタルカ或ハ又自ラ損害ヲ受ケシモノナルト多キニ居レハ容易ニ人違等ノ恐レナキヲ以テ假令巡查、憲兵卒令狀ヲ有セスシテ之ヲ捕縛スルモ敢テ不都合ナシ否ナ唯タニ不都合ナキ而已ナラス若シ之ヲ捕縛スルト得ストセハ遂ニ犯人逃亡シ再ヒ捕フルコト能ハサルニ至ルヘシ是レ第一ノ場合ヲ現行犯ト見做シ其處分ヲ許ス所以ナリ

問 第二ノ場合ヲ准現行犯ト定メタル理由如何

答 此場合モ亦タ實際現行犯ニアラサレモ兇器ヲ携ヘ若クハ贓物ト思料スヘキ物品ヲ所持シ居ルカ又ハ身体、被服ニ流血其他ノ著シキ痕跡アルトキハ充分犯人タルコトヲ推測スルニ足ル而已ナラス且ツ犯罪アツテヨリ未タ數多ノ時間ヲ經過セサルモノト認定スルコトヲ得ヘケレハ現行犯ト見做シテ其處分ヲ許サ、ルヘカ

ラス若シ然ラサルトキハ法律ハ人權ヲ重セント欲テ却テ犯人ヲ捕縛スルノ機期ヲ失ハシメ遂ニ社會ニ害毒ヲ與フルニ至ラン是レ第二ノ場合ヲ現行犯ニ推スル所以ナリ

問 第三ノ場合ヲ准現行犯ト定メタル理由如何

答 此場合ハ前二項ト異ナリ一見現行犯ニ推スヘキモノニ非サルカ如シト雖元來戸主ハ濫リニ檢證又ハ逮捕等ノ處分ヲ求ムヘキ理ナキヲ以テ苟モ其求メアリタルトキハ必ス迅速ニ處分セサルヘカラサル罪アルコトヲ推測セサルヘカラズ否推測スルニ充分ナリトス果テ然ラハ此場合ニ於テモ尙ホ現行犯ニ推シ速ニ其處分ヲ爲シ以テ一家ノ安寧ヲ保全セシメサルヘカラサルヤ論ヲ俟タサルナリ但シ正文中戸主ト明記シアルヲ以テ見レハ一家ノ戸主而已ニ限ルカ如シト雖戸主ノ代人又ハ留守者ノ求メアリタル場合ニ於テモ亦戸主ヨリ求メタル時ト同シク之レカ處分ヲ爲スヘキモノトス何トナレハ若シ然ラサルトキハ戸主病氣又ハ隠守中ハ速ニ其處分ヲ求ムルコト能ハサルノ不都合ヲ生スルニ至レハナリ

即決ヲ爲スヘキ官署トハ警察官及ヒ憲兵屯所等ヲ云フ

司法警官執

務心得

第九十九條 禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ現行犯ニテ被告人現場ニアルトキハ直チニ之ヲ逮捕スヘシ但被告人身分又ハ事ノ模様ニ因リ逮捕ヲ必要トセザルトキハ此限ニアラス

第五十八條

司法警察官及ヒ巡查、憲兵卒其職務ヲ行フニ當リ

重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタ

ルトキハ令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕スヘシ

罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコトヲ知り

タルトキハ被告人ノ氏名、住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ檢事、違警

罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官署ニ告發ス可シ其氏名、住所分

明ナラス又ハ逃亡ノ恐メル者ハ檢事若クハ官署ニ引致スルコ

トヲ得

○本條ハ現行犯ノ場合ニ於テ被告人處分ニ關スル手續ヲ規定シタルモノトス

問

司法警察官及ヒ巡查、憲兵卒其職務ヲ行フニ當リ令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ

逮捕シ得ヘキ場合及ヒ其理由如何

答

元來逮捕ハ身体ノ自由ヲ拘束スルモノナレハ事最モ重大ナリ故ニ假令司法警

察官又ハ巡查、憲兵卒ト雖モ令狀ヲ携帯セスシテ妄リニ人ヲ逮捕スルコト能ハサ

ルハ勿論ナリ即チ非現行犯ニ付テハ必ズ豫審判事若クハ檢事ノ發シタル令狀ヲ

携帯シ之ヲ被告人ニ示シタル上ニアラサレハ妄リニ逮捕スルコトヲ得ズ然レモ

現行犯ノ場合即チ司法警察官及ヒ巡查憲兵卒其職務ヲ行フニ當リ重罪又ハ禁錮

ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アルコトヲ認知シタル時ハ假令令狀ヲ携帯セスト

雖モ直ニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得トナレハ若シ夫レ然ラスシテ正當ノ手續

即チ豫審判事又ハ檢事ニ犯罪アルコトヲ通報シテ令狀ヲ受取り而シテ後之ヲ逮

捕スヘキモノトセハ之レカ手續ヲ爲ス間ニ犯人既ニ逃亡シテ遂ニ再ヒ之ヲ逮捕

スルコト能ハサルノ恐アリ果シテ然ラハ凶惡無暴ノ徒容易ク法網ヲ遁ル、ノ餘

地アリテ大ヒニ司法權ノ威嚴ヲ毀損スルコト之レナシトセサレハナリ是レ現行

犯ノ場合ニ於テハ殊ニ令狀ヲ待タスシテ司法警察官及ヒ巡查、憲兵卒ニ被告人

ヲ逮捕スルノ權ヲ與ヘタル理由ナリトス

問 罰金ノ刑ニ該ルヘキ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯ノ場合ニ於テハ何故ニ逮捕ヲ許

サ、ル乎及ヒ此場合ニ於テハ如何ナル手續ヲ爲スヘキ哉

答 前項已ニ述タル如ク令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得ルハ禁錮以上

ノ刑ニ該當スル犯罪ニ限ルモノナレハ假令現行犯ノ場合ト雖モ罰金ノ刑ニ該ル

司法警察官

職務心得

第四百條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ釋放ノ場合ヲ除ク外前條ノ期限内ニ檢事局送致スルノ手續ヲ爲スルコトヲ得ルモ同シ

ヘキ輕罪又ハ違警罪ナル時ハ之ヲ逮捕スルコトヲ得ス何トナレハ罰金ニ該ルヘキ刑ハ輕罪ハ即チ輕罪ナリト雖モ休刑ニ比スレハ其罪質輕キヲ以テ敢テ之ヲ逮捕シ若クハ引致スルノ必要ナシ已ニ必要ナキニ之ヲ逮捕スルハ妄リニ被告人ノ身体ヲ拘束シ被告人ニ向テ耻辱ト不自由トヲ與ユルニ過キズシテ其得失相償ハサルニ至レハナリ况ンヤ違警罪ノ如キ至テ輕微ナル被告人ヲモ逮捕セサルヘカラスト云フノ理アランヤ故ニ罰金ノ刑ニ該ルヘキ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコトヲ認知シタル時ハ先ツ被告人ノ氏名、住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ區裁判所ノ檢事、違警罪ニ付テハ即決ヲ爲スヘキ官署ニ告發スヘキモノトス然レモ被告人ニ於テ曖昧ナル答辨ヲ爲シ姓名住所分明ナラサルカ又ハ逃亡スルノ恐れアル時ハ檢事若クハ官署ニ引致スルコトヲ得ヘキモノトス

第五十九條 巡查、憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引渡スヘシ

其被告人ヲ受取りタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テノ調書ヲ作ルヘシ

○本條ハ巡查、憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキノ處分及ヒ之ヲ受取りタル司法警察官ノ處分ヲ規定シタルモノトス

問 巡查、憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキノ處分及ヒ之ヲ受取りタル司法警察官ノ處分如何

答 巡查、憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致スヘキモノトス何トナレハ巡查、憲兵卒ハ被告人ヲ逮捕スルノ權利ヲ有スレモ之ヲ處分スルノ權利ナシ即チ被告人ヲ訊問シ若クハ檢證スルノ權利ヲ有セサルモノナレハナリ而シテ其被告人ヲ受取りタル司法警察官ハ逮捕證書及ヒ告發書ヲ作り又タ之ヲ檢事ニ交付セサルヘカラス蓋シ被告人ニ對シ刑罰ヲ加ヘンカ爲メ公訴ヲ提起シ裁判ヲ求ムルハ唯リ檢事ノ職務ニシテ敢テ司法警察官ノ干與スヘキモノニアラサレハナリ

第六十條 何人ニ限ラス重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ルキ輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ直チニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得

○本條ハ一般普通人ニシテ犯人ヲ逮捕スルコトヲ得ル場合ヲ定メタルモノトス

問 重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テ何人ニ限ラス被告
人ヲ逮捕スルヲ許シタル理由如何

答 何人ニ限ラス重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ルヘキ輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テ被告
人逮捕權ヲ與ヘタル所以ノモノハ必竟犯人ノ逃亡ヲ防グト共ニ被害者ノ危急ヲ
救ハシメンカ爲メニ外ナラサルナリ然ラハ禁錮以下ノ輕罪若クハ違警罪ノ現行
犯ノ場合ニ於テハ如何矢張り逮捕ヲ許スヤ否ナ既ニ前述シタルカ如ク元來是等
ノ犯罪ハ其性質輕微ナルヲ以テ一私人ノ逮捕スル能ハサルハ勿論假令官吏ト雖
逃亡ノ恐レアルカ或ハ氏名、住所不分明ナルトキニ非サレハ之ヲ引致スルヲ能
ハス故ニ本條ニ於テモ單ニ重罪又ハ輕罪ト記セスシテ殊更禁錮ノ刑ニ該ルヘキ
云々ト明記シタリ而シテ又本條中殊ニ注意スヘキハ直チニノ文字ナリトス即チ
直チニトハ當該官吏ニ通報シテ令狀ヲ受取ルヲ要セス或ハ又タ別ニ其命令ヲ乞
フニモ及ハス直チニ逮捕シ得、キ旨ヲ指示シタルモノトス

第六十一條 前條ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ司

法警察官ニ引致ス可シ若シ引致スルヲ得サルトキハ自己ノ
氏名、職業、住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述假ニ之ヲ巡查、憲兵
卒ニ引渡スヲ得
被告人ヲ巡查、憲兵卒ニ引渡シタルトキハ速ニ告訴又ハ告發
ヲ爲ス可シ

被告人又ハ巡查、憲兵卒ハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ共ニ官署
ニ至ルヲ要ムルヲ得但逮捕ヲ爲シタル者ハ正當ノ事由アル
ニ非サレハ其求メヲ拒ムヲ得ス

○本條ハ第一項第二項ニ於テ前條ノ手續即チ被告人ヲ逮捕シタル者ノ爲スヘ
キ手續ヲ定メ第三項ニ於テ其被告人又ハ之レカ假引渡ヲ受ケタル巡查、憲兵
卒ノ逮捕者ニ對スル要求ヲ定メタリ

問 一私人現行犯者ヲ逮捕シタルトキノ手續如何
答 一私人現行犯者ヲ逮捕シタルトキハ之ヲ司法警察官ニ引致スルヲ以テ當然ト

ス然レモ司法警察官所在地遠隔ナルカ或ハ之ヲ引致セント欲スルモ被告人逃亡
ノ恐レアルカ或ハ又自己ノ力量及ハスシテ之ヲ引致スルヲ得サルカ如キ場合

ニ於テハ假リニ巡査、憲兵卒ニ引渡スモ敢テ妨ケナシトス此場合ニ於テハ自己ノ氏名、職業、住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述スルヲ要ス蓋シ是等ノ陳述ヲ爲スハ正當ニ權利ヲ行ヒタルヲ證スルト共ニ犯罪ノ取調ヲ爲スニ參考トナルヘキ以テナリ

問 被告人ヲ巡査、憲兵卒ニ引渡シタルトキハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲スヘシト定メタル理由如何

答 前項記載ノ如ク逮捕者ニ於テ既ニ自己ノ氏名、職業、住所及ヒ逮捕ノ事由ヲ陳述シテ之ヲ巡査、憲兵卒ニ引渡シタル以上ハ最早改メテ告訴又ハ告發ヲ爲スノ必要アラサルカ如シ然レモ巡査、憲兵卒ハ素ト司法警察官ニアラサレハ告訴告發ヲ受クルノ職權ナシ故ニ假令以上ノ手續ヲ爲シタリト雖尚ホ正當ノ法式ニ從ヒ速ニ當該官吏ニ之ヲ告訴シ(自己被害者ナルトキ)又ハ告發(自己被害者ニ非サルトキ)セサルノカラサルヤ論ヲ俟タスシテ明ラカナリ

問 被告人又ハ巡査、憲兵卒カ逮捕者ニ對シ同行ヲ要メタルトキハ逮捕者ハ正當

ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得サル所以如何

答 夫レ逮捕者ハ被告人ノ身体ヲ拘束シ以テ貴重ナル人權ヲ毀傷シタルモノナレハ宜シク官署ニ至リ逮捕ノ事由及ヒ其他ノ事情ヲ陳述シテ愈々被告人ノ犯罪者ナルコト即チ正當ニ權利ヲ行ヒタルヲ證明セサルヘカラス否ナ證明スルノ義務アリト謂フヘシ故ニ被告人又ハ巡査、憲兵卒ヨリ官署ニ同行ヲ請求シタル場合ニ於テハ逮捕者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒絕スルコト能ハサルヤ勿論ナリトス

第二章 起訴

第六十二條 地方裁判所檢事犯罪ノ捜査ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スコシ

第一 重罪ト思料シタル事件ニ付テハ豫審判事ニ豫審ヲ求ム可シ

第二 輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕重難易ニ從ヒ豫審ヲ求メ又ハ直チニ其裁判所ニ訴ヲ爲可シ

第三 裁判所構成法第十六條第二號第三號ニ記載シタル輕

證據書類トハ
官吏ノ檢證調
書、被告人又
ハ證人ノ訊問
調書鑑定人ノ
申立書等ヲ云

罪又ハ違警罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ
意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢事ニ送致ス可シ(裁判所
成法第十

六條ハ本書第二十五條ノ旨
頭ニ掲ケアレハ既テ可看

○本條ハ地方裁判所檢事カ犯罪ノ捜査ヲ終リタルトキ爲スヘキ手續ヲ規定シ
タルモノトス

問 起訴即チ公訴ノ提起ハ何人ニ屬スルモノナルヤ

答 抑モ訴訟ニ三種アリ曰ク民事ノ訴、曰ク私訴、曰ク公訴是レナリ蓋シ民事ノ

訴及ヒ私訴ハ元來其訴權被害者ニ屬スルモノナレハ之レカ損害ヲ受ケタル者ハ
何人ト雖之ヲ提起スルコト得然レモ公訴ハ其權社會ニ專屬スルモノナレハ社會
ノ代表者タル檢事以外ノ人(或ハ必要ノ場合ニ於テ豫審判事又ハ司法警察官、
憲兵、將校、下士及ヒ林務官之ヲ爲スハ例外)ハ之ヲ提起スルコト能ハサルヤ論
ヲ待タサルナリ何トナレハ若シ夫レ何人ト雖自由ニ公訴ヲ提起スルコト得ルト
セハ是レ即チ公訴權ハ社會ニ專屬スルモノニアラスシテ一私人ニ屬スルモノト

云ハサルヲ得サレハナリ

問 重罪ト思料シタル事件ニ付テハ必ス豫審ヲ求ム可シト定メタル理由如何

答 重罪ハ其罪質至テ重ク且ツ事實錯綜シ居ルヲ以テ之レカ審査ヲ爲スニモ亦須
ラク鄭重嚴密ナル吟味ト周到深切ナル取調ヲ爲サ、ルヘカラス何トナレハ若シ
夫レ然ラスシテ重難錯綜セル事件ヲ審査スルニ簡易ナル手續輕便ナル方法ヲ以
テセンカ遂ニ事實ヲ極メ情狀ヲ尽ス能ハスシテ或ハ兇漢其罪ヲ免セラレ或ハ無
辜ノ良民獄裏ニ呻吟スルコトアル可シ是レ重罪事件ニ付テハ直チニ公判ニ附セス
必ス先ツ豫審ヲ求ムヘシト定メタル所以ナリ

重罪ニ付キ豫審ヲ求ムル理由ハ以上陳述シタルカ如シ然レモ豫審制度ノ設ケア
ル所以ハ獨リ是レ而已ナラス尙ホ他ニ必要アルカ爲メナリ即チ若シ豫審ニ於テ
一應ノ取調ヲモ爲サス直チニ公判ニ附スルトセンカ假令裁判官ノ明能ク罪ノ有
無ヲ判別シ苟モ無辜ヲ罰シ有罪ヲ過スカ如キ是レナシトスルモ元來公判ハ判決
ノ公平ヲ維持センカ爲メニハ衆人ノ公聽ヲ許サ、ルヘカラサルモノナルヲ以テ

結局無罪ノ宣告ヲ受ケ晴天白日ノ身トナル者ト雖一時公衆ノ面前ニ於テ犯人視セラレ大ニ耻辱ヲ蒙リ名譽ヲ害セラル、ト亦是レナシトセサルノ不都合ヲ生スルヲ以テ重罪ト思料スヘキ事件ニ付テハ飽迄豫審ヲ求メサルヘカラサルノ必要アリトス

問 輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕重難易ニ從ヒ或ハ豫審ヲ求メ或ハ之ヲ求メサル理由如何

答 輕罪ハ重罪ヨリモ罪質微ナルヲ以テ刑罰モ亦輕易ナルト固ヨリナリト雖其重キモノニ至テハ殆ト重罪ト同ク又其輕キモノニ至テハ殆ト違警罪ト均シキモノアリ蓋シ其重キモノハ自ラ事實錯綜シ刑罰モ亦重大ナルヲ以テ從テ被告人ノ安危休戚ニ關係スルヲ夫レ大ナレハ重罪ノ手續ト同様豫審ニ附シ成ル可ク鄭重嚴密ナル審査ヲ遂ケサル可カラス之ニ反シ其輕キモノハ單純ニシテ事實明白シ居ルヲ以テ敢テ周到鄭重ナル取調ヲ爲スノ必要ナシ夫レ然リ然ルヲ尙ホ被告人ノ利益ヲ計ランカ爲メ專ラ鄭重完全ヲ主トシ以テ餘計ノ手續ヲ尽サンカ徒ニ時日

ヲ遷延シ爲メニ判決拘留ヲ長クシ途ニ本刑ヨリモ一層重キ刑罰ヲ科スルカ如キ不都合ヲ生スルニ至ラン果テ然ラハ被告人ヲ保護セント欲シ却テ被告人ノ不幸迷惑ヲ惹起スルモノト云フヘシ是レ即チ輕罪ニ付テハ其輕重難易ニ從ヒ其重難ナルモノハ豫審ヲ求メ輕易ナルモノハ之ヲ求メス直チニ其裁判所ニ起訴ヲ爲スヘシト定メタル所以ナリ

問 地方裁判所々屬ノ檢事ニシテ裁判所構成法十六條第二號第三號ニ記載シタル事件ト思料シタルトキハ之レカ起訴ヲ爲サス區裁判所檢事ニ送致スル所以如何

答 裁判所構成法第十六條第二號第三號ニ記載シタル輕罪ハ、ハ違警罪ト思料シタル事件ハ元ト地方裁判所ノ管轄ス可キ事件ニ非スシテ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナレハ地方裁判所檢事ハ該事件ヲ起訴スルノ權利ナキヲ以テ此場合ニ於テハ證據書類ニ見書ヲ添ヘ當該管轄裁判所即チ區裁判所ノ檢事ニ送致セサルヘカラサルヤ明ラカナリ

第六十三條 區裁判所檢事犯罪ノ捜査ヲ終リタル上裁判所構成

法第十六條第一號第二號ニ記載シタル事件ト思料シタルトキハ其裁判所ニ訴ヲ爲ス可シ

○本條ハ區裁判所檢事カ犯罪ノ捜査ヲ終リタル後チ爲スヘキ手續ヲ定メタルモノトス

問 區裁判所々屬ノ檢事カ犯罪ノ捜査ヲ終リタル後チ爲スヘキ手續如何

答 區裁判所々屬ノ檢事犯罪ノ捜査ヲ終リタル後チ裁判所構成法第十六條第一號第二號ニ記載シタル事件即チ違警罪又ハ本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪ト思料シタルトキハ其區裁判所ニ之ヲ起訴スヘキモノトス是レ同法ニ於テ是等ノ事件ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スト定メアルヲ以テ其區裁判所ニ起訴セサルヘカラスヤ當然ノコトニシテ別ニ詳説ヲ要セズ

第六十四條 檢事ハ被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料シタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ
被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理ス可ラサルモノト思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲ス可ラス

○本條ハ第一項ニ於テ檢事カ被告事件其者ニ付キ裁判管轄違ト思料シタル場合ニ於テ爲スヘキ手續ヲ定メ第二項ニ於テハ既ニ捜査ヲ爲シ終リタル後チ被告事件罪トナラサルカ又ハ公訴受理スヘカラサルモノト思料シタルトキニ於テノ手續ヲ定メタルモノトス

問 檢事ハ自己ノ管轄ニ屬スル被告事件ニアラサレハ之レカ起訴權ヲ有セサル理由及ヒ其場合ニ於テ其檢事ノ處分如何

答 裁判所構成法ニ示シタル裁判管轄ノ規定ハ獨リ裁判所ニ付テ而已規定シタルモノニ非スシテ尙ホ犯罪事件其者ニ付キ規定シタルモノナレハ犯罪事件ヲ公訴スルノ任アル檢事モ亦此管轄ヲ遵守セサルヘカラス故ニ地方裁判所々屬ノ檢事ハ違警罪若クハ輕微ナル輕罪ニ付テハ之ヲ起訴スルノ權ナク區裁判所々屬ノ檢事ハ重罪若クハ重難ナル輕罪ニ付テハ之ヲ起訴スルノ權ナキヤ明ラカナリ夫レ然リ然ラハ檢事カ被告事件自己ノ管轄ニ屬セサルモノト思料シタルトキハ處ニ

之ヲ正當管轄裁判所ノ檢事即チ之ヲ起訴ルモノ權アル檢事ニ送致セサルヘカテサルハ玆ニ論ヲ俟タサルナリ

問 被告事件罪トナス又ハ公訴受理スヘカテサルモノト思料シタルトキトハ如何及ヒ此場合ニ於テ檢事ハ如何ニ爲スヘキ乎

答 被告事件罪トナラスト思料シタルトキトハ既ニ捜査ヲ終リタル後テ其事件罪トナラサルモノ即チ被告人ノ所爲刑法又ハ其他ノ法律ニ觸レサルモノト思料シタルトキナ云ヒ又公訴受理スヘカテサルモノト思料シタルトキトハ本法第六條ニ規定シタル公訴權消滅ノ場合ナ云フ而シテ右二箇ノ場合ニ於テハ檢事ハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラス何トナレハ第一ノ場合ニ於テハ始メヨリ犯罪ヲ構成セス第二ノ場合ニ於テハ假令犯罪アリタルモ既ニ其公訴權消滅シタレハ之レカ起訴ヲ爲サント欲スルモ得ヘカテサレハナリ

第六十五條 前數條ノ場合ニ於テ被告事件告訴ニ係ルトキハ檢事ヨリ其處分ヲ被害者ニ通知スシ

○本條ハ檢事カ告訴ニ係ル被告事件ヲ起訴シタルトキハ其處分ヲ被害者ニ通

知スヘキトテ定メタルモノトス

問 被告事件告訴ニ係ルトキハ檢事ヨリ其處分ヲ被害者ニ通知セサルヘカテサル理由如何

答 被害者タル告訴人ハ自己ノ告訴セシ事件有罪トシテ檢事カ公訴ヲ起シタルトキハ其公訴ニ附帶シテ私訴ノ申立ヲ爲スコトアル可ク若シ又檢事カ被告事件罪トナラサルカ或ハ公訴受理スヘカテサルモノト思料シ起訴セサルトキハ告發人ハ更ニ民事裁判所ニ訴ヘテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトモアルヘシ左スレハ二者何レノ場合タルヲ問ハス檢事ノ處分如何ハ大ニ告訴人ノ利害ニ關係スルモノナルヲ以テ告訴人ニ於テモ之ヲ知得スルノ必要アリ是レ本條ニ於テ告訴ニ係ルトキハ檢事ヨリ其處分ヲ被害者ニ通知ス可シト定メタル所以ナリ

第六十六條 檢事豫審ヲ求ムルトキハ証憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ送致シ且臨檢ス可キ場所、逮捕ス可キ人名及ヒ証人ト爲ル可キ者ヲ指示ス可シ

○本條ハ檢事カ豫審ヲ求ムルトキニ於テ豫審判事ニ對シ爲スヘキ手續ヲ定メ

タルモノトス

問 檢事カ豫審ヲ求ムルトキノ手續及ヒ其之ヲ爲サ、ルヘカラサル理由如何

答 檢事ハ豫審ヲ求ムルトキハ證據及ヒ事實參考トナルヘキ事物ヲ豫審判事ニ送

致セサルヘカラサル而巳ナラズ尙ホ且ツ臨檢ス可キ場所、逮捕スヘキ人名及ヒ

證人ト爲ルヘキ者ヲ指示セサル可カラス何トナレハ元ト犯罪ノ捜査ハ司法警察

官又ハ檢事カ爲スヘキモノニシテ豫審判事ノ爲スヘキモノニアラサレハ(本法)

第百十二條ハ例外、之レカ捜査ヲ爲シタル者ハ成ルヘク是等ノ手續ヲ爲シ豫審

判事ヲシテ其豫審ヲ爲スニ容易アラシメサルヘカラサレハナリ

第三章 豫審

第六十七條 現行ノ重罪、輕罪ヲ除ク外豫審判事ハ檢事ノ請求

アルニ非サレハ豫審ニ取掛ルヲ得ス此規定ニ背キタルトキ

ハ其請求ヨリ以前ニ係ル手續ノ効ナカルヘシ

○本條ハ豫審判事カ豫審ニ着手スヘキ場合及ヒ其着手シタルトキノ効力ヲ定

メタルモノトス

問 現行ノ重罪、輕罪ヲ除ク外檢事ノ請求アルニ非サレハ何故ニ豫審判事ハ豫審

ニ着手スルヲ得サルカ及ヒ此規定ニ背キ着手シタル手續ノ効力如何

答 抑モ豫審ハ既ニ一言シタルカ如ク犯罪ノ證據及ヒ事實ヲ審査シ被告事件ノ公

判ニ附スヘキモノナルヤ將タ免訴スヘキモノナルヤヲ決定スルモノナレハ其之

ヲ爲スヤ宜シク鄭重厳止ナラサル可カラス即チ苟モ犯罪アレハ之レカ捜査權ヲ

有スル檢事先ツ其事實及ヒ犯人ヲ捜査シ果シテ犯罪アリト思料シタルトキハ之ヲ

豫審判事ニ起訴セサルヘカラス而シテ豫審判事ハ其起訴ニ因リ之ヲ公判ニ附ス

ヘキ證據アルヤ否ヤヲ審査シ果シテ公判ニ移スヘキ證據アリト信シタルトキハ又

之ヲ公判ニ廻スヘキモノトス之ニ由テ之ヲ觀レハ豫審判事ハ犯罪ノ證據十分ナ

ルト否トニ因リ被告事件ヲ公判ニ附スル乎ヲ將免訴スルカヲ決定スル判決タル

ニ外ナラサレハ檢事ヨリ之レカ請求アルニ非サレハ豫審ノ處分ニ着手スルヲ得

得サル之レ勿論ナリトス况ンヤ判事ハ請求ナクシテ訴訟ノ審査ニ着手スルヲ得

得サルハ訴訟法ノ一大原則ナルニ於テヤ夫レ然リ既ニ之レカ豫審ニ着手スル

訴訟記録トハ
豫審判事カ豫
審ニ於テ爲シ

タル處分ヲ錄
取シタル書類
ヲ云フ

ノ職權ナキヲ以テ若檢事ノ請求ナクシテ豫審ノ處分ヲ行フタルトキハ其請求ヨ
リ以前ニ係ル手續ヲ無効トスル玆ニ又論ヲ俟タサルナリ然レモ現行ノ重罪、輕
罪ノ場合ニ於テハ假令檢事ノ請求ナシト雖豫審判事直チニ豫審ニ着手スルヲ
得蓋シ現行犯ノ場合ハ迅速急遽ニ之ヲ處置セサレハ犯人逃走、證據湮滅等ノ恐
レアレハナリ尙ホ此点ニ付テハ第四百四十二條ニ於テ詳説スヘケレハ玆ニ略ス
第六十八條 檢事ハ豫審中何時ニテモ豫審判事ニ請求シテ訴訟
記録ヲ檢閲スルヲ得但二十四時内ニ之ヲ還附ス可シ
又必用ナリトスル處分ニ付キ臨時其請求ヲ爲スヲ得
○本條ハ檢事カ豫審處分ニ干與スルヲ得ル場合ヲ規定シタルモノトス

問 檢事ハ豫審中何時ニテモ豫審判事ニ訴訟記録ノ檢閲及ヒ必要ナリスル處分ヲ
請求スルヲ得ル理由如何

答 元來豫審ハ秘密ヲ主トスルモノナレハ其審査ヲ錄取シタル訴訟記録ハ妄リ
他人ニ閱讀ヲ許スヘキモノニアラス又豫審處分ハ元ト豫審判事ノ特リ爲スヘキ
モノニシテ決テ他人ヨリ干渉ヲ受クヘキモノニアラス然レモ檢事ハ元ト公益ヲ

保護スルノ任アル者ナレハ既ニ檢事ニ於テ公訴ヲ提起シタル以上ハ又其結局ニ
至ル迄公訴ノ實行即チ其求ムヘキハ求メ其述ヘキハ之ヲ述アル等ノ處分ヲ爲サ
ルヘカラス是レ檢事ハ豫審中何時ニテモ豫審判事ニ請求シテ訴訟書類ノ檢閲
及ヒ必要ナリトスル處分ヲ請求スルヲ得ト定メタル所以ナリ但其請求ヲ容ル
ト否トハ一ニ豫審判事ノ勝手ニシテ敢テ檢事ノ鉗束ヲ受クヘキモノニ非ス何
トナレハ縱シ檢事ハ公益保護ノ任アリトスルモ畢竟公訴ノ原告人ナレハ其豫審
處分ニ干渉シ自由ニ之ヲ左右スルヲ能ハサルヤ明ヲカナレハナリ況ンヤ若シ之
ヲ爲シ得ルトセハ又幾分カ豫審事務ノ信用ヲ薄クスルノ嫌ナキニ於テヤ
問 檢事、訴訟記録ヲ檢關スルトキ二十四時内ニ之ヲ還附ス可シト定メタル所以
如何

答 二十四時内ニ訴訟書類ヲ還附スヘシト定メタル所以ハ他ナシ若シ檢事ニ之
レカ返却ヲ遲延シ又ハ粗畧ニスルトキハ或ハ豫審ノ處分ヲ滯滯セシメ或ハ紛失
ヲ來スノ恐レアルヲ以テ是等ノ憂ヲ防カンカ爲メ豫ク斯ク定メタルモノトス

第一節 令狀

召喚狀トハ被告
人ニ出頭ヲ
促ス所ノ命令
ヲ云フ

第六十九條 豫審判事ハ檢事ノ起訴ニ因リ重罪、輕罪ノ事件ヲ受理シタルトキハ被告人ニ對シ先ツ召喚狀ヲ發スヘシ但召喚狀ノ送達ト被告人出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アルヘシ
召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問スヘシ
遲クトモ出頭ノ日ヲ過クルコトヲ得ス

○本條ハ第一項ニ於テ豫審判事カ被告事件ヲ受理シタルトキ第一着ニ爲スヘキ手續及ヒ召喚狀ヲ受ケタル被告人出頭ノ時間ヲ定メ第二項ニ於テハ其被告人訊問ノ期限ヲ定メタリ

問 令狀ハ如何ナル種類ノ犯罪ニ發スヘキモノナルヤ及ヒ之ヲ發スヘキ人如何

答 令狀ハ重罪若クハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ輕罪事件ナルトキ豫審判事之ヲ發スルテ正則トス換言スレハ彼ノ違警罪ニ對シテハ單一ナル呼出狀ヲ用ユヘキモノニシテ令狀ヲ發スヘキモノニアラス何トナレハ元來令狀ヲ發スルハ被告人ノ逃去ヲ防キ證據ノ湮滅ヲ止メ以テ豫審處分ノ便利ヲ圖ランカ爲メノ目的ニ出テ

タルモノナレハ違警罪ノ如キ豫審ヲ用ヒス直チニ公判ニ附スヘキ犯罪ニ對シテ之ヲ發スルノ理ナキハ其當然ナレハナリ即チ違警罪ハ其罪質至テ輕微ナレハ從テ其制裁タル刑罰モ亦輕キカ故ニ被告人逃亡ノ憂ナシ既ニ此ノ憂ナシトセハ特更ニ之ヲ引致拘禁スルノ必要ナキコト敢テ言フ俟タサルナリ然レモ此所謂令狀ヲ發スル人及ヒ事件ニ付テハ數多ノ例外アリ即チ或ル場合ニ於テハ裁判所之ヲ發スルコトアリ（本法第百七十八條）又タ現行犯ノ如キ事、急速ヲ要スル場合ニ於テハ檢事及ヒ司法警察官ト雖之ヲ發スルコトアリ（本法第百四十六條司法警察官職務心得第百〇二條）又タ禁錮以上ノ刑ニ該ラサルモノ即チ罰金ノ刑ニ處スヘキモノト雖或ル場合ニ於テハ令狀ヲ發スルコトアリ（本法第七十五條但書）是レ本條ニ於テ重罪若クハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ輕罪ト記セシテ單ニ輕罪ト特記シタル所以歟立法者ノ注意至レリ尽セリト謂フ可シ但此例外アル所以ハ各條ニ就テ詳説ス可シ

問 召喚狀ノ送達ト被告出頭トノ間二十四時ノ猶豫ヲ與ユル理由如何

答 若シ夫レ召喚狀ヲ受ケタル被告人ニ對シ少シノ猶豫モ與ヘスシテ直チニ出頭

○第三編、犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

ス可キモノト爲サンカ其被告人ハ現ニ爲シツ、アル業務其他已チ得サル事情ヲ
 ル場合ニ於テモ尙ホ之ヲ拋棄シ直チニ出頭セサルヘカヲサルヲ以テ其迷惑ヲ續
 ルヲ淺少ナラサルヘシ豈ニ未タ嫌疑ニ已ル者ヲシテ如此迷惑ヲ蒙ラシムルノ
 アランヤ况ンヤ召喚狀ヲ發シタル而已ニ止ル場合ニ於テハ假令二十四時以上
 猶豫ヲ與フルモ未タ以テ罪證湮滅若クハ被告人逃亡等ノ恐レナケレハ即時ニ之
 ヲ出頭セシムルノ必要ナキヲ以テ成ルヘク被告人ノ便利ヲ圖ラサルヘカヲサ
 ニ於テチヤ是レ本條召喚狀ノ送達ト被告人出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶
 アル可シト定メタル所以ナリ

問 召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ヲ訊問スヘキ時期及ヒ之ヲ定メタル理由如何

答 召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ハ成ルヘク即時ニ之ヲ訊問スルカ縱シ遅クト
 モ出頭ノ日ヲ過キテ之レカ訊問ヲ爲スヲ得ス而シテ斯ク定メタル所以ノモ
 ハ畢竟召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ハ重ニ一定ノ住所ヲ有シ且ツ命令ヲ
 シ好意ニ出頭シタルモノナレハ敢テ逃走スル等ノ憂少ナキヲ以テ安リニ之ヲ訊

條件トハ々條
 ト云フ意ナリ

置シ徒ニ執業ノ時間ヲ空費スルカ如キ迷惑ヲ蒙ルヲナカラシメントノ主旨ニ外
 ナラサルナリ故ニ召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ハ成ルヘク速ニ訊問ヲ終ヘ其
 退延セシムヘキモノハ直チニ退延セシメサルヘカラス若シ訊問ノ條項夥多ニシ
 テ其日ニ終了スルヲ得サルトキハ其日ハ歸宅セシメ次日再ヒ出延スヘキヲ
 命令スヘキモノニシテ決テ留置スルヲ得サルモノトス

第七十條 豫審判事ハ召喚狀ヲ受クヘキ被告人其管轄地内ニ住

セサルトキハ訊問ス可キ條件ヲ明示シテ被告人所在ノ地ノ豫
 審判事又ハ區裁判所判事ニ其處分ヲ囑托スルヲ得

○本條ハ召喚狀ヲ受ク可キ被告人其管轄地内ニ居ラサル場合ニ豫審判事カ爲
 スヘキ處分ヲ規定シタルモノトス

問 召喚狀ヲ受クヘキ被告人其管轄地内ニ住居セサルトキハ豫審判事ハ如何ナル

手續ヲ爲スヘキモノナルヤ

答 豫審判事ハ何レノ地ヲ問ハス全國皆等シク同一ノ職務ヲ掌ルモノナルカ故ニ

受托判事トハ豫審ノ訊問ヲ囑托セラレタ

ル判事ヲ云フ
勾引狀トハ被
告人ヲ出廷シ
シムル爲メ引
致スル所ノ命
令書ヲ云フ

召喚ヲ受クヘキ被告人其管轄地内ニ居ラサルトキハ被告人所在ノ地ノ豫審判事
又ハ區裁判所判事^二訊問スヘキ事件ヲ明ラカニ通知シテ其處分ヲ囑托スルヲ得
ルモノトス蓋シ斯ク定メタル所以ノモノハ其囑托ヲ受ケタル判事ハ直チニ召喚
狀ヲ發シテ被告人ヲ呼出シ訊問スヘキ條項ヲ訊問シ之ヲ囑托シタル豫審判事^二應
答スルヲ以テ取調上大ニ便益アル而已ナラス又取調ヲ受クヘキ被告人ニ於テモ
其取調ヘタル上ニアラサレハ果テ犯罪アルヤ否ヤ判然セサルモノナレハ單タ一
應ノ取調ヲ受ケンカ爲メ態々遠隔ノ地ニ往返スルカ如キ迷惑ヲ蒙ラサシメン
カ爲メニ外ナラサルナリ

第七十一條 豫審判事又ハ受托判事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人
其日時ニ出頭セサルトキハ勾引狀ヲ發スルヲ得

○本條ハ判事カ勾引狀ヲ發スヘキ場合ヲ定メタルモノトス
問 勾引狀ヲ發スヘキ人及ヒ場合如何

答 前第六十九條ニ於テ概説シタルカ如ク令狀ヲ受ケタル被告人ハ唯タ一應ノ嫌
疑アル而已ニテ未タ罪ノ有無分明ナラサルモノナレハ成ルヘク之ヲ鄭重ニシ人

權ヲ重セサルヘカラス即チ勾引狀ハ一應召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出頭
セサル時始メテ豫審判事又ハ受托判事ニ於テ發スヘキモノトス何トナレハ初メ
ヨリ召喚狀ヲ發セス直チニ拘引狀ヲ發スルトセンカ萬一其被告人無罪者タルカ
如キアテハ是レ徒ニ身体ノ自由ヲ拘束シ貴重ナル權利ヲ侵害スルノ結果ヲ生
スルニ至レハナリ夫レ然リ然レモ召喚狀ヲ受ケタル被告人其指定シタル日時ニ
出廷セサルトキハ勢イ不得已被告人ノ身体ヲ拘束シ公力ニ因リ強テ之ヲ引致ス
ルノ勾引狀ヲ發セサルヘカラス蓋シ此場合ニ於テ再ヒ召喚狀ヲ發スルハ敢テ法
律ノ禁スル所ニアラスト雖初度ノ召喚狀ニ應セサリシ者ニ對シ再度同一ノ召喚
狀ヲ發スルモ到底其目的ヲ達スルヲ能ハサルハ勿論惡事アル被告人ハ其召喚狀
ニ因リ自己ノ犯罪發覺シタルヲ悟リ或ハ逃走スルヤモ計リ知ルヘカラス是レ勾
引狀ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出頭セサル場合ニ於テ始メテ之ヲ發ス
ルヲ正則トスル所以ニシテ必竟法律ハ亂リニ人ヲ罪人視セス人權ヲ重ニスル主
旨ニ出テタルモノトス

問 召喚狀ト勾引狀トノ差違如何

答 今茲ニ召喚狀ト勾引狀トノ差違ヲ擧ケレハ(第一)召喚狀ハ唯タ被告人ニ對シテ出廷ヲ命令スルニ過キス然レハ勾引狀ハ唯タニ命令スルニ止ラス若シ之ニ應セサルトキハ公力ヲ以テ強テ被告人ヲ引致スヘキ効力ヲ有ス(第二)召喚狀ハ送達スヘキモノナレハ勾引狀ハ執行スヘキモノナリ故ニ召喚狀ハ若シ被告人不在ナルトキハ其親屬及ヒ雇人若クハ村長等ニ交付シ置クヲ得然レハ勾引狀ハ被告人ニ非サレハ交付スヘカラス即チ被告人以外ノ者ニ向テ執行スルヲ得ス(第三)召喚狀ノ送達ト被告人出頭トノ間ハ少クトモ二十四時ノ猶豫アルヘシト雖勾引狀ハ然ラス勾引狀ハ即時ニ執行スヘキモノトス即チ其之ヲ發シタル豫審判事又ハ受托判事ノ面前ニ直チニ引致スヘキモノトス(第四)召喚狀ニ因リ出廷シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問スルカ又ハ遅クトモ其出廷當日ヲ過キテ訊問スルヲ得ス之ニ反シ勾引狀ニ因リテ引致シタル被告人ハ四十八時間内ニ之ヲ訊問スレハナリ(第五)召喚狀ハ被告人一定ノ住所ヲ有スル場合ニ於テ發スル

罪證トハ犯罪ノ證據、徵憑、證據物件等ヲ云フ

司法警察官執務心得

第二百二條 假豫審ノ場合ニ於テハ現物ニ在リタル被告人ニ對シ勾引狀ヲ發スルヲ

ヲ常トス故ニ本人ニ送達スルヲ能ハサル時ト雖前段述ヘタルカ如ク其住所ニ送達スルヲ得ルヲ以テ敢テ數通ノ正本ヲ要スルヲ得シ然レハ勾引狀ハ直接ニ被告人ニ就テ執行スルヲ要スルモノナルヲ以テ若シ被告人ノ住所分明ナラサルトキハ正本數通ヲ作り之ヲ巡査、憲兵卒數名ニ分附シ全國中何レノ地ニ於テモ執行スヘキモノトス

第七十二條 豫審判事又ハ受托判事ハ左ノ場合ニ於テ直チニ勾引狀ヲ發スルヲ得

- 第一 被告人定リタル住所アラサルトキ
- 第二 被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スル恐アルトキ
- 第三 被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケントスル恐アルトキ

問 ○本條ハ前第七十一條ノ例外ヲ規定シタルモノトス

被告人定リタル住所アラサルトキハ豫審判事又ハ受托判事ニ於テ直チニ拘引狀ヲ發スルヲ得ル理由如何

答 凡ソ一定ノ住所アラサル者ハ大概子妻子モナク親屬モナク亦財産モナキモノ

被告他人ノ管轄
 地内ニ在ルトキ
 警察官ニ勾引状ヲ
 送致シ其執行ヲ
 囑トス可シ
 若シ其事件急遽
 ナリテ其上キハ
 巡査部長トキハ
 ナシテ以テ逮捕
 ヲ行フセシメ又ハ
 電報ヲ以テ逮捕
 ノ處分ヲ囑トス
 ルヲ得其囑托ス
 ナルヲ得其囑托
 警察官ハ其名ヲ
 以テ勾引状ヲ發
 スヘシ

ニノ隠顯出沒自在ナルカ故ニ苟モ心中痛マシキヲアランカ假令召喚狀ヲ受クル
 モ好意ニ出廷セサル而已アラズ却テ召喚狀ニ接シテ已レノ惡事露顯セシトナ悟
 リ其踪跡ヲ晦マスコト夫レ少シトセス果テ然ラハ正規ノ手續ニヨリ先ツ召喚狀ヲ
 發シ之ニ應セサルトキ始メテ勾引狀ヲ發スルトセンカ既ニ時過キ機失シ遂ニ被
 告人ヲ逮捕スルコト能ハサルニ至ラン是レ即チ被告人定リタル住所アラサル場合
 ニ於テハ變則ニ因リ直チニ勾引狀ヲ發スル所以ナリ

問 被告人、罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スルノ恐アルトキハ豫審判事又ハ受託判事ニ
 於テ直チニ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ル理由如何

答 抑モ豫審判事又ハ受託判事カ被告人ヲ喚問スルハ犯罪ノ證據ヲ蒐集シ事實ヲ
 明確ニセンカ爲メニ外ナラサルナリ果テ然ラハ豫審判事又ハ受託判事ニ於テ被
 告人罪證ヲ湮滅シ若クハ逃亡スルノ恐アリト認メタルトキハ假令一定ノ住所ヲ
 有スルトキト雖直チニ勾引狀ヲ發セサルヘカラス何トナレハ尙ホ如斯場合ニ於
 テモ直チニ勾引セス其身体ヲ自由ニ置カバ或ハ逃亡或ハ罪證ヲ湮滅シ以テ遂ニ

犯人ヲ罰スルコト能ハサルニ至ルヘケレハナリ是レ第一項ノ例外アルニモ係ハラ
 ス尙ホ本項ノ例外ヲ設ケタル所以ナリ

問 被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケントスル恐アルトキトハ如
 何及ヒ此場合ニ於テハ豫審判事又ハ受託判事ニ於テ直チニ拘引狀ヲ發スルコトヲ
 得ル理由如何

答 未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケントスル恐アルトキトハ例ヘハ甲
 者乙者ヲ殺サント欲シ既ニ及傷シタルモ尙ホ進ンテ殺サントスルカ如キ又ハ斯
 ク々々ノ事ヲ爲サ、レハ汝ノ家ニ放火ス可シ又ハ汝ヲ打殺ス可シト脅カシ尙ホ
 進ンテ其目的ヲ遂ケントスルカ如キ場合ヲ云フ而シテ是等ノ場合ハ事最モ緊急
 ナ要スヘキ場合ナレハ素ヨリ召喚狀ノ鄭重ニシテ且ツ遲緩ナル以テ之ヲ制スル
 ニ足ラス故ニ直チニ勾引狀ヲ發シテ其加害者ヲ捕縛セサルヘカラス何トナレハ
 僅カニ加害者ノ身体ヲ拘束シテ之ヲ引致シタルカ爲メ一ハ被害者ノ危急ヲ救ヒ
 一ハ加害者ノ罪科益々深キニ陥ラントスルヲ防ク而已ナラス尙ホ證據蒐集又ハ

人違ノ思ナキ等ノ利アレハナリ是レ即チ此例外アル所以ナリ

第七十三條

執行ハ取り行フ即チ實行スルヲ云フ

勾引狀執行ノ命ヲ受ケタル者ハ其令狀ヲ發シタル

釋放トハ放免

ノ意ナリ

判事ニ被告人ヲ引致ス可シ
勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可シ若シ其時間内ヲ經過スルトキハ勾留狀ヲ發スルニ非サレハ當然之ヲ釋放ス可シ

○本條ハ第一項ニ於テ勾引狀執行ノ命ヲ受ケタル者ノ爲スヘキ處分ヲ定メ第

二項ニ於テハ勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人訊問時間及ヒ其時間ヲ經過シタルトキノ處分ヲ規定シタリ

問

勾引狀執行ノ命ヲ受ケタル者トハ如何及ヒ之ヲ受タル者ノ爲スヘキ處分

答

勾引狀執行ノ命ヲ受ケタル者ハ第七十六條第三項ニ定ムル方如ク巡查、憲兵卒ナルヲ以テ之ヲ受ケタル巡查、憲兵卒ハ被告人ヲ逮捕シ其令狀ヲ發シタル判事即チ豫審判事ヲ發シタルトキハ豫審判事ニ又ハ受托判事ヲ發シタルトキハ受托判事ニ被告人ヲ引致シ以テ其職務ヲ尽サ、ルヘカラサルモノトス

問

拘引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時間内ニ之ヲ訊問スヘシト定メタル

理由及ヒ其時間ヲ經過シタルトキノ處分如何

答

拘引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ召喚狀ヲ受ケテ之ニ應セサル者方又ハ第七十二條ノ規定ニ依リ直チニ拘引狀ヲ以テ拘引シタル者ナレハ若シ召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ト同シク引致ノ其當日訊問ヲ終了セサルニ於テハ之ヲ放還スルトセン乎或ハ罪證ヲ湮滅シ或ハ逃亡スル等ノ恐れナシトセス然ラハ直チニ拘留狀ヲ發セン乎之ヲ發スルハ敢テ法律ノ禁スル處ニ非サレハ元ト拘留狀ハ人權ヲ傷害スルコト最モ大ナレハ輕々シク之ヲ發スヘキモノニ非ス故ニ法律ハ實際ノ宜シキヲ得セシメンカ爲メ則チ詳言スレハ拘留狀ノ効力ハ余リ長キニ過キ人權ヲ害スルコト甚シク召喚狀ノ効力ハ余リ短クシテ充分ノ取調ヲ爲スニ足ラサランコトヲ恐レ其宜シキヲ得セシメンカ爲メ拘引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時間留置スルコトヲ得ルモノト定メタリ然レ其四十八時間内ニ取調ヲ終ルコト能ハサルトキハ更ニ拘留狀ヲ發スルニ非サレハ即チ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノ

ト思料スルニ非サレハ當然釋放スヘキモノトス蓋シ拘引狀ハ拘留狀ノ如ク數十日間拘留スヘキ効力ヲ有スルモノニアラサルヲ以テ若シ之ヲ拘留ス丁久シキニ滿ルトキハ徒ニ被告人ノ自由ヲ妨害スルモノト謂フ可ケレハナリ但シ四十八時ノ起算點ハ令狀ヲ被告人ニ示シタル時ヨリ起算スルニ非スシテ之ヲ引致シタル時ヨリ起算スヘキモノトス何トナレハ既ニ逃ヘタルカ如ク拘引狀ハ日本國中何レノ地ニ於テモ之ヲ執行スルヲ得ルモノナレハ若シ遠隔ノ地ニ於テ之ヲ執行シタルトキハ未タ當該官吏ニ引致セサル前、業ニ已ニ其時間經過スルヲ是レナシトセサレハナリ

第七十四條 豫審判事又ハ受托判事ハ召喚狀又ハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病、其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ疏明シタルトキハ被告人ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得

○本條ハ召喚狀又ハ勾引狀ヲ受ケタル被告人病氣又ハ其他正當ノ事由ニ因リ之ニ應スルヲ能ハサルトキノ處分ヲ定メタルモノトス

疏明トハ辨明スルノ意ナリ

問 召喚狀又ハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病、其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スルヲ能ハサル場合トハ如何及ヒ此場合ニ於テ當該官吏ノ處分如何

答 被告人疾病、其他正當ノ事由アル場合トハ成ルヘク挾ク之ヲ解セサルヘカラス即チ茲ニ所謂疾病トハ微恙ヲ云フニアラス危篤ニシテ一切歩行シ能ハサルカ若クハ身体ヲ動搖スルヲ能ハサルカ如キ場合ヲ云フ又タ正當ノ事由トハ老親病癒ニ臥シ被告人ノ外他ニ看護スル者ナキ場合カ若クハ所屬長官ニ已チ得サル差支アリテ其令狀ヲ受ケタル軍人軍屬ヲシテ令狀ニ應セシムルヲ能ハサルカ如キ場合等ヲ云フ蓋シ是等ノ場合ニ於テハ假令被告人合狀ニ應セサルモ敢テ惡意アルニ非ス所謂萬已ムヲ得サルモノナルニ付キ被告人ニ於テ其事由ヲ疏明シタルハ豫審判事又ハ受托判事ハ自ラ被告人ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルヲ得ルモノトス否訊問セサルヘカラサルナリ

第七十五條 拘留狀ハ被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト思料スルニ非サレハ之ヲ發スルヲ得ス但被告人逃亡シタル場合ニ於テハ其訊問ヲ爲サスシテ之ヲ發スルヲ

拘留狀トハ被告人ヲ拘禁スル所ノ命令書ヲ云フ

ヲ得

○本條ハ拘留狀ヲ發ス可キ場合及ヒ其例外ヲ定メタルモノトス

問 拘留狀ハ被告人ヲ訊問シタル後其罪禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料シタルトキニ非サレハ之ヲ發スルヲ得サル理由及ヒ其例外如何

答 抑モ拘留狀ハ被告人ヲ拘禁シ以テ數日間其身体ノ自由ヲ束縛スルモノナレハ一應召喚狀ヲ以テ出廷セシムルカ又ハ勾引狀ヲ以テ引致シ充分ノ取調ヲ爲シタル後其被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料シタル時ニ非サレハ一應召喚狀ヲ以テ發スルヲ得ス蓋シ禁錮以上ノ刑ニ該ラサル者即チ罰金ノ刑以下ニ該ル者ヲモ尚ホ之ヲ勾禁スルヲ得ルモノトセハ其判決ニ因テ宣告セラルヘキ刑罰ヨリモ其豫審中身体ヲ拘束シタルモノ却テ重キニ失スルヲナシトセサレハナリ然レモ被告人逃亡シタル場合ニ於テハ其訊問ヲ爲サシテ即チ其事件禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノナルヤ否ヤ未ダ判然セサルトキト雖尙ホ拘留狀ヲ發スルヲ得何トナレハ若シ夫レ一旦逃亡シタル被告人ヲ容易ク放逸スルトキハ復タ

更ニ逃亡シテ遂ニ逮捕スルヲ得サルニ至ルヤモ知ルヘカラサレハナリ是レ拘留狀ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト思料スルトキニ非サレハ發スルヲ得サルヲ正則トスレモ尙ホ此例外ヲ設ケタル所以ナリ

第七十六條

總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名、職業、住所ヲ記載ス可シ但召喚狀ヲ除ク外其氏名分明ナラサルトキハ容貌、体格等ヲ明示ス可シ又令狀ニハ之ヲ發スル年、月、日、時ヲ記載シ判事、及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ

○本條ハ第一項第二項ニ於テ令狀ニ記載スヘキ事項ヲ定メ第三項ニ於テハ其令狀ヲ送達若クハ執行セシムヘキ人ヲ定メタリ

問 令狀調製ノ方式如何及ヒ其理由

答 總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名、職業、住所及ヒ之ヲ發スル年、月、

日、時ヲ記載シ判事及ヒ裁判所書記ノ署名捺印アルヲ要ス蓋シ被告事件及ヒ被

告人ノ氏名、職業、住所ヲ記載スル所以ノモノハ畢竟被告人ヲシテ如何ナル嫌疑ノ爲メ召喚若クハ勾引、拘留セラル、ヤチ知ラシメ且ツ其人違ノ患ヲ防カンカ爲メナリ換言セハ忘リニ人ヲ召喚又ハ勾引、拘留スルカ如キ不都合ナカラシメンカ爲メナリ年月日時ヲ記載スルハ送達者又ハ執行官吏ノ怠慢ヲ戒ムルト共ニ然ニ召喚狀ノ如キハ猶豫時間ヲ計算スルニ必要アルカ爲メナリ而シテ又判事及ヒ裁判所書記ノ署名捺印ヲ要スル所以ノモノハ相當官吏ノ發シタルモノナルヤ否ヤ即チ其令狀ノ眞偽如何ヲ顯表センカ爲メニ外ナラサルナリ然リ而シテ召喚狀ハ當ニ被告人ノ住所、氏名、分明ナル時ニ發スヘキモノナレハ必ス其住所、氏名ヲ記載セサルヘカラス則チ記載スルヲ得ヘシト雖勾引狀若クハ拘留狀ノ如キハ時トシテ被告人ノ住所、氏名、分明ナラサル時發スルヲアルテ以テ強チ之ヲ記載スルニ及バス否記載スルヲ能ハサルナリ故ニ斯ル場合ニ於テハ唯タ被告人ノ容貌、年令、体格、其爲人、等苟モ其本人タルヲチ徴知スル資料タルヘキモノヲ記載スルヲ以テ足レリトス是レ本條第一項ノ但書ヲ要スル所以ナリ

問 召喚狀ハ執達吏ヲシテ之ヲ送達セシメ其他ノ令狀ハ巡查、憲兵卒ヲシテ執行セシムル所以及ヒ送達ト執行トノ差違如何

答 既ニ述ヘタルカ如ク召喚狀ハ豫審判事ヨリ被告人ニ對シ某月日時ニ出廷スヘキ命令ヲ告知スルニ過キサルモノナレハ司法官ニアラサル公吏即チ執達吏ヲシテ之ヲ本人若シ其本人不在ナルトキハ同居ノ親屬又ハ雇人等ニ送達セシムレハ可ナリ然レモ勾引狀拘留狀ハ何レモ公力ニ藉リ強ヒテ其命令ヲ行ハシムルモノナルニ付キ其執行權ヲ有スル司法警察官タルヘキ巡查憲兵卒ヲシテ必ス被告本人ニ之ヲ執行セシメサルヘカラス是レ其性質上ヨリシテ召喚狀ハ執行權ナキ執達吏ヲシテ之ヲ送達セシメ其他ノ令狀ハ執行權ヲ有スル巡查憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシムト定メタル所以ナリ而シテ此執行ト云ヒ送達ト云フハ均シク令狀ニ記載シタル命令ヲ被告人ニ通知セシムルトニ相違ナシト雖二者自ラ其意義ヲ異ニス則チ執行トハ令狀ニ記載スル命令ノ如ク強行スルノ謂ヒニシテ送達トハ單ニ命令ヲ傳告スルノ謂ヒナリ(余カ茲ニ所謂執行權ヲ有スル者トハ強行スルノ

權ヲ有スル者ト知ルヘシ)

第七十七條 勾引狀、拘留狀ハ時宜ニ因リ正本數通ヲ作り巡查、

憲兵卒數人ニ分付スルコトアル可シ

前項ノ令狀ヲ執行スルニハ被告人ニ正本ヲ示シ其謄本ヲ下付ス可シ其場合ニ於テハ其正本、謄本ニ執行ノ場所、日時ヲ記載シ被告人ヲシテ署名捺印セシム可シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

○本條ハ第一項ニ於テ勾引狀、拘留狀ヲ發スルトキノ手續ヲ定メ第二項ニ於テハ其執行ノ手續ヲ定メタリ

問 時宜ニ因リ勾引狀、拘留狀ハ正本數通ヲ作り數多ノ巡查、憲兵卒ニ分付スル所以如何

答 被告人ノ所在分明ナルトキハ直チニ其所在ニ就テ之ヲ執行スルコト得ルヲ以テ敢テ數通ヲ作ルノ必要ナシト雖若シ被告人逃亡スルカ或ハ又タ急速ヲ要スル事件ニシテ片時モ速カニ被告人ヲ捕縛スルノ必要アルモ其居所分明ナラサルトキハ數通ノ令狀ヲ作り之ヲ數名ノ巡查、憲兵卒ニ分付シ諸方ヲ探索セシメザル

可カラス是レ本條時宜ニ因リ云々ノ規定アル所以ナリ

問 令狀ヲ執行スル手續如何

答 勾引狀、拘留狀ヲ執行スルニハ被告人ニ正本ヲ示シ其謄本ヲ下付スヘシ而シテ其場合ニ於テハ其正本、謄本ニ執行ノ場所、日時ヲ記載シ被告人ヲシテ署名捺印セシムヘキモノトス蓋シ正本ヲ示スハ當該官吏ノ命令ニ相違ナキコト被告人ニ承認セシムル爲メニシテ其謄本ヲ下付スルハ果テ被告人ニ其命令ヲ傳ヘタルヤ否ヤヲ後日ニ証左センカ爲メナリ又其正本、謄本ニ執行ノ場所、日時、ヲ記載シ被告人ヲシテ署名捺印セシムル所以ノモノハ益々之ヲ確實ナラシメンカ爲メニ外ナラサルナリ但署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スルヲ以テ足レリトス

第七十八條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查、憲兵卒ハ被告人其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト思料シタルトキハ其地ノ市町村長又其差支アルトキハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求め之ヲ搜索ス可シ

搜索調書トハ
搜索シタル手
續書ヲ云フ
公開時間トハ
營業時間ヲ云
フ

前項ノ場合ニ於テハ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ハラヌ捜索調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ
家宅搜索ハ日出前、日没後之ヲ爲スヲ得ス但旅店、割烹店、其他夜間ト雖衆人ノ出入スル場所ニ付テハ其公開時ニ限り何時ニテモ搜索ヲ爲スコトヲ得

○本條ハ令狀ヲ受クヘキ被告人カ家宅内ニ潛匿シタリト思料シタルトキ其令狀執行ノ命ヲ受タル巡查、憲兵卒、家宅搜索ヲ爲ス時又ハ爲シタル時ノ手續及ヒ其之ヲ爲ス時間ノ制限ヲ規定シタルモノトス

問 令狀ヲ受クヘキ被告人家宅内ニ潛匿シタリト思料シタルトキハ其執行ノ命ヲ受タル巡查憲兵卒ノ處分如何

答 巡查、憲兵卒ハ令狀執行ノ權利ヲ有スルモノナルニ付キ被告人之レカ執行ヲ免レント欲シ自己ノ家宅若クハ他人ノ家宅内ニ潛匿シタリト思料スルトキハ直チニ其家宅内ニ侵入シテ之ヲ搜索スルヲ得ルモノ、如シ否ナ假令ヒ令狀執行ノ爲メナリトモ妄リニ人ノ家宅ニ侵入ス可カラサルハ論ヲ俟タヌ故ニ之ニ侵

入シテ被告人ヲ搜索セント欲セハ必ス其地ノ市町村長又ハ隣佑二名以上、立會ヲ求メサル可ラス而シテ此場合ニ於テハ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ハラヌ搜索調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印スヘキモノトス蓋シ如此手續ヲ爲スヘシト定メタル所以ノモノハ畢竟法律ハ猥リニ官權ヲ弄シテ專恣ノ處分ヲ爲スニ非スシテ公益上萬已ムヲ得サルニ出テタルモノナルヲ表白センカ爲メノ主旨ニ基キタルモノトス但此規定ハ單ニ被告人ノ潛匿シタルナラント思料シタル場合ニ付テノ制限ナルカ故若シ現ニ被告人ノ家宅内ニアルヲ確認シタル場合ニ於テハ直チニ家宅内ニ入り令狀ノ執行ヲ爲シ得ヘキヲ勿論ナリト知ルヘシ

問 家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲スヲ禁シタル理由如何

答 日出前日没後ニ於テ家宅搜索ヲ禁シタル所以ハ必竟安眠ヲ妨害セザランカ爲メノ主旨ニ出テタルモノトス故ニ夜間ト雖尙ホ衆人ノ出入スル旅店、割烹店、其他貸座敷等ノ如キ場所ニ付テハ假令夜間ト雖其公開時間内ニ之レカ搜索ヲ爲ス敢テ妨ケナシトス而シテ茲ニ所謂日出前日没後トハ曆ニ從フカ將々實地ニ依

ルヘキカト云フニ余ハ寧ロ實地ニ依ルヲ可トス又公開時間内トハ各府縣ノ特別法ニ因リテ差違アリト知ルヘシ蓋シ此規定ハ唯々強制執行ノ場合ニ付テ、制限ナレハ戸主又ハ管主者ノ承諾ヲ得タルトキハ其時間ノ如何ニ係ハラス之ヲ爲スヲ得ヘルヤ勿論ナリトス

第七十九條 豫審判事ハ被告人他ノ管轄地内ニ潜匿シタルコトヲ知リ又ハ潜匿シタル場合ニ於テ被告事件急速ヲ要スルトキハ**巡查**、**憲兵卒**ニ令狀ヲ帶行セシムルヲ得、**巡查**、**憲兵卒**ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事、**檢事**又ハ**司法警察官**ニ令狀ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ム可シ

○本條ハ第一項ニ於テ被告人他ノ管轄地内ニ潜匿シタルコトヲ知リ又ハ潜匿シタルト思料シタルトキ豫審判事カ令狀ヲ發スル場合又ハ方法ヲ定メ第二項ニ於テハ其令狀ヲ受タル**巡查**、**憲兵卒**ノ執行手續ヲ規定シタリ

問 被告人他ノ管轄地内ニ潜匿シタルコトヲ知リ又ハ潜匿シタルト思料シタル場合ニ於テ被告事件急速ヲ要スルトキハ豫審判事ノ處分如何

答 豫審判事ハ被告人自己ノ管轄地外ニ潜匿シ居ルコトヲ認知スルカ又ハ潜匿シタルト思料シタルトキハ第七十條ノ規定ニ從ヒ其被告人所在地ノ豫審判事又ハ區裁判所**檢事**ニ被告事件ヲ明示シテ之レカ處分ヲ囑托スルヲ以テ通常ノ手續ト爲ス然レモ被告事件重大ニシテ且ツ急速ヲ要スル場合ニ於テハ之レカ囑托ヲ爲スノ違アヲサルヲ以テ直チニ**巡查**、**憲兵卒**ニ令狀ヲ携帶セシメ被告人所在地ニ派遣スルコトヲ得ヘキモノトス

問 令狀ヲ帶行シタル**巡查**、**憲兵卒**ハ被告人所在地ノ豫審判事、**檢事**又ハ**司法警察官**ニ令狀ヲ示シ即時ニ執行ヲ求ムヘシト定メタル理由如何

答 既ニ述ヘタルカ如ク令狀ハ日本國中何レノ場所ニ於テモ之ヲ執行スルコトヲ得ル效力アル而已ナラス殊ニ本條ノ場合ハ事急速ヲ要スルトキナルニ付令狀ヲ帶行シタル**巡查**、**憲兵卒**ヲシテ直チニ之レカ執行ヲ爲サシメハ時機ヲ過マルコトナキヲ以テ被告人ヲ逮捕スル點ニ於テハ大ニ利益アリトス夫レ如此利益アルニ係ハラス直チニ之ヲ執行スルヲ許サス必ス被告人所在地ノ豫審判事、**檢事**又ハ

司法警察官ニ令狀ヲ示シテ之レカ執行ヲ求ムヘシト定メタル所以ハ畢竟法律ハ濫リニ人ノ自由ヲ奪ハサラシメントノ主旨ニ外ナラサルナリ之ヲ詳言スレハ元ト巡査、憲兵卒ハ各其任用セラレタル地方ニ於テ上官ノ指揮ニ從ヒ職務ニ服事スヘキモノナルカ故自ラ其職務ヲ行フニ付キ管轄ノ區域アルヲ以テ巡査憲兵卒ハ先ツ被告人所在地ヲ管轄スル當該官吏ニ其令狀ヲ示シ以テ其令狀ハ式ニ從ヒタルモノナルカ、令狀ノ帶行者ハ之ヲ執行スルノ身分アルモノナルカ、令狀ニ因テ逮捕セントスル人ハ其令狀ノ指名者ニ相違ナキカ、等ヲ檢認セシメ果テ相違ナキニ於テハ即時ニ其執行ヲ求メサルヘカラサルナリ

第八十條 豫審判事ハ被告人所在ノ地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ各檢事ニ被告人ノ人相書ヲ送致シ搜索及ヒ逮捕ヲ爲ス可キコトヲ請求スルヲ得
請求ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地内ノ檢事ヲシテ搜索及ヒ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ此場合ニ於テ檢事ノ發シタル逮捕狀ハ拘留狀ト同一ノ効ヲ有ス

逮捕トハ被告
ハヲ捕ヘシム
ル命令書ヲ云

問 被告人ノ所在分明ナラサルトキハ豫審判事ハ如何ナル手續ヲ爲スヘキ乎及ヒ之レカ請求ヲ受ケタル檢事長ノ處分如何

答 豫審判事ハ犯罪事件ノ起訴ヲ受ケタルトキハ直チニ證據ヲ蒐集シテ實ヲ取調ベ以テ之レカ審査ヲ遂ケサルヘカラス夫レ然リ然レ若シ被告人ノ氏名若クハ其所在分明ナラサルトキハ之ヲ審査スルニ由ナカルヘシ故ニ如斯場合ニ於テハ被告人ノ人相書ヲ作り之ヲ各檢事長ニ送致シ以テ捜査及ヒ逮捕ヲ請求スヘキモノトス而シテ之レカ請求ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地内ノ檢事ヲシテ搜索及ヒ逮捕ノ處分ヲ爲サシメサル可カラス但シ其ノ場合ニ於テ檢事ノ發シタル逮捕狀ハ拘留狀ト同一ノ効力ヲ有スルモノナリ蓋シ如此規定シタル所以ノモノハ元來犯人ノ逮捕及ヒ捜査ノ處分ヲ爲スハ檢事ノ職務ニシテ此檢事ヲ指揮監督スルモノハ檢事長ナルヲ以テ豫審判事ニシテ各控訴院檢事長ニ犯人ノ逮捕及ヒ捜査ヲ

○本條ハ被告人ノ所在分明ナラサルトキ豫審判事カ爲スヘキ手續及ヒ其請求ヲ受ケタル檢事長ノ行フヘキ處分ヲ規定シタルモノトス

請求スルトキハ各控訴院檢察長ハ其管轄區劃ニ從ヒ各地方裁判所及ヒ區裁判所ノ檢事ニ之レカ命令ヲ下シ犯人ノ逮捕及ヒ搜索ヲ爲サシムルニ因リ假令ヒ被告ノ所在分明ナラスト雖容易ニ之ヲ覺知シテ逮捕スルヲ得ヘキヲ以テナリ

第八十一條 豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍屬ニ對シ令狀ヲ發シタルトキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ令狀ヲ示ス可シ其長官又ハ隊長ハ已ムコトヲ得サル差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速カニ令狀ニ應セシム可シ

○本條ハ軍人軍屬ニ對スル令狀執行ノ手續及ヒ其所屬ノ長官又ハ隊長ノ處分ヲ規定シタルモノトス

問 常備ノ軍人軍屬ニ對シ令狀ヲ發スルトキハ其所屬長官又ハ隊長ニ令狀ヲ示サ、ルヘカラサル理由及ヒ此場合ニ於テ其長官又ハ隊長ノ處分如何

答 抑モ令狀ナルモノハ(召喚狀ヲ除ク)公力ヲ以テ執行スヘキモノナレハ被告人ヲ認知スルヤ否ヤ直チニ令狀ヲ示シテ之ヲ執行スルヲ一般ノ規則トス然ルニ本條ニ於テハ被告人軍人軍屬ナルトキハ直チニ之レカ執行ヲ許サス先ツ其所屬長

第六條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄長ヲ令狀又ハ官告書ヲ發シテ之ヲ領シ關シテ之ヲ引致シ其收證ヲ交シテ來タル者ニ對シタル後入監セシムルハ其引致シタル者ハ入監セシムルハ

官又ハ隊長ニ其令狀ヲ示スヘキ旨ヲ定メタリ是レ必竟其軍人軍屬ヲシテ令狀ニ應セシムルモ軍務ニ差支ナキヤ否ヤヲ取調ブルノ便宜ヲ長官ニ得セシメンカ爲メ而已ナラス又々長官ニハ其軍人軍屬ノ令狀ヲ受クル原由即チ如何ナル犯罪ヲ爲シタルヤ否ヤヲ了知スルノ必要アルヲ以テナリ故ニ長官又ハ隊長ハ之ヲ取調べ果テ差支ナシト意思スルトキハ即チ已ムコトヲ得サル差支アルニ非サレハ直チニ本人ヲシテ令狀ニ應セシメサルヘカラサルナリ但シ明治十八年五月第十二號布告ヲ以テ軍人軍屬ノ犯罪ニ付テハ假令ヒ常事犯ニ係ルトキト雖軍法會議ニ於テ審判スト定メラレタルヲ以テ軍人軍屬ノ犯罪ニ係ルトキハ豫審判事ハ假令所屬長官又ハ隊長ノ認可ヲ得一旦令狀ヲ執行シタリト雖結局其事件ヲ軍術ニ讓ラサルヲ得サルモノト知ルヘシ

第八十二條 拘留狀ヲ受ケタル被告人ハ速カニ其令狀ニ記載シタル監獄署ニ引致ス可シ若シ其監獄署ニ引致スルコト能ハサル片ハ假ニ最近ノ監獄署ニ引致スルコトヲ得何レノ場合ニ於テモ監獄署長ハ令狀ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取り其証書ヲ渡ス可シ

○第三編、犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

○本條ハ拘留狀ヲ受ケタル被告人ヲ引致スヘキ場所及ヒ其引致シタル監獄署長ノ爲スヘキ手續ヲ規定シタルモノトス

問 拘留狀ヲ受ケタル被告人ノ處分如何及ヒ其例外

答 拘留狀ヲ受ケタル被告人ハ速ニ其令狀ニ記載シタル監獄署ニ引致セサルヘカラス蓋シ勾留狀ハ被告人ノ身体ヲ拘束監禁スル令狀ナル而已ナラス拘留狀ヲ受ケタル被告人ハ或ル例外ヲ除クノ外召喚狀若クハ拘引狀ヲ以テ出廷セシメ一應訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト思料シタルモノナレハ其逃亡ヲ防カンニハ之ヲ拘置監ニ收禁シ宜シク其取締ヲ嚴密ニセサルヘカラス夫レ然リ然レレ被告人病氣其他ノ理由ニ因リ其令狀ニ記載シタル監獄署ニ引致スルコト能ハサルハ假リニ最近ノ監獄署ニ引致スルコト得ヘキモノトス但茲ニ所謂最近ノ監獄署トハ裁判所警察署又ハ憲兵屯所ニ設ケタル留置場ヲモ含有スルモノト知ルヘシ

問 拘留狀ヲ受ケタル被告人ヲ入監セシムルトキ監獄署長ノ手續如何

答 拘留狀ヲ受ケタル被告人ヲ引致シ來リタルトキハ令狀ニ記載シタル監獄署ナルト最近ノ監獄署ナルトヲ問ハス其監獄署長ハ監獄則第六條ニ從ヒ先ツ令狀ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取リ領收證書ヲ渡スヘキモノトス是レ必竟監獄署ニ拘留スルハ人ノ身体自由ヲ奪スコト夫レ大ナルヲ以テ苟モ入監者アルトキハ成ルヘク鄭重ノ手續ヲ爲シ其人逃テキヤ否ヤヲ吟味セシムル所以ナリ

第八十三條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查、憲兵卒ハ之ヲ執行シタルコト又ハ執行スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ令狀ノ正本ニ記載ス可シ

巡查憲兵卒ハ令狀執行ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出ス可シ

○本條ハ令狀執行ニ關シ其命ヲ受ケタル巡查憲兵卒ヲ爲スヘキ手續ヲ規定シタルモノトス

問 令狀ヲ執行シ又ハ執行スルコト能ハサルトキ其命ヲ受ケタル巡查憲兵卒ノ爲スヘキ手續如何

答 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查憲兵卒ハ之ヲ執行シタルコト即チ第七十七條第二

項ノ手續ヲ爲シ又ハ執行スルヲ能ハサルトキハ其事由即チ被告人ハ既ニ逃亡シテ云々等ノ事ヲ詳細ニ令狀ノ正本ニ記載セサルヘカラス加之ナラス又其執行ニ關スル書類一切ヲ檢事ニ差出シ以テ其首尾ヲ具申スヘキモノトス蓋シ其首尾ノ如何ニ依リテハ檢事ハ又更ニ相當ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラサルヲ以テナリ

**第八十四條 拘留狀ヲ受クヘキ被告人既ニ監獄ニ在ルトキハ執
達吏ヲシテ之ヲ本人ニ送達セシム**

○本條ハ在監中ノ被告人ニ對シ勾留狀送達ノ方法ヲ規定シタルモノトス

問 監獄署内ニ在ル被告人ニ勾留狀ヲ發スルトキハ執達吏ヲシテ之ヲ送達セシムル所以如何

答 巡査憲兵卒ヲシテ勾留狀ヲ執行セシムルハ被告人ノ逃亡ヲ防キ犯罪ノ證據ヲ湮滅スルヲ制センカ爲メニ外ナラス故ニ被告人既ニ監獄署内ニ在ルトキハ敢テ逃亡及ヒ罪證湮滅ノ恐れナキヲ以テ別ニ巡査憲兵卒ヲシテ強制執行セシムルノ必要ナシ是レ即チ監獄署内ニ在ル被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルトキハ執達吏ヲ

監獄則

第三十二條 囚人
懲治人及ヒ刑事
被告人現行ノ法
律命令書ヲ看シ
テ請フトキハ之
ヲ許ス
(二項略)
刑事被告人書籍
ヲ看シテフ請ト
キハ總テ之ヲ許
ス但總テ外ノ書
籍ハ當該裁判官
ノ承認ヲ經ヘキ
モノトス
新聞紙及ヒ時事
ノ論說ヲ記スル
モノハ前二項ノ
例ニ非ス
第三十四條 懲治
人及ヒ囚人ノ被
治人ヨリ送リ來
ル書類又ハ外
人ヨリ送リ來ル
書類ハ其書類
檢閱スルニ當リ
中ノ不正不實ニ
妨グルモノト
シテ發付スル
ヲ許サズ但刑

シテ被告本人ニ送達セシムル所以ナリ

**第八十五條 密室監禁ノ場合ヲ除ク外被告人ハ監獄則ニ從ヒ官
吏ノ立會ニ依リ其親屬故舊又ハ辨護士ニ接見スルコトヲ得
書翰書籍其他ノ書類ハ豫審判事又ハ檢事ノ檢閱ヲ經タル後ニ
アラサレハ被告人ト外人ト之ヲ授受スルコトヲ許サズ但豫審
判事又ハ檢事ハ其書類ヲ留置クコトヲ得**

○本條ハ監獄内ニ拘留セラレ居ル被告人ト外人トノ接見及ヒ文書授受ノコトヲ規定シタルモノトス

問 在監中ノ被告人ハ官吏ノ立會アルニ非サレハ外人ト接見スルコト又ハ安リニ文書ヲ授受スルコトヲ許サ、ル理由及ヒ豫審判事又ハ檢事カ其書類ヲ留置スルコトヲ得ル場合如何

答 抑モ言語文書ノ交通ヲ杜絶シテ心意上ニ苦痛ヲ與ユルハ實ニ人生天賦固有ノ自由ヲ剝奪スルモノニシテ素ヨリ自然ノ條理ニ適シ人間ノ大法ニ適ヒタルモノト云フ可カラス夫レ然リ然ルニ本條ニ於テハ在監中ノ被告人即チ未決囚徒ハ官